まごころで健康を

総合検査案内

2020-21

索引（五十音順）

索引（五十音順）

索引（アルファベット順）

索引（アルファベット順）

索引 （ギリシャ文字・数字順）

ご利用の手引き

取引のお申し込み方法

ご利用の際は、最寄りの営業所または地域ラボラトリーまでご連絡いただければ、営業担当者がお伺いいたします。
（営業所の所在地および連絡先は裏表紙に記載しています。）

検査のご依頼方法

検査のご提出にあたっては当社所定の検査依頼書および採取容器をご使用ください。
なお、検査依頼書および採取容器は最寄りの営業所または地域ラボラトリーまでお申し付けください。

【検査依頼書のご記入方法】

①氏名（患者名）および担当医名はカタカナでご記入ください。
②性別は☑にV印を付けてください。
③生年月日をご記入ください。
④採取日・採取時間をご記入ください。
⑤身長・体重をご記入ください。（必要時）
⑥検査材料が蓄尿の場合は尿量（一日排泄量）をご記入ください。
⑦妊娠の場合、妊娠週数をご記入ください。（必要時）

検査依頼書は複写式です。ボールペンで強めにご記入ください。
ご希望の検査項目の☑にV印を付けてください。検査依頼書に記載のない検査項目は、「検査項目」又は、「ご要望事項」欄にご記入ください。
ご記入が終われば、検査依頼書の２枚目を控えとして１枚目を御提出ください。なお、この控えは検体受領書に代えさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

《記入例》

【検体ラベル】 検体ラベルに貴院名・患者名・年令・性別・材料名・検体を採取した日付および時刻・検査項目名等を記入してください。

【報　告　書】 検査のご依頼内容に応じて次のような報告書にてご報告いたします。

① 検査報告書（定型報告書）
② 一般細菌検査報告書
③ 抗酸菌検査報告書
④ アレルギー検査報告書
⑤ 酵素・リポ蛋白分画報告書
⑥ ウイルス肝炎報告書
⑦ 病理組織報告書
⑧ 細胞診報告書
⑨ 骨塩定量検査報告書
⑩ その他

本書記載項目のご説明

【検査項目の分類】 医学系専門書の分類に準じて分類しています。

【検　査　コ　ー　ド】 当社の登録用コードです。

【検査項目の名称】 日本臨床検査医学会の臨床検査項目分類コードなどを参考にして決めており、すでに日本語化している外国語はそのままとし、それ以外のものは、米・英語読みに従いました。
ただし、アミラーゼアイソザイムのようにほぼ日本語化している検査項目については慣例に従い、検査項目名称にいたしました。

【検　　体　　量】 検査項目ごとに検査材料および必要量を記載しています。
「血清」または「血漿」と記載した検査項目は記載量の約３倍の血液量を目安として採血してください。また、「蓄尿」と記載した検査項目は、冷暗所で24時間蓄尿し、ご提出時によく混和し、尿量を計測して検査依頼書にご記入のうえ必要量をご提出ください。

【保　存　条　件】 検査項目によって、凍結・冷蔵・室温など検査材料の保存条件が異なります。保存条件が正しくないと測定値に影響することがありますのでご注意ください。

凍結：凍結（－20～－5℃）保存が望まれます。　冷蔵：4～14℃で保存してください。
室温：15～30℃で保存してください。

【採　取　容　器】 検査項目ごとに容器を指定しています。お手元にない場合は営業担当者にお申し付けください。
また、資料欄に専用容器の種類と採取上の注意点を載せています。併せてご参照ください。
●指定容器以外でご出検の場合は、検査結果に影響を与えることが考えられます。
●感染症検査は、汚染の影響を受けやすい検査法があります。検体採取・検体取り扱いにはご注意ください。

ご利用の手引き

【実施料・判断料】
検体検査料は検体検査実施料と検体検査判断料に区分されております。
検体検査判断料は各項目ごとに実施料の下に尿・糞便～病理の略号で表記しております。
注）１．検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数にかかわらず各々月1回に限り算定できる。
　　２．上記1.の規定にかかわらず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料（34点）は算定しない。
　　３．同一区分の判断料は、入院・外来又は診察料の別にかかわらず月1回の算定とする。
患者から1回に採取した血液を用いて、下記にあげた項目を複数検査行なった場合は、それぞれの点数にかかわらず、検査の項目数に応じて点数が包括されます。
※保険点数の○○○○□□は各分野ごとの包括になる項目を表します。包括項目と項目数ごとの点数は下記のとおりです。

検体検査判断料		
区1：尿・糞便等検査判断料	34点	尿・糞便
区2：遺伝子関連・染色体検査判断料	100点	遺 伝 子
区3：血液学的検査判断料	125点	血 液
区4：生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点	生 化 Ⅰ
区5：生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点	生 化 Ⅱ
区6：免疫学的検査判断料	144点	免 疫
区7：微生物学的検査判断料	150点	微 生 物
病理診断		
病理判断料	150点	病 理

★保険点数は平成30年4月1日改正によるものです。

①生化学的検査（Ⅰ）

項目数	実施料
イ）5項目以上7項目以下	93
ロ）8項目又は9項目	99
ハ）10項目以上	109

総ビリルビン	カルシウム	総鉄結合能（TIBC）（比色法）
直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	マグネシウム	リン脂質
総蛋白	クレアチン	HDLーコレステロール
アルブミン	グルコース	無機リン及びリン酸
尿素窒素	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	総コレステロール
クレアチニン	アミラーゼ	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST（GOT））
尿酸	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT（GPT））
アルカリホスファターゼ（ALP）	クレアチンキナーゼ（CK）	LDLーコレステロール
コリンエステラーゼ（ChE）	アルドラーゼ	蛋白分画
γーグルタミルトランスフェラーゼ（γーGT）	遊離コレステロール	銅（Cu）
中性脂肪	鉄（Fe）	リパーゼ
ナトリウム及びクロール	血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）	イオン化カルシウム
カリウム	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	マンガン（Mn）

②生化学的検査（Ⅱ）

項目数	実施料
イ）3項目以上5項目以下	410
ロ）6項目又は7項目	623
ハ）8項目以上	900

成長ホルモン（GH）	プロゲステロン	副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）
卵胞刺激ホルモン（FSH）	Ⅰ型コラーゲン架橋NーテロペプチドN（NTx）	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
Cーペプチド（CPR）	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
黄体形成ホルモン（LH）	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）
アルドステロン	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	カテコールアミン
テストステロン	オステオカルシン（OC）	17-ケトジェニックステロイド（17-KGS）
遊離サイロキシン（FT_4）	遊離テストステロン	エリスロポエチン
遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	インタクトⅠ型プロコラーゲンNプロペプチド（Intact PⅠNP）	17-ケトステロイド分画（17-KGS分画）
コルチゾール	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量	17α-ヒドロキシプロゲステロン（17α-OHP）
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	Ⅰ型コラーゲン架橋CテロペプチドNβ異性体（βCTX）（尿）	抗IA-2抗体
サイログロブリン	Ⅰ型プロコラーゲンNプロペプチド（PⅠNP）	プレグナンジオール
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	セクレチン	メタネフリン
脳性Na利尿ペプチド（BNP）	Ⅰ型コラーゲン架橋Cテロペプチドβ異性体（β-CTX）	ソマトメジンC
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	副甲状腺ホルモン（PTH）	17-ケトジェニックステロイド分画（17-KGS分画）
ヒト絨毛性ゴナドトロピンーβサブユニット（HCG-β）	カテコールアミン分画	メタネフリン・ノルメタネフリン分画
カルシトニン	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	心房性Na利尿ペプチド（ANP）
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	サイクリックAMP（cAMP）	プレグナントリオール
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量	エストラジオール（E_2）	抗利尿ホルモン（ADH）
サイロキシン結合能（TBC）	エストリオール（E_3）	ノルメタネフリン
ヒト胎盤性ラクトーゲン（HPL）	エストロゲン半定量	インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）
グルカゴン	エストロゲン定量	遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画

③腫瘍マーカー

項目数	実施料
イ）2項目	230
ロ）3項目	290
ハ）4項目以上	408

癌胎児性抗原（CEA）	Span-1	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
αーフェトプロテイン（AFP）	シリアルTn抗原（STN）	CA54/61
扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	神経特異エノラーゼ（NSE）	癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）
組織ポリペプタイド抗原（TPA）	核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）	CA602
DUPAN-2	核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）
NCC-ST-439	シリアルLe^{X}-i抗原（SLX）	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）
CA15-3	塩基性フェトプロテイン（BFP）	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）
エラスターゼ1	遊離型PSA比（PSA　F/T比）	可溶性メソテリン関連ペプチド
前立腺特異抗原（PSA）	サイトケラチン8・18（尿）	癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）
CA19-9	BCA225	癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）
PIVKA-Ⅱ半定量	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	HER2蛋白
PIVKA-Ⅱ定量	抗p53抗体	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）
CA125	シリアルLe^{x}抗原（CSLEX）	
CA72-4	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）	

④肝炎ウイルス

項目数	実施料
イ）3項目	290
ロ）4項目	360
ハ）5項目以上	438

HBs抗原	HCVコア抗体	HCV血清群別判定
HBs抗体	HA-IgM抗体	HBVコア関連抗原（HBcrAg）
HBe抗原	HA抗体	デルタ肝炎ウイルス抗体
HBe抗体	HBc-IgM抗体	HCV特異抗体価
HCV抗体　定性・定量	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性	HBVジェノタイプ判定
HCVコア蛋白	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	
HBc抗体　半定量・定量	HE-IgA抗体定性	

⑤自己抗体価

項目数	実施料
1）2項目	320
2）3項目以上	490

抗Jo-1抗体　定性・半定量・定量	C1q結合免疫複合体	抗ARS抗体
抗サイログロブリン抗体	抗SS-B/La抗体　定性・半定量・定量	抗MDA5抗体
抗RNP抗体　定性・半定量・定量	抗Scl-70抗体　定性・半定量・定量	抗TIF1-γ抗体
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗SS-A/Ro抗体　定性・半定量・定量	抗Mi-2抗体
抗Sm抗体　定性・半定量・定量	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	

⑥出血・凝固検査

項目数	実施料
イ）3項目又は4項目	530
ロ）5項目以上	722

Dダイマー定性	凝固因子インヒビター	プロトロンビンフラグメントF1＋2
プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	von Willebrand因子（VWF）抗原	トロンボモジュリン
Dダイマー半定量	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）	凝固因子（Ⅱ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ・ⅩⅢ）
von Willebrand因子（VWF）活性	プロテインS抗原	フィブリンモノマー複合体
Dダイマー	プロテインS活性	プロテインC抗原
α2-マクログロブリン	β-トロンボグロブリン（β-TG）	tPA・PAI-1複合体
PIVKA-Ⅱ	血小板第4因子（PF_4）	プロテインC活性
	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	

ご利用の手引き

【所　要　日　数】　検体をお預かりした翌日を起算日として報告書をお手元にお届けするまでの日数です。土曜日は含みますが、日・祝祭日は含みません。なお、依頼検査項目の組合せにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。また、再検査に必要な所要日数は含まれておりませんので、検査項目により遅れる場合があります。あらかじめご了承ください。

【基　　準　　値】　「正常参考値および判定基準」は本書では「基準値」として表示しています。

【単　位　記　号】

L	liter	EU	ELISA unit
d L	deciliter（=0.1L）	M	mol/L
m L	milliliter（=0.001L）	mmol	millimole（=0.001mol）
fL	femtoliter（$=10^{-15}$L）	μmol	micromole（$=10^{-6}$mol）
μL	microliter（$=10^{-6}$L）	nmol	nanomole（$=10^{-9}$mol）
g	gram	pmol	picomole（$=10^{-12}$mol）
mg	milligram（=0.001g）	fmol	femtomole（$=10^{-15}$mol）
μg	microgram（$=10^{-6}$g）	mm^3	cubic millimeter（立方ミリメートル）
ng	nanogram（$=10^{-9}$g）	μ^3	cubic micron（立方マイクロ）
pg	picogram（$=10^{-12}$g）	mOsm	milliosmole
U	unit	mEq	milliequivalent（ミリ当量）
mU	milliunit（=0.001U）	Meq.	Mega equivalents（10^6当量）
μU	microunit（$=10^{-6}$U）	%	percent
IU	international unit	‰	permill
mIU	milli-international unit（=0.001IU）	U_A	unit allergen
AU	arbitrary unit	cpm	count per minute
BU	Bethesda unit		

【検査目的および異常値を示す主な疾患】　参考としてご利用ください。ただし、必ずしも保険対象疾患ではありませんのでご注意ください。

検体受領と搬送

検体は検査依頼書とともにお預かりいたします。なお、検査依頼書1枚目の「病医院用控え」を検体受領書に代えさせていただきますので、貴院にて保管してくださいますようお願いいたします。

検体受領場所　〔　　　　　　　　　　〕
検体平均搬送時間〔約　　　時間　　　　分〕

検体の保管

お預かりいたしました検体は、当社規定に基づき一定期間保管し、再検査や追加検査のご要望にお応えしております。また、保管期間を過ぎた検体につきましては、当社で適切に処分させていただきます。検査済み検体の返却を希望される場合は、当社営業担当者にお問い合わせください。なお、（社）日本衛生検査所協会の統一見解に則り、当社では第三者への検体分与は実施いたしません。

測定委託先

●一部の項目につきましては、他施設に外部委託しております。
委託先は、下記の記号で表示しています。

M　株式会社LSIメディエンス
L　株式会社ビー・エム・エル
R　株式会社エスアールエル

※検査報告書におきまして検査実施施設および最終委託先を記号で表示しています。
最終委託先までの平均搬送時間
M〔約　　時間〕　L〔約　　時間〕　R〔約　　時間〕

●一部の検査を当社・地域拠点ラボラトリーにて検査実施の上、ご報告しております。
地域拠点ラボラトリーは以下の通りです。
長岡ラボラトリー　　新潟ラボラトリー　　前橋ラボラトリー

検査結果のご報告

●原則として当社の営業担当者が報告書を直接お届けいたします。
●緊急報告をご希望の際は、検査依頼時にあらかじめご指示をお願いいたします。
検査結果が出次第、電話またはFAXで直接ご連絡させていただきます。
●検査結果が当社の設定する緊急報告を要する範囲（18ページ）に入った場合、電話またはFAXで直接ご連絡させていただきます。

再検査

●当社再検基準に基づいて、再検査を実施します。
●最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足の為、再検査に応じられないことがあります。

検査結果のお問い合わせ

検査結果や検査内容などに関するお問い合わせ、ご意見、ご指摘などにつきましては、最寄りの営業所または地域ラボラトリーへご連絡ください。

検査料金のお支払方法

請求書をお引き合わせのうえ、請求書に記載した指定の銀行口座へお振り込みください。
預金口座自動振り替えでのお支払いも可能です。担当営業員にお申し付けください。

衛生検査所の登録

【名　　称】　金沢ラボラトリー
【登録業務】　微生物学的検査（①・②・③）、血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①・②・③・④・⑤）、寄生虫学的検査（①）、生化学的検査（①・②）
【所 在 地】　石川県金沢市近岡町309番地

【名　　称】　長岡ラボラトリー
【登録業務】　微生物学的検査（①）、血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①・②・③）、生化学的検査（①・②）
【所 在 地】　新潟県長岡市石動南町13番12

【名　　称】　新潟ラボラトリー
【登録業務】　血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①）、生化学的検査（①・②）
【所 在 地】　新潟市江南区亀田四ツ興野2丁目5番11号

【名　　称】　前橋ラボラトリー
【登録業務】　血清学的検査（①・②）、血液学的検査（①・②・③）、病理学的検査（①・②・③）、生化学的検査（①・②）
【所 在 地】　群馬県前橋市天川大島町1483番1

一次分類	二次分類
微生物学的検査	①細菌培養同定検査、②薬剤感受性検査、③病原体遺伝子検査
血清学的検査	①血清学検査、②免疫学検査
血液学的検査	①血球算定検査、②血液像検査、③出血・凝固検査
病理学的検査	①病理組織検査、②免疫組織化学検査、③細胞検査、④分子病理学的検査、⑤体細胞遺伝子検査
寄生虫学的検査	①寄生虫学的検査
生化学的検査	①生化学検査、②尿・糞便等一般検査

認定資格

医療関連サービスマーク認定証書


医療関連サービスマーク認定証書
株式会社アルプ

緊急報告対象項目とその参考基準値

項　目　名	緊急異常値の報告範囲		参考基準値
総ビリルビン（T-Bil）		12.0 mg／dL以上	0.2〜1.2 mg／dL
総蛋白	4.0 g／dL以下	10.0 g／dL以上	6.7〜8.3 g／dL
ナトリウム（Na）	119 mEq／L以下	160 mEq／L以上	135〜147 mEq／L
クロール（Cl）	79 mEq／L以下	120 mEq／L以上	98〜108 mEq／L
カリウム（K）	1.5 mmol／L	6.5 mmol／L以上	3.5〜5.0 mmol／L
カルシウム（Ca）	6.0 mg／dL以下	14.0 mg／dL以上	8.4〜10.2 mg／dL
尿素窒素（UN）		80.0 mg／dL以上	7.9〜21.4 mg／dL
AST（GOT）		500 U／L以上	10〜40 U/L
ALT（GPT）		500 U／L以上	5〜45 U/L
ALP（アルカリフォスファターゼ）		2,000 U／L以上	104〜388 U/L
CK（CPK）		1,000 U／L以上	男：56〜244 U/L 女：43〜165 U/L
LD（乳酸脱水素酵素、LDH）		1,000 U／L以上	120〜245U/L
γ-GT		1,000 U／L以上	男：5〜76 U/L 女：5〜30 U/L
アミラーゼ		1,000 U／L以上	37〜125 U/L
アンモニア（NH_3）		200 μg／dL以上	20〜80 μg／dL
血　糖（グルコース）	40 mg／dL以下	500 mg／dL以上	70〜109 mg／dL
ジゴキシン		2.01 ng／mL以上	0.50〜2.00 ng／mL
フェニトイン		20.1 μg／mL以上	10.0〜20.0 μg／mL
フェノバルビタール		40.1 μg／mL以上	15.0〜40.0 μg／mL
バルプロ酸ナトリウム		100.1 μg／mL以上	50.0〜100.0 μg／mL
カルバマゼピン		10.1 μg／mL以上	4.0〜10.0 μg／mL
テオフィリン		20.1 μg／mL以上	10.0〜20.0 μg／mL
炭酸リチウム		1.21 mEq／L以上	0.60〜1.20 mEq／L
直接クームス	陽性（Baby）		陰性
プロトロンビン値（PT）	INR 3.00 以上		
白血球数	1.0×10^3／μL以下	25.0×10^3／μL以上	3.8〜9.6 $\times10^3$／μL
血液像（白血球像）	白血病の疑いのあるもの（多数の異型細胞・芽球・判定困難な細胞出現時）		
血小板数	3.0×10^4／μL以下	100.0×10^4／μL以上	13.1〜36.5$\times10^4$／μL
ヘモグロビン量	5.0 g／dL以下		男：13.7〜17.4 g／dL 女：11.2〜14.9 g／dL
細菌塗抹検査	髄液からの検出菌		
細菌培養検査	二類および三類感染症菌の検出　　血液からの検出		

●上記のような緊急異常値が認められた場合は、検査担当者が電話またはFAXで報告させていただきます。

●上記の検査項目で緊急異常値の範囲であっても、溶血･乳びなどが検査結果に影響を与えていると思われる場合は緊急報告の対象から除外し、報告書にコメントを付けてご報告いたします。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
生体色素検査	0001	総ビリルビン (T-Bil)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	バナジン酸酸化法	0.2～1.2 mg/dL		肝胆道疾患 肝細胞性黄疸 閉塞性黄疸 溶血性黄疸 新生児黄疸
	0002	直接ビリルビン (D-Bil)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ			0.0～0.4 mg/dL		
蛋白検査	0005	総蛋白 (TP)	血清0.3	冷蔵	A	* 11 生化Ⅰ	1～2	Biuret法	6.7～8.3 g/dL		肝硬変 血液疾患 慢性感染症 ネフローゼ症候群
	0006	アルブミン (Alb)	血清0.3	冷蔵	A	* 11 生化Ⅰ	1～2	BCP改良法	3.8～5.3 g/dL		肝硬変　慢性肝炎 ネフローゼ症候群 消化吸収障害
	0007	A/G比	血清0.3	冷蔵	A		1～2	計算法	1.20～2.30		肝障害 ネフローゼ症候群 高グロブリン血症 蛋白異常症
	0009	蛋白分画 アルブミン　：Alb α_1グロブリン：α_1 α_2グロブリン：α_2 β グロブリン：β γ グロブリン：γ	血清0.3	冷蔵	A	* 18 生化Ⅰ	1～2	セルロースアセテート膜電気泳動法	Alb　60.2～71.4 α_1　1.9～ 3.3 α_2　5.7～ 9.7 β　6.9～10.7 γ　10.5～20.3 % A/G比 1.60～2.46		急性感染症 慢性肝疾患 膠原病 ネフローゼ症候群 M蛋白血症 多発性骨髄腫
ポルフィリン関連検査	2537	プロトポルフィリン	全血0.5	冷蔵	H4	272 生化Ⅰ	5～11	HPLC法	μg/dL RBC	遮光 M	鉛中毒 先天性ポルフィリン症 肝疾患 白血病
	3349	遊離型 プロトポルフィリン	全血1.4	冷蔵	H4		4～17	蛍光法	μg/dL RBC	遮光 分布表は37ページ参照 L	
	2562	コプロポルフィリン　血中	全血1.5	冷蔵	H4	210 生化Ⅰ	6～11	HPLC法	1以下 μg/dL RBC	遮光 M	
	2563	コプロポルフィリン　尿中定量	尿　3	冷蔵	D	135 尿・糞便	6～12	HPLC法	170以下 μg/g CRE	遮光 M	

＊　蛋白分画、総蛋白及びアルブミン（BCP改良法・BCG法）を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

生化学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ポルフィリン関連検査	2606	ウロポルフィリン	全血1.5	冷蔵	H4		4～10	HPLC法	1 以下 μg/dL RBC	遮光 L	先天性赤血球性ポルフィリン症 骨髄性ポルフィリン症 肝性ポルフィリン症 ポルフィリン尿症 各種貧血
	2536		尿 3	冷蔵	D	105 尿・糞便	6～12		36 以下 μg/g CRE	遮光 M	
	2552	ポルフォビリノゲン	蓄尿 3	冷蔵	D	191 尿・糞便	5～8	比色法（M・G変法）	2.0 以下 mg/day	遮光 24時間尿量記入 M	
	3540	δアミノレブリン酸（δ-ALA）	尿 1	冷蔵	D	109 尿・糞便	4～6	HPLC法	mg/L	分布表は37ページ参照 L	鉛中毒（急性・慢性） 肝性ポルフィリン症 骨髄性ポルフィリン症
酵素活性検査	0014	AST（GOT）	血清0.3	冷蔵	A	⑰ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	10～40 U/L		肝疾患 心筋梗塞 溶血性貧血
	0015	ALT（GPT）	血清0.3	冷蔵	A	⑰ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	5～45 U/L		肝疾患
	0016	ALP（アルカリフォスファターゼ）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	104～338 U/L		肝胆道疾患 骨疾患 甲状腺機能亢進症
	0017	LD（乳酸脱水素酵素、LDH）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	120～245 U/L	溶血により高値傾向を示す	急性肝炎　うっ血性心不全 心筋梗塞　悪性腫瘍 白血病　悪性貧血 溶血性貧血
	0018	LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	L-ロイシン-P-ニトロアニリド基質法	30～80 U/L		肝胆道疾患 急性肝炎　肝癌 肝硬変　急性膵炎
	0019	γ-GT（γ-グルタミールトランスペプチダーゼ、γ-GTP）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	男 5～76 女 5～30 U/L		胆汁うっ滞 アルコール性肝障害 急性肝炎　慢性肝炎 肝硬変　肝癌
	0020	コリンエステラーゼ（Ch-E）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	男 235～495 女 199～454 U/L		ネフローゼ症候群 脂肪肝　農薬中毒 甲状腺機能亢進症 慢性肝炎　肝硬変
	0021	アミラーゼ（AMY）	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	37～125 U/L		急性膵炎 慢性膵炎 膵癌 マクロアミラーゼ血症 唾液腺疾患 耳下腺炎
	0022		尿 5	冷蔵	D	⑪ 生化Ⅰ			65～730 U/L		
	0023	リパーゼ	血清0.3	冷蔵	A	㉔ 生化Ⅰ	1～2	酵素共役反応法	13～49 U/L		急性膵炎 慢性膵炎増悪期 膵腫瘍
	3334	リポ蛋白リパーゼ（LPL）	血漿0.4	凍結	H2	＊ 223 生化Ⅰ	4～8	ELISA法	164～284 ng/mL	（注） M	家族性LPL欠損症 高TG血症

＊ 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。また、ヘパリン負荷がおこなわれた場合、投与したヘパリンは薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

（注）早朝空腹時にヘパリンを体重1当たり30単位を静注し、15分後にH2容器に採血して4℃で遠心分離後、上清（血漿）をA2容器に移し凍結保存してご提出ください。EDTA血漿は避けて下さい。基準値につきましては、上記採取条件に基づき設定しております。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素活性検査	1885	トリプシン	血清0.4	冷蔵	A	189 生化Ⅰ	3～4	EIA法	100～550 ng/mL	L	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
	1835	エラスターゼ1	血清0.5	冷蔵	A	* 126 生化Ⅱ	2～3	LA法	300以下 ng/dL		
	1900	膵PLA$_2$（膵ホスホリパーゼA$_2$）	血清0.3	凍結	A	204 生化Ⅰ	3～6	RIA 固相法	130～400 ng/dL	M	
	0058	CK（CPK）（クレアチンキナーゼ）	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	JSCC標準化対応法	男 56～244 女 43～165 U/L		進行性筋ジストロフィー症 多発性筋炎 皮膚筋炎 急性心筋梗塞
	3126	アルドラーゼ	血清0.5	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	2～3	UV法	2.7～5.9 IU/L	溶血により高値傾向を示す M	筋疾患 脳卒中 急性肝炎 慢性肝炎 再生不良性貧血 心筋梗塞 甲状腺機能低下症
	2622	リゾチーム	血清0.3	冷蔵	A		3～4	比濁法	5.0～10.0 μg/mL	L	リンパ性白血病 単球性白血病 消化器疾患
	2905	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	血清0.4	冷蔵	A	32 生化Ⅰ	3～4	酵素法	8.6～20.5 U/L	M	肝炎（急性・慢性） 悪性腫瘍 白血病 先天性ADA欠損症
	2618	ACE（アンギオテンシンⅠ転換酵素）	血清0.5	冷蔵	A	144 生化Ⅰ	2～3	比色法（笠原法）	7.7～29.4 IU/L	M	サルコイドーシス 甲状腺機能亢進症 Caucher病 クローン病 白血病
	2520	グアナーゼ	血清0.5	冷蔵	A	35 生化Ⅰ	3～4	酵素法	0.4～1.1 U/L	L	急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 薬物中毒 自己免疫性肝炎
	0079	NAG	尿 0.5	冷蔵	D	41 尿・糞便	3～4	人工基質MPT法	11.5以下 U/L	pH4.0以下の酸性尿、あるいはpH8.0以上のアルカリ尿では測定値が低下する場合があります。 M	尿細管障害 腎炎 ネフローゼ症候群

＊ 悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
アイソザイム検査	3123	CKアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	55 生化Ⅰ	3〜4	アガロースゲル電気泳動法	BB 0〜2 MB 0〜3 MM 96〜100 %	M	心筋梗塞 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎 心筋炎 甲状腺機能亢進症
	2617	CK-MB	血清0.5	凍結	A	90 生化Ⅰ	3〜5	免疫阻止-UV法	25以下 U/L	R	急性心筋梗塞 心筋炎 進行性筋ジストロフィー症 皮膚筋炎 多発性筋炎
	2616		血清0.6	凍結	A		1〜3	CLIA法	7.5以下 ng/mL		
	3118	LDアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化Ⅰ	3〜4	アガロースゲル電気泳動法	LDH1 17.3〜30.3 LDH2 30.0〜39.7 LDH3 19.0〜25.6 LDH4 6.2〜12.3 LDH5 4.9〜13.9 %	溶血不可 M	LDH1：心筋梗塞 溶血性貧血　悪性貧血 LDH2・3：筋ジストロフィー　白血病 悪性リンパ種　悪性腫瘍 LDH3・4：肺梗塞　肺癌 悪性腫瘍の肺・肝転移 LDH5：急性肝炎　肝癌
	3119	ALPアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化Ⅰ	3〜4	アガロースゲル電気泳動法	ALP1 0.0〜 2.0 ALP2 26.3〜65.0 ALP3 34.6〜62.4 ALP4 — ALP5 0.0〜18.4 ALP6 — %	M	ALP1：閉塞性黄疸 限局性肝障害 ALP2：慢性腎不全 肝・胆道疾患 ALP3：骨疾患 副甲状腺機能亢進症 骨腫瘍 ALP4：妊娠末期 ALP5：血液型OおよびB型分泌型の食後 肝硬変
	3120	アミラーゼアイソザイム	血清0.3	冷蔵	A	48 生化Ⅰ	3〜5	アガロース膜電気泳動法	P/S比 0.19〜1.79 P型 15.7〜64.0 S型 36.0〜84.3 %	L	高アミラーゼ血症の鑑別 P型増加：急性膵炎 慢性膵炎増悪期 S型増加：唾液腺疾患 腎不全 マクロアミラーゼ 産生腫瘍(肺癌など)
	3015		尿 1	冷蔵	D	48 生化Ⅰ	3〜5		P/S比 0.63〜4.65 P型 38.7〜82.3 S型 17.7〜61.3 %	L	
	2917	膵アミラーゼ (P型アミラーゼ)	血清0.5	冷蔵	A	48 生化Ⅰ	2〜3	阻害抗体法	19〜53 U/L	M	急性膵炎 慢性膵炎増悪期
	2613	m- AST (ミトコンドリア-AST)	血清0.5	冷蔵	A	49 生化Ⅰ	3〜4	プロテアーゼ法	7以下 U/L	L	心筋梗塞 急性肝炎　慢性肝炎 劇症肝炎　肝癌 アルコール性肝障害

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	0024	総コレステロール (TCH)	血清0.3	冷蔵	A	* ⑰ 生化Ⅰ	1～2	酵素法	120～219 mg/dL		脂質異常症 高脂血症 肝硬変症 ネフローゼ症候群
	0025	遊離コレステロール	血清0.5	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	2～3	酵素法	25～60 mg/dL	L	脂質異常症 高脂血症 肝疾患 ネフローゼ症候群
	0032	中性脂肪 (TG)	血清0.3	冷蔵	A	⑪ 生化Ⅰ	1～2	酵素法 (遊離グリセロール消去法)	50～149 mg/dL	下記参照	脂質異常症 動脈硬化症 脂肪肝 膵炎
	0033	リン脂質 (PL)	血清0.5	冷蔵	A	⑮ 生化Ⅰ	2～3	酵素法	150 ～250 mg/dL	L	胆道閉塞症 高脂血症 ネフローゼ症候群 肝疾患
	0145	LDLコレステロール	血清0.3	冷蔵	A	* ⑱ 生化Ⅰ	1～2	酵素法 (直接法)	70～139 mg/dL	下記参照	脂質異常症 高コレステロール血症 高脂血症 ネフローゼ症候群
	0028	HDLコレステロール	血清0.3	冷蔵	A	* ⑰ 生化Ⅰ	1～2	酵素法 (直接法)	男 40～77 女 40～90 mg/dL	下記参照	脂質異常症 高脂血症 肝硬変症
	3135	コレステロール分画	血清0.3	冷蔵	A	57 生化Ⅰ	3～5	アガロース膜 電気泳動法	男 HDL-C 17～43 VLDL-C 2～18 LDL-C 51～77 女 HDL-C 22～51 VLDL-C 1～14 LDL-C 45～72 %	凍結不可 L	脂質異常症 高脂血症 高コレステロール血症

＊ HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

動脈硬化性疾患予防ガイドライン

表1 脂質異常症診断基準（空腹時採血*）

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

*10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
**スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の可能性を考慮する。
・LDL-CはFriedewald式（TC-HDL-C-TG/5）または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C（TC-HDL-C）かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

表2 リスク区分別脂質管理目標値

<table>
<tr><th rowspan="2">治療方針の原則</th><th rowspan="2">管理区分</th><th colspan="4">脂質管理目標値（mg/dL）</th></tr>
<tr><th>LDL-C</th><th>non HDL-C</th><th>TG</th><th>HDL-C</th></tr>
<tr><td rowspan="3">一次予防
まず生活習慣の改善を行った後、薬物療法の適応を考慮する</td><td>低リスク</td><td>＜160</td><td>＜190</td><td rowspan="4">＜150</td><td rowspan="4">≧40</td></tr>
<tr><td>中リスク</td><td>＜140</td><td>＜170</td></tr>
<tr><td>高リスク</td><td>＜120</td><td>＜150</td></tr>
<tr><td>二次予防
生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する</td><td>冠動脈疾患の既往</td><td>＜100
(＜70)*</td><td>＜130
(＜100)*</td></tr>
</table>

*家族性高コレステロール血症、急性冠症候群の時に考慮する。糖尿病でも他の高リスク病態（非心原性脳梗塞、末梢動脈疾患（PAD）、慢性腎臓病（CKD）、メタボリックシンドローム、主要危険因子の重複、喫煙）を合併する場合はこれに準ずる。
・一次予防における管理目標達成の手段は非薬物療法が基本であるが、低リスクにおいてもLDL-Cが180mg/dL以上の場合は薬物治療を考慮するとともに、家族性高コレステロール血症の可能性を念頭においておくこと（第5章参照）。
・まずLDL-Cの管理目標値を達成し、その後non-HDL-Cの達成を目指す。
・これらの値はあくまでも到達努力目標値であり、一次予防（低・中リスク）においてはLDL-C低下率20～30%、二次予防においてはLDL-C低下率50%以上も目標値となり得る。
・高齢者（75歳以上）については第7章を参照。

参考文献 日本動脈硬化学会（編）：動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年版。日本動脈硬化学会、2017

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	3112	リポ蛋白分画 [アガロース]	血清0.3	冷蔵	A	49 生化Ⅰ	3～5	アガロース膜 電気泳動法	男α 27～51 Preβ 8～24 β 35～56 女α 33～53 Preβ 7～21 β 34～52 %	凍結不可 L	脂質異常症 動脈硬化症 家族性高リポ蛋白血症
	3105	リポ蛋白分画 [PAG]	血清0.3	冷蔵	A	80 生化Ⅰ	3～5	ポリアクリルアミド ゲルディスク 電気泳動法	男 HDL 22～50 LDL 44～69 VLDL 5～20 女 HDL 26～53 LDL 42～65 VLDL 4～17 %	凍結不可 L	脂質異常症 動脈硬化症 ネフローゼ症候群
	1923	リポ蛋白(a) (Lp(a))	血清0.3	冷蔵	A	＊1 107 生化Ⅰ	1～2	TIA法	30以下 mg/dL		動脈硬化症 虚血性心疾患
	2999	レムナント様リポ蛋白 コレステロール (RLP コレステロール)	血清0.4	冷蔵	A	＊1 184 生化Ⅰ	2～3	酵素法	7.5以下 mg/dL	凍結不可	脂質異常症 動脈硬化症
	3519	アポリポ蛋白AⅠ	血清0.5	冷蔵	A	1項目 31 2項目 62 3項目 以上 ＊2 94 生化Ⅰ	2～3	TIA法	男 119～155 女 126～165 mg/dL	M	Ⅱ型高脂血症 (アポリポ蛋白 B) Ⅲ型高脂血症 (アポリポ蛋白 E) 甲状腺機能低下症 (アポリポ蛋白 B,E) 胆汁うっ滞 (アポリポ蛋白 CⅢ) Tangire 病 (アポリポ蛋白 AⅠ欠損) 無βリポ蛋白血症 (アポリポ蛋白 B 欠乏) 肝胆道疾患 (アポリポ蛋白 AⅠ,AⅡ) 慢性腎不全 (アポリポ蛋白 AⅠ,AⅡ,CⅢ)
	3520	アポリポ蛋白AⅡ							男 25.9～35.7 女 24.6～33.3 mg/dL		
	3521	アポリポ蛋白B							男 73～109 女 66～101 mg/dL		
	3522	アポリポ蛋白CⅡ							男 1.8～4.6 女 1.5～3.8 mg/dL		
	3523	アポリポ蛋白CⅢ							男 5.8～10.0 女 5.4～ 9.0 mg/dL		
	3524	アポリポ蛋白E							男 2.7～4.3 女 2.8～4.6 mg/dL		
	4542	脂肪酸4分画	血清0.5	凍結	A	417 生化Ⅱ	5～7	GC法	DHLA 16.7～ 58.2 AA 112.7～237.9 EPA 9.0～128.5 DHA 46.7～172.7 EPA/AA比 0.06～0.72 μg/mL	空腹時に採血して下さい L	動脈硬化症
	0064	総胆汁酸	血清0.5	冷蔵	A	47 生化Ⅰ	2～3	酵素法	(食後4時間以上経過) 14.4以下 μmol/L	L	慢性肝炎　肝硬変症 胆汁うっ滞 急性肝炎　閉塞性黄疸
	1814	グリココール酸 (CG)	血清0.3	冷蔵	A	80 生化Ⅰ	3～4	RIA・PEG法	(空腹時) 60.0以下 μg/dL	L	胆汁うっ滞　慢性肝炎 肝硬変　急性肝炎 閉塞性黄疸

＊1　3月に1回を限度として算定できる。
＊2　AⅠ・AⅡ・B・CⅡ・CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
電解質検査	0039	ナトリウム (Na)	血清0.3	冷蔵	A	*1 11 生化Ⅰ	1〜2	電極法	135〜147 mEq/L		腎不全 ネフローゼ症候群 内分泌疾患 脱水状態 糖尿病 アジソン病
	0101		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 11 生化Ⅰ			1.60〜5.80 g/day		
	0055	クロール (CL)	血清0.3	冷蔵	A	*1 11 生化Ⅰ	1〜2	電極法	98〜108 mEq/L		腎不全 原発性アルドステロン症 呼吸性アルカローシス 呼吸性アシドーシス 糖尿病
	0103		蓄尿 5	冷蔵	D	*1 11 生化Ⅰ			2.50〜8.90 g/day		
	0040	カリウム (K)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1〜2	電極法	3.5〜5.0 mEq/L	溶血により高値傾向を示す (注)	腎不全 アジソン病 ネフローゼ症候群 クッシング症候群 アシドーシス 嘔吐・下痢
	0105		蓄尿 5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ			1.00〜3.90 g/day		
	0041	カルシウム (Ca)	血清0.3	冷蔵	A	*2 11 生化Ⅰ	1〜2	アルセナゾⅢ法	8.4〜10.2 mg/dL		慢性腎不全 サルコイドーシス 副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 骨軟化症 膵炎
	0107		蓄尿 5	冷蔵	D	*2 11 生化Ⅰ			0.10〜0.30 g/day		
	0051	無機リン (IP)	血清0.3	冷蔵	A	17 生化Ⅰ	1〜2	酵素法	2.4〜4.4 mg/dL	溶血により高値傾向を示す	慢性腎不全 骨軟化症 副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 アルコール中毒
	0119		蓄尿 5	冷蔵	D	17 生化Ⅰ			0.50〜1.00 g/day		
	0050	マグネシウム (Mg)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1〜2	酵素法	1.9〜2.5 mg/dL		急性腎不全 慢性腎不全 副甲状腺機能異常症 吸収不良症候群
	0117		蓄尿 5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ			0.02〜0.13 g/day		
	2662	浸透圧	血清1.0	冷蔵	A	15 血液	3〜4	氷点降下法	275〜290 mOsm/kg・H_2O		糖尿病 熱性疾患 尿崩症 腎機能不全
	2663		尿 1	冷蔵	D	16 尿・糞便			50〜1300 mOsm/kg・H_2O	M	

＊1 ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
＊2 カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
（注）血液凝固後できるだけ速やかに血清分離してください。血清分離不可能な場合は室温にて保存してください。
全血での冷蔵保存及び血清分離までの時間が長い場合、高値傾向を示します。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
含窒素成分検査	0042	尿素窒素（UN）	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	ウレアーゼ GLDH法	7.9～21.4 mg/dL		腎機能障害 腎不全 尿毒症 消化管出血
	0109		蓄尿 5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ			6.5～13.0 g/day		
	0044	クレアチニン（CRE）	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	酵素法	男 0.61～1.04 女 0.47～0.79 mg/dL		腎不全 尿毒症 うっ血性心不全 ショック 大出血
	0111		蓄尿 5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ			0.5～1.5 g/day		
	0045	尿酸（UA）	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	ウリカーゼ POD法	男 3.8～7.0 女 2.6～7.0 mg/dL		痛風 白血病 慢性腎不全 腎炎
	0113		蓄尿 5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ			0.4～1.2 g/day		
	0046	クレアチン	血清0.5	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	3～4	酵素法	0.3～1.2 mg/dL	L	神経・筋疾患 甲状腺機能亢進症 熱傷
	0063	アンモニア（NH_3）	除蛋白上清液 3.5	凍結	G	50 生化Ⅰ	1～2	奥田・藤井変法	20～80 μg/dL	除蛋白試液4.0mLに血液1.0mLを混合し、ただちに遠心分離して上清をA2容器に移してご提出ください。	肝硬変 肝性脳症 劇症肝炎 尿毒症
	2953	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）	血清0.5	凍結	A	288 生化Ⅱ	3～4	酵素法	BTR 4.41～10.05 BCAA 344～713 チロシン 51～ 98 μmol/L	M	慢性肝炎 肝硬変 肝性脳症
アミノ酸検査	2899	アミノ酸分析11種	血漿0.5	凍結	H2	1,176 生化Ⅱ	4～5	HPLC法	次ページ参照	M	先天性アミノ酸代謝異常 重症肝疾患 糖尿病 栄養障害
	2560	アミノ酸分析	血漿0.5	凍結	H2		5～6				
	4454		尿 1	凍結	D	1,176 生化Ⅱ					

アミノ酸分析基準値

成 分 名		略 号	血漿（nmol/mL）	尿（μmol/L）
アミノ酸分画	タウリン	Tau	35.2～70.0	132.8～2045
	ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	5.9～76.6
	アスパラギン酸	Asp	＜3.2	＜18.8
	ハイドロキシプロリン	Hyp	5.4～18.2	＜11.7
	トレオニン	Thr	89.2～205.0	29.5～455.8
	セリン	Ser	91.5～161.8	74.0～817.2
	アスパラギン	Asn	40.8～76.5	24.2～316.9
	グルタミン酸	Glu	10.8～44.4	5.1～84.6
	グルタミン	Gln	488.2～733.1	93.7～1184
	サルコシン	Sarco	ND	ND
	α-アミノアジピン酸	α-AAA	ND	10.1～72.4
	プロリン	Pro	89.6～258.8	＜11.5
	グリシン	Gly	153.2～362.1	263.3～3386
	アラニン	Ala	239.9～510.2	47.8～803.5
	シトルリン	Cit	20.4～44.8	＜21.7
	α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.0～25.7	2.2～27.9
	バリン	Val	158.4～287.7	8.0～78.9
	シスチン	Cys Cys	36.5～56.0	8.6～124.7
	メチオニン	Met	19.2～32.7	2.6～37.8
	シスタチオニン	Cysthio	ND	3.4～50.1
	イソロイシン	Ile	41.3～84.9	3.0～28.8
	ロイシン	Leu	80.9～154.3	6.0～61.8
	チロシン	Tyr	50.2～82.6	21.5～255.1
	β-アラニン	β-Ala	＜7.7	＜56.9
	フェニルアラニン	Phe	45.7～76.5	11.8～104.5
	β-アミノイソ酪酸	BAIBA	＜3.7	18.4～1695
	ホモシスチン	Homocys	ND	ND
	γ-アミノ酪酸	GABA	ND	ND
	モノエタノールアミン	MEA	6.0～10.7	100.1～937.9
	ハイドロキシリジン	Hyl	ND	＜11.6
	オルニチン	Orn	43.2～95.7	3.6～29.0
	1-メチルヒスチジン	1-Me-His	＜12.8	24.8～1575
	ヒスチジン	His	67.9～97.1	200.6～2367
	リジン	Lys	118.7～257.0	23.6～535.2
	3-メチルヒスチジン	3-Me-His	2.9～6.8	81.4～607.3
	トリプトファン	Trp	41.4～65.5	16.9～146.8
	アンセリン	Ans	ND	＜62.3
	カルノシン	Carno	＜6.3	2.1～33.0
	アルギニン	Arg	46.0～121.7	3.4～47.8
	アロイソロイシン	allo-Ile	ND	ND
	フィッシャー比＊1		2.31～4.29＊2	—

□項目は、アミノ酸分析11種の実施アミノ酸名

＊1 フィッシャー比＝ $\dfrac{\text{バリン＋イソロイシン＋ロイシン}}{\text{チロシン＋フェニルアラニン}}$

＊2 単位なし

ND 不検出

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
糖代謝検査	0071	血糖 (グルコース)	全血1.0	冷蔵	C	11 生化Ⅰ	1～2	ヘキソキナーゼ UV法	70～109 mg/dL		糖尿病 甲状腺機能亢進症 急性膵炎　膵癌 インスリノーマ
	0076	ヘモグロビン A1c (HbA1c)	全血1.0	冷蔵	C	＊1 49 血液	1～2	酵素法	4.6～6.2 %		糖尿病 (約1～2カ月前の血糖値を反映)
	3831	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG)	血清0.4	冷蔵	A	＊1 80 生化Ⅰ	2～3	酵素法	14.0以上 μg/mL	M	糖尿病 (血糖コントロール指標) 糖尿病性腎性
	2693	グリコアルブミン (GA)	血清0.5	冷蔵	A	＊1 55 生化Ⅰ	2～3	酵素法	12.3～16.5 %		糖尿病 (約1～2週間前の血糖値を反映)
有機酸検査	1878	ヒアルロン酸	血清0.3	冷蔵	A	＊2 184 生化Ⅰ	2～3	LA法	50.0以下 ng/mL	M	慢性肝炎 肝硬変 慢性関節リウマチ
	2566	乳酸	除蛋白上清液0.5	凍結	I 1	47 生化Ⅰ	3～4	酵素法	(空腹安静時) 3.7～16.3 mg/dL	血液1mLを容器に採取し、充分撹拌したのち3000rpm5分間遠心分離して上清を提出用容器（W）に移してご提出ください。 M	筋疲労の指標 筋糖原病 糖尿病 肝疾患
	2567	ピルビン酸	除蛋白上清液0.5	凍結	I 1	47 生化Ⅰ	3～4	酵素法	(空腹安静時) 0.30～0.90 mg/dL		循環不全　ショック 肝硬変 糖尿病
	2541	ケトン体分画	血清0.3 (静脈血)	凍結	A	＊3 59 生化Ⅰ	3～4	酵素法	総ケトン体 26～122 アセト酢酸 13～69 3-ハイドロキシ酪酸 76以下 μmol/L	早朝空腹時採血 総ケトン体にアセトンは含まれません M	ケトアシドーシス 糖尿病
	3114	クエン酸	血清1.5	凍結	A		3～9	酵素法	1.3～2.6 mg/dL	M	心不全 糖尿病性ケトーシス 粘液水腫
ビタミン検査	3117	ビタミンA	血清0.3	凍結	A		5～11	HPLC法	27.2～102.7 μg/dL	遮光 L	ビタミンA欠乏症 ビタミンA過剰症 肝疾患 夜盲症
	2572	ビタミン B_1 (チアミン)	全血1.1	凍結	F9	246 生化Ⅰ	7～9	HPLC法	21.3～81.9 ng/mL	遮光 L	ビタミンB_1欠乏症 脚気
	2573	ビタミン B_2 (リボフラビン)	全血1.1	凍結	F9	249 生化Ⅰ	4～8	蛍光法 (ルミフラビン蛍光法)	4.1～8.8 μg/dL	遮光 L	ビタミンB_2欠乏症 口角炎 舌炎

＊1　ヘモグロビンA1c（HbA1c）、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、１型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c（HbA1c）を月1回に限り別に算定できる。

＊2　慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

＊3　ケトン体及びケトン体分画の検査を併せて実施した場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ビタミン検査	2578	ビタミンB_6	血清1.0	冷蔵	A		4～10	HPLC法	男 PAM 0.6以下 PAL 6.0～40.0 PIN 3.0以下 女 PAM 0.6以下 PAL 4.0～19.0 PIN 3.0以下 ng/mL	遮光 L	ビタミンB_6欠乏症 吸収不良症候群
	1883	ビタミンB_{12}	血清0.6	冷蔵	A	144 生化Ⅰ	2～3	CLIA法	233～914 pg/mL		悪性貧血 萎縮性胃炎
	3098	ビタミンC (アスコルビン酸)	(血清中) 除蛋白上清液 0.5	凍結	L7	314 生化Ⅰ	4～6	HPLC法	(血清中) 5.5～16.8 μg/mL	遮光 正確に血清0.5mLを専用容器(L-7)に加え、混和後、遠心分離し、その上清をポリスピッツ(W)にてご提出ください。 R	ビタミンC欠乏症 壊血病
	3102	1,25-$(OH)_2$ ビタミンD	血清1.0	凍結	A	＊1 388 生化Ⅰ	4～7	RIA 二抗体法	20～60 pg/mL	L	ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症 副甲状腺機能障害 慢性腎不全
	3459	25-OH ビタミンD	血清0.5	冷蔵	A	＊2 117 生化Ⅰ	2～3	ECLIA法	ng/mL	判定の目安については「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」をご参照ください。	骨粗鬆症 ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症
	3116	ビタミンE (トコフェロール)	血清0.5	凍結	A		4～10	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	遮光 M	ビタミンE欠乏症 脂質異常症 高脂血症
	1884	葉酸	血清0.5	冷蔵	A	154 生化Ⅰ	2～3	CLIA法	3.6～12.9 ng/mL	溶血により高値傾向を示す	巨赤芽球性貧血 溶血性貧血
	3080	カルニチン	血清0.5	冷蔵	A	＊3 95 ＋ 95 生化Ⅰ	3～4	酵素 サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	M	カルニチン欠乏症 慢性腎不全
	3205	β-カロチン	血清0.6	凍結	A		8～14	HPLC法	男 6.6～ 47.6 女 20.4～105.2 μg/dL	遮光 R	柑皮症 甲状腺機能異常 肝疾患
	2911	ビタミンK分画	血漿2.0	凍結	E4		4～10	HPLC法	K_1 0.15～1.25 K_2 0.10以下 ng/mL	遮光 R	出血傾向 消化器疾患 胆道閉塞 肝疾患

＊1 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

＊2 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。また、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

＊3 総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。なお、本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。また、静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

●ビタミンD不足・欠乏の判定指針（25-OHビタミンD濃度による）

ビタミンD充足状態：30.0ng/mL以上
ビタミンD不足　　：20.0ng/mL以上30.0ng/mL未満
ビタミンD欠乏　　：20.0ng/mL未満

生化学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
金属検査	0047	鉄 (Fe)	血清0.3	冷蔵	A	11 生化Ⅰ	1～2	Nitroso-PSAP法	男　60～160 女　50～140 μg/dL		鉄欠乏生貧血 再生不良性貧血 肝障害　感染症 赤血球増多症 ヘモクロマトーシス
	0048	TIBC (総鉄結合能)	血清0.3	冷蔵	A	* 11 生化Ⅰ	1～2	計算法 (Nitroso-PSAP法)	男　260～420 女　290～440 μg/dL	Fe，UIBC値より算出	鉄欠乏性貧血 悪性腫瘍 急性肝炎 肝硬変 感染症 ネフローゼ症候群
	0049	UIBC (不飽和鉄結合能)	血清0.3	冷蔵	A	* 11 生化Ⅰ	1～2	Nitroso-PSAP法	191～269 μg/dL		
	0053	銅 (Cu)	血清0.4	冷蔵	A	23 生化Ⅰ	2～3	比色法	70～132 μg/dL		閉塞性黄疸 胆汁性肝硬変 Wilson病 悪性貧血
	0054		尿　5	冷蔵	D3	23 生化Ⅰ	4～7	原子吸光法	18以下 μg/L	M	
	3502	鉛 (Pb)	全血0.5	冷蔵	H2		4～8	原子吸光法	μg/dL	分布表は37ページ参照 L	鉛中毒
	2630	亜鉛 (Zn)	血清0.5	冷蔵	A3	140 生化Ⅰ	3～4	原子吸光法	80～130 μg/dL		甲状腺機能亢進症 溶血性貧血 赤血球増多症 多発性神経炎 亜鉛欠乏症
	2631		尿　5	冷蔵	D3	140 生化Ⅰ	4～7		64～947 μg/L	M	
	4029	水銀 (Hg)	全血0.5	冷蔵	H2		6～11	原子吸光法	5以下 μg/dL		水銀中毒（水俣病）
	4788		尿　1	冷蔵	D3				25以下 μg/L	M	

＊　総鉄結合能(TIBC)(比色法)、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)又は総鉄結合能(TIBC)(比色法)の所定点数を算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
金属検査	3595	カドミウム (Cd)	全血0.5	冷蔵	H2		7〜12	原子吸光法	0.5以下 μg/dL	M	カドミウム中毒 イタイイタイ病
	4165		尿 1	冷蔵	D3		6〜12		3.8以下 μg/L		
	2972	マンガン (Mn)	全血0.5	冷蔵	H2	27* 生化Ⅰ	7〜12	原子吸光法	0.4 〜2.0 μg/dL	M	マンガン欠乏症 マンガン中毒 高カロリー静脈栄養法 胆汁排泄能低下
	4085		血清0.5	冷蔵	A3				0.7以下 μg/dL		
	3943		尿 0.5	冷蔵	D3	27* 生化Ⅰ			2.0未満 μg/L		
	2901	クロム (Cr)	全血0.5	冷蔵	H2		7〜13	原子吸光法	μg/dL	M	クロム中毒 クロム欠乏症 腎不全
	2902		尿 1	冷蔵	D3				μg/L		
	4295	ニッケル (Ni)	血清0.5	冷蔵	A3		7〜12	原子吸光法	0.6以下 μg/dL	M	ニッケル中毒 心筋梗塞
	2970	アルミニウム (Al)	血清0.5	冷蔵	A3	115 生化Ⅰ	5〜6	原子吸光法	0.9以下 μg/dL	M	腎不全 閉塞性黄疸 アルミニウム脳症の予防

＊ 1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	3292	KL-6 （シアル化糖鎖抗原 KL-6）	血清0.4	冷蔵	A	*114 生化Ⅰ	3～4	CLEIA法	500未満 U/mL	M	間質性肺炎 特発性間質性肺炎（IIP） 膠原病性間質性肺炎（CDIP） 過敏性肺炎
	3337	肺サーファクタントプロテインD（SP-D）	血清0.3	凍結	A	*136 生化Ⅰ	4～6	EIA法	110未満 ng/mL	M	
	4086	肺サーファクタントプロテインA（SP-A）	血清0.3	冷蔵	A	*130 生化Ⅰ	3～5	CLEIA法	43.8未満 ng/mL	M	
	2792	エタノール （エチルアルコール）	全血1.0	凍結	H2	111 生化Ⅰ	7～8	GC法	0.1未満 mg/mL	M	アルコール依存症 アルコール中毒 エタノール注入療法のモニター
	4459		尿 2	凍結	D		5～6	GC法	0.1未満 mg/mL	M	
	3531	メタノール （メチルアルコール）	尿 2	凍結	D		5～7	GC法	3未満 mg/L	M	メチルアルコール中毒 酢酸メチル中毒
	2801	アセトン定量	血清0.4	凍結	A2		5～7	GC法	5未満 μg/mL	血清分離剤入り容器は検査不可 M	糖尿病 甲状腺機能亢進症
	2664	結石分析	結石5mg	室温	D	120 生化Ⅱ	3～5	赤外線吸収スペクトル法	%	（注）成分比率にて報告 L	尿路結石 胆石

＊ KL-6、肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）及び肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
（注）サンプルは乾燥させ、血液などが付着している場合は蒸留水で洗浄し、乾燥させてからご提出ください。

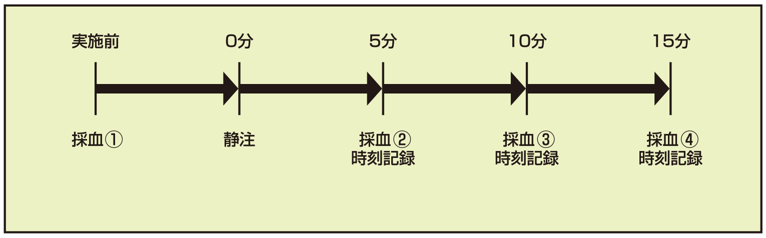
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
クリアランス検査	0098	ICG（インドサイアニングリーン試験） 停滞率	血清2.0	冷蔵	A	*1 100	2〜3	比色法	15分値 10.0以下 %	実施方法は下記参照	肝胆道疾患 慢性肝炎 肝硬変 デュビン・ジョンソン症候群 ジルベール病
		消失率	血清2.0	冷蔵	A	*2 150			0.168〜0.206		

＊1　検査に伴って行った注射、検体採取、検体測定及びエックス線透視の費用は、全て所定点数に含まれるものとする。注射とは、注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は別途算定する。
＊2　検査に伴って行った注射、採血及び検体測定の費用は、所定点数に含まれるものとする。注射とは、注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は別途算定する。

クリアランス検査実施方法

◆ インドサイアニングリーン試験（ICG） ◆

1.早朝空腹時に採血3mL…①
2.ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶かし体重10kgにつき1mLを約30秒かけて静注。
（時間測定開始）
3.静注開始後、5 分ごとに3mL採血を3 回。…②③④
注意）早朝空腹時に実施、検査終了まで安静仰臥がよい。
採血は、注射と反対側の腕からおこなう。
提出）消失率: 採血時を明記した容器①②③④の4 本。
停滞率: 容器①と④の2 本。



生化学的検査

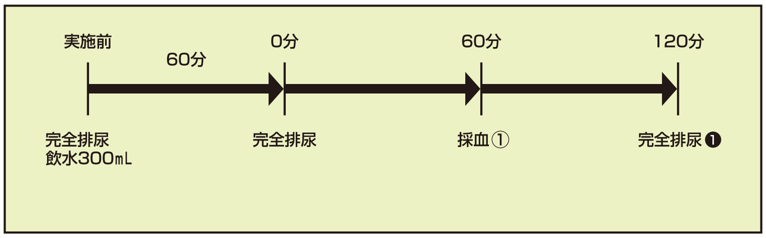
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
クリアランス検査	0083	アミラーゼ クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1～2	酵素法		実施方法は下記参照	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌 マクロアミラーゼ血症
	0082	アミラーゼ クレアチニン クリアランス	血清0.5 尿 5	冷蔵	A・D		1～2	酵素法	1.4～4.0 %		
	2660	PFD試験（PABA 排泄率）	投与前尿 5 6時間蓄尿 5	冷蔵	D	*100	3～4	ジアゾカップリング法	73.4以上 %	実施方法は下記参照 M	慢性膵炎 膵癌

＊ 検査に伴って行った注射、検体採取及び検体測定及びエックス線透視の費用は、すべて所定点数に含まれるものとする。注射とは、注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は別途算定する。

クリアランス検査実施方法

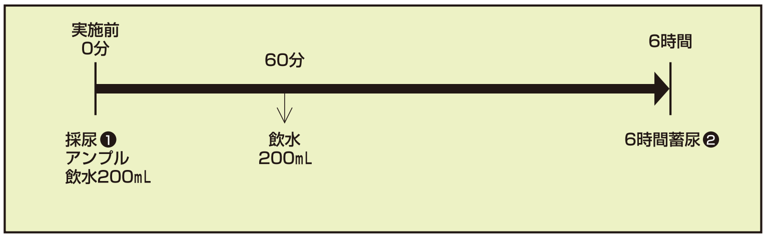
◆ アミラーゼクリアランス アミラーゼクレアチニンクリアランス ◆

1.早朝空腹時に完全排尿後､水300mLを飲料。
2.飲水60分後に、完全排尿。（時間測定開始）
3.測定開始60分後、採血3mL実施。…①
4.測定開始120分後、完全排尿して尿量を記録し、一部を出検。…❶
提出）身長・体重を明記した容器①と全尿量を明記した容器❶



◆ PFD試験（PABA排泄率）◆

1.早朝空腹時に採尿。…❶
2.PFD1アンプルを水200mLと共に服用。（時間測定開始）
3.飲水60分後、利尿のために再度水200mLを飲水。
4.測定開始から6時間蓄尿。尿量測定後、一部を出検。…❷
注意）小児の場合は服用量を明記。
提出）尿量明記不要の容器❶ と、全尿量を明記した容器❷ 2本。



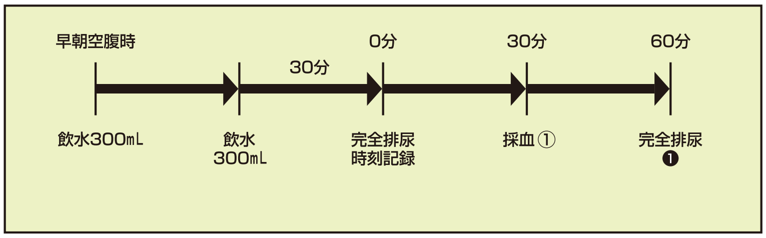
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
クリアランス検査	0092	尿酸クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1～2	ウリカーゼ POD法	mL/min	実施方法は 下記参照	糸球体腎炎 腎硬化症 尿路閉塞 ループス腎炎
	0080	クレアチニン クリアランス	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D		1～2	酵素法	82.0～183.0 mL/min	実施方法は 下記参照	
	0167	クレアチニン クリアランス （24 時間法）	血清0.3 尿 5	冷蔵	A・D				95.2～308.3 L/day	実施方法は 下記参照	

クリアランス検査実施方法

◆ 尿酸クリアランス ◆

1.早朝空腹時、水300mLを飲む。
2.検査直前に水300mLを飲水。
3.飲水30分後に完全排尿し、排尿完了時刻を正確に記録。
（時間測定開始）
4.測定開始30分後、採血3mL実施。…①
5.測定開始60分後、完全排尿して正確に尿量を記録し、
そのうちの5mLを出検。…❶

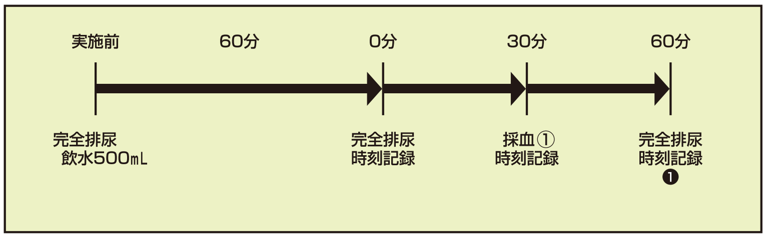
注意）検査当日は絶食。
提出）身長・体重を明記した容器①と、全尿量を明記した容器❶。



◆ クレアチニンクリアランス ◆

1.完全排尿後、水500mLを飲水。
2.飲水60分後に完全排尿し、この時間を正確に記録。
（時間測定開始）
3.測定開始30分後、採血3mL実施…①
4.測定開始60分後、完全排尿して正確に尿量及び終了
時刻を記録し、一部を出検。…❶

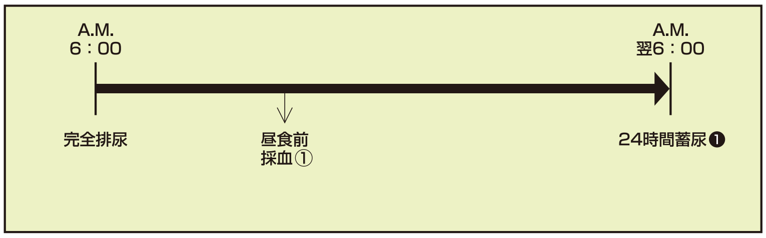
提出）身長・体重・採血時間を明記した容器①と、
全尿量・採尿時間を明記した容器❶。



◆ クレアチニンクリアランス（24時間法）◆

1.朝6時に完全排尿し、以後の尿を翌朝6時まで蓄尿。
尿量測定後、一部を出検。…❶
2.昼食前に採血3mL実施。…①

提出）身長・体重を明記した容器①と、
全尿量を明記した容器❶



分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
産業医学関連検査	3536	馬尿酸	尿 1	冷蔵	D		4～5	HPLC法	g/L	分布表及び検体採取方法は次頁参照	トルエン中毒
	3537	メチル馬尿酸	尿 1	冷蔵	D		4～5	HPLC法	g/L		キシレン中毒
	3539	マンデル酸［スチレン］	尿 1	冷蔵	D		5～8	HPLC法	g/L		スチレン中毒
	4766	マンデル酸［エチルベンゼン］	尿 1	冷蔵	D		5～8	LC-MS法	g/L		エチルベンゼン取扱
	3535	2,5-ヘキサンジオン	尿 3	冷蔵	D		5～8	GC/MS法	mg/L		ノルマルヘキサン中毒
	3538	N-メチルホルムアミド	尿 3	冷蔵	D		5～8	GC法	mg/L		N-Nジメチルホルムアミド中毒
	3533	トリクロル酢酸(三塩化酢酸) トリクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L		トリクロルエチレン中毒 1,1,1-トリクロルエタン中毒 テトラクロルエチレン中毒
		1,1,1-トリクロルエタン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L		
		テトラクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L		
	3532	総三塩化物 トリクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L		
		1,1,1-トリクロルエタン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L		
		テトラクロルエチレン	尿 1	冷蔵	D		4～7	GC法	mg/L	L	

産業医学（鉛・有機溶剤）関連検査

産業医学関連検査は鉛作業者、有機溶剤作業者を対象として、体内に鉛や有機溶剤がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものではなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされます。また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

鉛・有機溶剤関連検査結果分布表

使用物質	検査項目名	単位	分布			
			1	2		3
			以下	超	以下	超
鉛	血中鉛	μg/dL	20	20	40	40
	赤血球遊離プロトポルフィリン	μg/dL RBC	100	100	250	250
	尿中δ-アミノレブリン酸	mg/L	5	5	10	10
トルエン	馬尿酸 ＊	g/L	1.0	1.0	2.5	2.5
キシレン	メチル馬尿酸 ＊		0.5	0.5	1.5	1.5
スチレン	マンデル酸 ＊		0.3	0.3	1.0	1.0
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン ＊	mg/L	2.0	2.0	5.0	5.0
N.N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド ＊		10.0	10.0	40.0	40.0
テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸 ＊＊		3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物 ＊＊		3.0	3.0	10.0	10.0
1.1.1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸 ＊＊		3.0	3.0	10.0	10.0
	総三塩化物 ＊＊		10.0	10.0	40.0	40.0
トリクロルエチレン	トリクロル酢酸 ＊＊		30.0	30.0	100.0	100.0
	総三塩化物 ＊＊		100.0	100.0	300.0	300.0

採取方法

＊連続した作業日の最初の日以外の作業終了後に採尿してください。ただし、作業終了2時間前に一度排尿し、2時間後の採尿時まで排尿しないでください。

＊＊週末の作業終了後に採尿してください。作業終了2時間前に一度排尿し、2時間後の採尿時まで排尿しないでください。

注意事項

1）尿量の影響
　尿の排泄量が極端に多いかまたは少ない場合は、適切な水分の摂取をご指導ください。

2）飲酒の影響
　採尿の前日から採取を終えるまで飲酒は控えてください。

3）食品の影響
　尿中馬尿酸量はいちご・すももなど果実の摂取や安息香酸を含有する清涼飲料水などの摂取によって変動しますので、摂取状況の確認が必要です。もし、摂取していた場合は、別の日に実施してください。

4）混合溶剤の影響
　塩素系溶剤の尿中代謝物は同一ですので、これらの有機溶剤を2種類以上使用されている場合、その種類と作業環境気中濃度を考慮して結果を評価してください。

薬 物 分 析 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値（有効治療濃度）	備考（商品名）
薬物分析検査	0151	ジゴキシン	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	0.50～2.00 ng/mL	ジゴキシン ジゴシン ジゴハン
	0155	テオフィリン	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	10.0～20.0 μg/mL	テオドール テオロング スロービッド
	2863	プロカインアミド	血清0.3	冷蔵	A	特	3～4	HEIA法	4.0～8.0 μg/mL	アミサリン M
	2860	アプリンジン	血清0.2	冷蔵	A	特	5～7	LC-MS/MS法	0.25 ～1.25 μg/mL	アスペノン L
	3508	ジソピラミド	血清0.5	冷蔵	A	特	2～3	EIA法	2.0～5.0 μg/mL	リスモダン ジソピラン L
	2851	リドカイン	血清0.3	冷蔵	A	特	3～4	EMIT法	1.5～5.0 μg/mL	キシロカイン オリベス リドカイン M
	2701	塩酸ピルジカイニド	血清0.6	凍結	A	特	5～7	HPLC法	0.20～0.90 μg/mL	サンリズム L
	3069	プロパフェノン	血清0.3	凍結	A2	特	4～7	LC-MS/MS法	ng/mL	プロノン ソビラール L
	2590	メキシレチン	血清0.6	凍結	A	特	5～7	HPLC法	0.50～2.00 μg/mL	メキシチール チルミメール L
	3051	フレカイニド	血清0.3	凍結	A	特	5～7	LC-MS/MS法	200.0～1000.0 ng/mL	タンボコール L
	3509	キニジン	血清0.3	冷蔵	A	特	3～4	KIMS法	2.3～5.0 μg/mL	硫酸キニジン M
	3060	コハク酸シベンゾリン	血清0.3	凍結	A	特	4～6	LC-MS/MS法	70.0～250.0 ng/mL	シベノール L
	3360	ピルメノール	血漿0.2	凍結	H2	特	5～11	LC-MS/MS法	μg/mL	ピメノール L
	4110	アミオダロン	血漿0.3	凍結	H2	特	4～6	LC-MS/MS法	ng/mL	アンカロン L
	2669	プロプラノロール	血清0.3	冷蔵	A		5～11	HPLC法	50.0～100.0 ng/mL	インデラル M
	4721	ベプリジル	血漿0.3	冷蔵	F3	特	4～5	LC-MS/MS法	250～800 ng/mL	ベプリコール M
	0163	フェノバルビタール	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	15.0～40.0 μg/mL	フェノバール ワコビタール ルピアール
	2868	ニトラゼパム	血清0.3	凍結	A	特	4～5	LC-MS/MS法	20.0～100.0 ng/mL	ベンザリン ネルボン L
	4463	ガバペンチン	血漿0.3	凍結	H2	特	4～7	LC-MS/MS法	μg/mL	ガバペン L
	4555	トピラマート	血清0.3	凍結	A2	特	4～5	LC-MS/MS法	Trough 5.00～20.00 μg/mL	トピナ L

特 特定薬剤治療管理料（41ページ参照）

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値（有効治療濃度）	備考（商品名）
薬物分析検査	2855	プリミドン	血清0.3	冷蔵	A	特	3～4	EMIT法	5～12 μg/mL	プリミドン M
	2793	ジアゼパム	血清0.2	凍結	A	特	5～7	LC-MS/MS法	600～1,000 ng/mL	セルシン ダイアップ ホリゾン L
	0157	フェニトイン	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	10.0～20.0 μg/mL	アレビアチン ヒダントール
	0159	カルバマゼピン	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	4.0～10.0 μg/mL	テグレトール テレスミン レキシン
	3505	ゾニサミド	血清0.3	冷蔵	A	特	3～4	LA法	Trough 10～30 μg/mL	エクセグラン トレリーフ エクセミド M
	3503	エトスクシミド	血清0.4	冷蔵	A	特	3～4	EIA法	40.0～100.0 μg/mL	エピレオプチマル ザロンチン M
	4851	アセタゾラミド（アセタゾールアミド）	血清0.3	冷蔵	A2	特	6～12	HPLC法	μg/mL	ダイアモックス L
	0161	バルプロ酸ナトリウム	血清0.5	冷蔵	A	特	1～3	CLIA法	50.0～100.0 μg/mL	デパケン セレニカR ハイセレニン
	3506	トリメタジオン	血清0.5	凍結	A	特	5～11	LC-MS/MS法	300～500 μg/mL	ミノ・アレビアチン バスタレルF M
	3507	クロナゼパム	血清0.3	凍結	A	特	4～5	LC-MS/MS法	20.0～70.0 ng/mL	ランドセン リボトリール L
	4043	クロバザム	血清0.2	凍結	A	特	5～7	LC-MS/MS法	Trough クロバザム 30～300 デスメチルクロバザム 300～3000 ng/mL	マイスタン L
		スチリペントール	血清0.3	冷蔵	A2	特	4～6	LC-MS/MS法	μg/mL	ディアコミット M
	4792	ルフィナミド	血清0.3	冷蔵	A2	特	4～6	LC-MS/MS法	μg/mL	イノベロン M
	4566	レベチラセタム	血清0.3	冷蔵	A2	特	4～5	LC-MS法	Trough 12～46 μg/mL	イーケプラ M
	4592	ラモトリギン	血清0.3	凍結	A2	特	4～5	LC-MS/MS法	Trough 2.5～15.0 μg/mL	ラミクタール M
	3854	ペランパネル	血清0.3	凍結	A2	特	4～5	LC-MS/MS法	ng/mL	フィコンパ L
	3975	ラコサミド	血漿0.3	冷蔵	F3	特	4～5	LC-MS/MS法	μg/mL	ビムパット M

特 特定薬剤治療管理料（41ページ参照）

薬物分析検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値（有効治療濃度）	備考（商品名）
薬物分析検査	2700	ゲンタマイシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	EMIT法	peak 15〜20 Trough 1未満 μg/mL	ゲンタシン ルイネシン リフタマイシン エルタシン M
	2859	アミカシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	KIMS法	peak 50〜60 Trough 4未満 μg/mL	アミカマイシン ロミカシン M
	5039	トブラマイシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	HEIA法	peak 15〜20 Trough 1未満 μg/mL	トブラシン M
	2762	アルベカシン	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	LA法	peak 15〜20 Trough 1〜2未満 μg/mL	ハベカシン M
	3517	バンコマイシン	血清0.5	冷蔵	A2	特	2〜3	EIA法	Trough 10.0〜15.0 μg/mL	バンコマイシン L
	4018	テイコプラニン	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	LA法	Trough 15〜30 μg/mL	タゴシッド M
	4468	ボリコナゾール	血漿0.2	凍結	H2	特	5〜7	LC-MS/MS法	Trough 1.00〜2.00以上 （Trough 4.00〜5.00以上の場合に肝障害に注意する）μg/mL	ブイフェンド L
	2505	シクロスポリン	全血0.5	凍結	F7	特	3〜4	CLIA法	ng/mL	サンディミュン ネオーラル アマドラ シクポラール 他の検査項目との重複依頼は不可 L
	4137	タクロリムス	全血1.0	冷蔵	F5	特	3〜4	ECLIA法	5〜20 ng/mL	プログラフ プロトピック グラセプター タリムス 他の検査項目との重複依頼は不可 M
	2612	メトトレキサート	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	EIA法	中毒域（大量投与時） 24時間後 10以上 48時間後 1以上 72時間後 0.1以上 μmol/L	メソトレキセート リウマトレックス トレキサメット メトレート M
	3504	サリチル酸（アスピリン）	血清0.3	冷蔵	A	特	3〜4	酵素法	150〜300 （抗リウマチ薬として） μg/mL	アスピリン アストプレン アセチルサリチル酸 ミニマックス サンスポミン セルボン サリチゾン M
	3544	ハロペリドール	血清0.4	冷蔵	A	特	3〜4	EIA法	3〜17 ng/mL	セレネース ハロマンス ハロステン リントン レモナミン M
	2642	ブロムペリドール	血清0.4	冷蔵	A	特	3〜4	EIA法	15以下 ng/mL	インプロメン ルナプロン プリペリドール プリンドリル M
	0052	炭酸リチウム	血清0.5	冷蔵	A	特	1〜3	電極法	0.60〜1.20 mEq/L	リーマス
	3556	アセトアミノフェン	血清0.3	冷蔵	A	＊ 185 生化Ⅰ	3〜4	HEIA法	中毒域 4時間後 200以上 12時間後 50以上 μg/mL	アセトアミノフェン ピリナジン ナパ カロナール ピレチノール アンヒバ M
	3591	クロルプロマジン	血清1.0	凍結	A		5〜7	LC-MS/MS法	30〜350 ng/mL	ウインタミン コントミン クロコーゲン M
	3510	金（Au）	血清0.2	冷蔵	A2		4〜10	原子吸光分光光度法	μg/dL	シオゾール L
	4767	エベロリムス	全血1.0	冷蔵	F5	特	3〜4	ECLIA法	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合のTrough 3~8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合のTrough 5~15 ng/mL	※シロリムス投与歴がある患者は検査不可 サーティカン アフィニトール 他の項目との重複依頼は不可 M
	3194	L-ドーパ（L-DOPA）	血漿2.0	凍結	F1		6〜12	HPLC法	ng/mL	ドパストン ドパゾール ※ヘパリン血漿不可 M

＊ 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

特 特定薬剤治療管理料（41ページ参照）

特定薬剤治療管理料1

薬剤名	検査項目	対象疾患等	初回月*1	2〜3ヶ月	4ヶ月以降
ジギタリス製剤	ジゴキシン	心疾患	470 ＋ 280	470	235
		重症うっ血性心不全 （急速飽和*3を行った場合）	740（急速飽和完了日、1回に限る）		
テオフィリン製剤	テオフィリン	気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫、未熟児無呼吸発作	470 ＋ 280	470	235
不整脈用剤	プロカインアミド　リドカイン　シベンゾリンコハク酸塩 N-アセチルプロカインアミド　ピルジカイニド塩酸塩　ピルメノール ジソピラミド　プロパフェノン　アミオダロン キニジン　メキシレチン　ソタロール塩酸塩 アプリンジン　フレカイニド　ベプリジル塩酸塩	不整脈 ［継続的に投与］	470 ＋ 280	470	235
抗てんかん剤	フェノバルビタール　バルプロ酸ナトリウム　ゾニサミド プリミドン　遊離バルプロ酸　アセタゾールアミド フェニトイン　トリメタジオン　クロバザム 遊離フェニトイン　クロナゼパム　ガバペンチン カルバマゼピン　ニトラゼパム　トピラマート エトサクシミド　ジアゼパム　レベチラセタム スチリペントール　ルフィナミド　ラモトリギン ペランパネル　ラコサミド	てんかん*4	470 ＋ 280	470	
		てんかん重積状態 （全身性けいれん発作重積状態）	740（重積状態の消失日、1回に限る）		
	カルバマゼピン　バルプロ酸ナトリウム 遊離バルプロ酸	躁うつ病または躁病	470 ＋ 280	470	
	バルプロ酸ナトリウム　遊離バルプロ酸	片頭痛		470	235
アミノ配糖体抗生物質	ゲンタマイシン、アミカシン、トブラマイシン、アルベカシン	（入院患者に数日間以上投与）	470 ＋ 280	470	235
グリコペプチド系抗生物質	テイコプラニン				
	バンコマイシン		470 ＋ 530	470	235
トリアゾール系抗真菌剤	ボリコナゾール	重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植（造血幹細胞移植の患者にあっては深在性真菌症の予防を目的とするものに限る） （入院患者に数日間以上投与）	470 ＋ 280	470	235
免疫抑制剤	シクロスポリン　エベロリムス タクロリムス水和物　ミコフェノール酸モフェチル	臓器移植後 （拒否反応の抑制）	470 ＋ 2,740*2		470
	シクロスポリン	ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存の治療で十分な効果が得られない患者に限る）、ネフローゼ症候群若しくは川崎病の急性期	470 ＋ 280	470	
	タクロリムス水和物	全身型重症筋無力症 関節リウマチ、ループス腎炎 潰瘍性大腸炎、間質性肺炎 （多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る）			
サリチル酸系製剤	サリチル酸（アスピリン）	若年性関節リウマチ リウマチ熱、慢性関節リウマチ ［継続的に投与］	470 ＋ 280	470	235
メトトレキサート	メトトレキサート	悪性腫瘍	470 ＋ 280	470	235
ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤	ハロペリドール ブロムペリドール	統合失調症	470 ＋ 280	470	235
リチウム製剤	炭酸リチウム	躁うつ病	470 ＋ 280	470	235
イマチニブ	イマチニブ	当該薬剤の適応疾患 （慢性骨髄性白血病など）	470 ＋ 280	470	235
抗悪性腫瘍剤	エベロリムス	結節性硬化症	470 ＋ 280	470	235
	スニチニブ	腎細胞癌			
シロリムス製剤	シロリムス	リンパ脈管筋腫症	470 ＋ 280	470	235

＊1 免疫抑制剤を投与している臓器移植後の患者以外の患者に対して、特定薬剤治療管理料に係る薬剤の投与を行った場合は、1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、所定点数に280点を加算する。なお、初回月加算は、投与中の薬剤の安定した血中至適濃度を得るため頻回の測定が行われる初回月に限り、280点を加算できるものであり、薬剤を変更した場合においては算定できない。
＊2 臓器移植後の患者に対して、免疫抑制剤の投与を行った場合は、臓器移植を行った日の属する月を含め3月に限り、所定点数に2,740点を加算する。
＊3 急速飽和とは、重症うっ血性心不全の患者に対して2日間程度のうちに数回にわたりジギタリス製剤を投与し、治療効果が得られる濃度にまで到達させることをいう。
＊4 てんかん患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
下垂体機能検査	1856	成長ホルモン (GH)	血清0.5	冷蔵	A	111 生化Ⅱ	2～4	ECLIA法	成人 男 2.47以下 女 0.13～9.88 ng/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記 L	末端肥大症・巨人症 異所性GH産生腫瘍 下垂体機能低下症 下垂体性小人症
	1898	ソマトメジンC (IGF-Ⅰ)	血清0.4	凍結	A	＊ 218 生化Ⅱ	3～4	ECLIA法	下記参照	M	末端肥大症・巨人症 下垂体機能低下症 下垂体性小人症 思春期遅発症

＊　インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）をソマトメジンCと併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

ソマトメジンC基準値

男　性

年齢	-2SD～+2SD	年齢	-2SD～+2SD	年齢	-2SD～+2SD
0	11～149	26	119～329	52	86～242
1	14～148	27	116～322	53	85～240
2	18～154	28	114～315	54	84～239
3	24～164	29	111～309	55	84～238
4	32～176	30	109～303	56	83～237
5	44～193	31	107～297	57	82～236
6	55～215	32	105～292	58	81～235
7	63～247	33	103～287	59	80～233
8	72～292	34	102～283	60	79～232
9	84～350	35	100～279	61	77～230
10	99～423	36	99～275	62	76～228
11	113～499	37	97～272	63	75～226
12	125～557	38	96～269	64	73～224
13	133～579	39	95～266	65	72～221
14	138～570	40	94～263	66	70～219
15	141～552	41	94～261	67	68～216
16	142～543	42	93～259	68	66～213
17	142～540	43	92～257	69	65～209
18	142～526	44	92～255	70	63～206
19	143～501	45	91～253	71	61～202
20	142～470	46	90～250	72	58～198
21	139～436	47	90～250	73	56～194
22	135～405	48	89～248	74	54～190
23	131～379	49	88～246	75	52～185
24	128～356	50	87～245	76	50～181
25	125～337	51	87～243	77	48～177

（単位：ng/mL）

女　性

年齢	-2SD～+2SD	年齢	-2SD～+2SD	年齢	-2SD～+2SD
0	15～154	26	146～336	52	78～213
1	23～186	27	141～328	53	77～212
2	32～213	28	137～320	54	76～211
3	40～227	29	133～312	55	75～210
4	48～238	30	129～304	56	74～208
5	56～252	31	126～297	57	73～207
6	69～287	32	122～290	58	72～205
7	89～357	33	119～283	59	71～203
8	111～438	34	115～277	60	70～201
9	133～517	35	112～271	61	69～198
10	155～588	36	109～265	62	68～196
11	175～638	37	106～260	63	66～194
12	188～654	38	103～254	64	65～191
13	193～643	39	100～250	65	64～188
14	193～625	40	98～245	66	62～186
15	192～614	41	95～240	67	61～183
16	192～611	42	93～236	68	60～180
17	191～599	43	90～233	69	59～177
18	188～574	44	88～229	70	57～175
19	182～539	45	87～226	71	56～172
20	175～499	46	85～224	72	55～170
21	168～459	47	83～221	73	54～167
22	161～425	48	82～219	74	53～165
23	155～397	49	81～218	75	52～163
24	151～375	50	80～216	76	50～160
25	147～358	51	79～215	77	49～158

（単位：ng/mL）

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
下垂体機能検査	1858	黄体形成ホルモン (LH)	血清0.3	冷蔵	A	111 生化Ⅱ	1〜2	CLIA 法	下記参照	負荷試験の場合は負荷時間を明記	性腺機能障害 卵巣性無月経 多嚢胞卵巣症候群 下垂体機能低下症 更年期障害
	1860	卵胞刺激ホルモン (FSH)	血清0.5	冷蔵	A	111 生化Ⅱ	1〜2	CLIA 法	下記参照		
	1804	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血清0.5	冷蔵	A	104 生化Ⅱ	1〜2	CLIA 法	0.340〜3.880 μIU/mL		甲状腺機能異常 下垂体機能低下症
	1864	プロラクチン (PRL)	血清0.3	冷蔵	A	98 生化Ⅱ	1〜2	CLIA 法	下記参照		下垂体機能低下症 下垂体腫瘍 プロラクチン産生腫瘍 視床下部疾患
	1862	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血漿0.3	凍結	F1	194 生化Ⅱ	2〜3	ECLIA法	7.2〜63.3 (早朝安静時) pg/mL		アジソン病 クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍
	2670	抗利尿ホルモン (ADH) (AVP) (バゾプレシン)	血漿1.2	凍結	F1	235 生化Ⅱ	6〜8	RIA 二抗体法	自由飲水 2.8以下 水制限 4.0以下 pg/mL	溶血の影響あり M	バゾプレッシン分泌低下症 (中枢性尿崩症)

黄体形成ホルモン（LH）基準値

男　性（mIU/mL）	女　性（mIU/mL）
0.1〜8.7	卵胞期：1.2 〜 13.3 排卵期：1.3 〜 55.7 黄体期：0.5 〜 16.5 閉経期：13.3 〜 61.6

卵胞刺激ホルモン（FSH）基準値

男　性（mIU/mL）	女　性（mIU/mL）
0.1〜13.8	卵胞期：2.2 〜 11.5 排卵期：2.1 〜 18.6 黄体期：1.1 〜 10.6 閉経期：10.5 〜 142.8

プロラクチン（PRL）基準値

男　性（ng/mL）	女　性（ng/mL）
3.7 〜16.3	卵胞期：4.6 〜26.8 排卵期：6.0 〜40.9 黄体期：1.2 〜33.6 閉経期：0.6 〜18.5

内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
甲状腺機能検査	1802	T_3 (トリヨードサイロニン)	血清0.3	冷蔵	A	102 生化Ⅱ	1～3	CLIA法	76～177 ng/dL		甲状腺機能異常 バセドウ病 橋本病
	1803	T_4 (サイロキシン)	血清0.3	冷蔵	A	111 生化Ⅱ	1～3	CLIA法	4.83～11.21 μ g/dL		
	1806	Free T_3 (遊離トリヨード サイロニン)	血清0.3	冷蔵	A	127 生化Ⅱ	1～2	CLIA法	2.13～4.07 pg/mL		
	1807	Free T_4 (遊離サイロキシン)	血清0.3	冷蔵	A	127 生化Ⅱ	1～2	CLIA法	0.95～1.74 ng/dL		
	1808	TBG (サイロキシン 結合グロブリン)	血清0.3	冷蔵	A	130 生化Ⅱ	3～6	CLEIA法	14.0～31.0 μ g/mL	M	甲状腺機能異常
	1809	サイログロブリン (Tg)	血清0.3	冷蔵	A	133 生化Ⅱ	1～3	ECLIA法	33.70以下 ng/mL		甲状腺炎 甲状腺腺腫 バセドウ病
	2349	TSH レセプター抗体 (TRAb)	血清0.3	冷蔵	A	＊1 226 免疫	3～4	RRA法	(－) 結合阻害率： －10.0～10.0 %	ブタTSHレセプターを使用（第1世代） 判定基準は下記参照 L	バセドウ病 甲状腺機能亢進症
	4116	TSH レセプター抗体定量 (TRAb 定量)	血清0.6	冷蔵	A		4～6	RRA法 (チューブ固相法)	1.0未満 IU/L	リコンビナント・ヒトTSHレセプターを使用（第2世代） L	
	4699	TSH レセプター抗体定量 (TRAb 定量)	血清0.5	冷蔵	A		1～3	ECLIA法	2.0未満 (未治療バセドウ病診断の至適カットオフ値として) IU/L	抗TRAbモノクローナル抗体（M22）を使用（第3世代）	
	3096	TSH 刺激性 レセプター抗体 (TSAb, 甲状腺刺激抗体)	血清0.5	凍結	A	＊1 340 免疫	4～6	Bioassay法 ＋ EIA法	120以下 %	L	
副甲状腺・骨代謝関連検査	1924	オステオカルシン (BGP)(OC)	血清0.3	凍結	A	＊2 ＊3 161 生化Ⅱ	3～6	FEIA法	8.3～32.7 ng/mL	M	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺腺腫
	3339	骨型アルカリ ホスファターゼ (BAP)	血清0.3	凍結	A	＊4 161 生化Ⅱ	3～4	CLEIA法	男 3.7～20.9 女 閉経前 2.9～14.5 閉経後 3.8～22.6 μ g/L	M	癌の骨転移 代謝性骨疾患 腎性骨異栄養症 副甲状腺機能亢進症
	4898	total P1NP (1 型プロコラーゲン -N-プロペプチド)	血清0.4	冷蔵	A	＊4 169 生化Ⅱ	2～3	ECLIA法	男(30～83才) 18.1～74.1 女(閉経前30～44才) 16.8～70.1 (閉経後45～79才) 26.4～98.2 n g/mL		骨粗鬆症

＊1 抗TSHレセプター抗体（TRAb）及び甲状腺刺激抗体（TSAb）を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。
＊2 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。
＊3 TRACP-5b、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。
＊4 骨型アルカリホスファターゼ（BAP）、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（IntactPINP）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PINP）及びALPアイソザイム（PAG電気泳動法）のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

TSHレセプター抗体（TRAb）判定基準

(－)	－10.0～10.0
(±)	10.1～15.0
(＋)	15.1以上

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副甲状腺・骨代謝関連検査	4443	低カルボキシシル化オステオカルシン (ucOC)	血清0.3	凍結	A	*1 158 生化Ⅱ	4～7	ECLIA法	4.50未満 ng/mL	溶血は低値傾向 L	骨粗鬆症 ビタミンK_2剤の治療選択及び経過観察
	4119	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)	血清0.6	冷蔵	A	*2 *3 156 生化Ⅱ *4 腫管	3～4	EIA法	男 9.5～17.7 女 閉経前 7.5～16.5 閉経後 10.7～24.0 nmol BCE/L	薬剤治療の指標は下記参照 L	副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症 悪性腫瘍骨の転移 代謝性骨疾患
	4026		尿 2 (注)	凍結	D		4～6		下記参照		
	4020	デオキシピリジノリン (DPD)	尿 2 (注)	冷蔵	D	*2 *3 191 生化Ⅱ *4 腫管	4～6	EIA法	クレアチニン換算値 男 2.1～5.4 女 2.8～7.6 nmol/mmol·CRE	薬剤治療の指標は下記参照 L	
	4488	TRACP-5b	血清0.3	凍結	A	*2 *5 156 生化Ⅱ *4 腫管	3～5	EIA法	男 170～590 女 YAM※ 120～420 mU/dL	L	骨粗鬆症 代謝性骨疾患 骨転移（肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）
	3459	25-OH ビタミンD	血清0.5	冷蔵	A	*6 117 生化Ⅰ	3～5	ECLIA法	ng/mL	判定の目安については「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」をご参照ください。 L	骨粗鬆症 ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症

● 腫管 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

＊1 骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。

＊2 TRACP-5b、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

＊3 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更した時は変更後6月以内に1回に限り算定できる。

＊4 乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

＊5 代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。

＊6 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。また、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

（注）早朝の第2尿を提出

※YAM（Young Adult Mean：若年者成人平均値）：健常閉経前女性（30～44才）で確立された平均 ±1.96SD の範囲の値。

骨粗鬆症薬剤治療の指標

	血清NTx	尿中NTx	尿中デオキシピリジノリン
骨折高リスクの指標	16.5超	54.3超	7.6超
骨量減少高リスクの指標	13.6以上	35.3以上	5.9以上
単位	nmol BCE/L	nmol BCE/mmol・CRE	nmol/mmol・CRE

●ビタミンD不足・欠乏の判定指針（25-OHビタミンD濃度による）

ビタミンD充足状態：30.0ng/mL以上
ビタミンD不足　　：20.0ng/mL以上30.0ng/mL未満
ビタミンD欠乏　　：20.0ng/mL未満

内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副甲状腺関連検査	1811	カルシトニン	血清0.3	凍結	A	137 生化Ⅱ	3〜4	ECLIA法	男 5.15以下 女 3.91以下 pg/mL	M	甲状腺髄様癌 カルシウム代謝異常
	1849	PTH-Intact	血清0.5	凍結	A	170 生化Ⅱ	1〜3	ECLIA法	10〜65 pg/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記	副甲状腺機能異常 カルシウム代謝異常 骨代謝異常
	4273	Whole-PTH	血漿0.4	凍結	F1		3〜4	ECLIA法	14.9〜56.9 pg/mL	M	
	3214	PTHrP-intact (副甲状腺ホルモン関連蛋白)	血漿0.5	凍結	F2	194* 生化Ⅱ	6〜8	IRMA法 (ビーズ固相法)	1.1未満 pmol/L	M	高カルシウム血症 (特に悪性腫瘍に伴うもの)

＊ 高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎皮質機能検査	2702	17-KS　7分画	蓄尿　5	冷蔵	D	213 生化Ⅱ	6～8	GC/MS法	下記参照	24時間尿量を記入 M	クッシング症候群 副腎皮質機能低下 先天性副腎過形成 精巣腫瘍　卵巣腫瘍
	2715	11-OHCS (11-ハイドロキシコルチコステロイド)	血清2.1	冷蔵	A	60 生化Ⅱ	4～10	蛍光法 (De Moore白井変法)	5.0～21.4 (午前 8～10 時採血) μ g/dL	L	アジソン病 クッシング症候群 副腎皮質異常
	1854	コルチゾール	血清0.5	冷蔵	A	127 生化Ⅱ	2～3	CLIA法	4.5～21.1 (午前8時～10時採血) μ g/dL	負荷試験の場合は負荷時間を明記	アジソン病 クッシング症候群 副腎皮質腫瘍 副腎皮質機能低下症 先天性副腎過形成
	1914		蓄尿　2	冷蔵	D	127 生化Ⅱ	3～5	RIA法 (チューブ固相法)	(非抱合型) 11.2～80.3 μ g/day	24時間尿量を記入 M	

17-KS7分画 基準値

	略号	男性（mg/day）	女性（mg/day）
アンドロステロン	And	1.12～4.71	0.22～2.78
エチオコラノロン	Etio	0.43～3.23	0.10～2.39
デヒドロエピアンドロステロン	DHEA	2.92以下	1.49以下
11-ケトアンドロステロン	11-Keto-And	0.50以下	0.48以下
11-ケトエチオコラノロン	11-Keto-Etio	0.08～0.63	0.62以下
11-OHアンドロステロン	11-OH-And	0.39～2.04	0.19～1.17
11-OHエチオコラノロン	11-OH-Etio	0.54以下	0.75以下

内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎皮質機能検査	2558	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート)	血清0.3	冷蔵	A	174 生化Ⅱ	3～4	CLEIA法	下記参照	M	アジソン病 クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍
	1852	アルドステロン (PAC)	血漿0.5	凍結	F1	125 生化Ⅱ	3～4	CLEIA法	随時　173.0以下 pg/mL	血清も検査可 血清基準値： 170.0pg/mL 以下(随時) 負荷試験の場合は 負荷時間を明記　M	原発性アルドステロン症 Bartter症候群 腎血管性高血圧症 アジソン病
	1853		蓄尿　2	凍結	D	125 生化Ⅱ	4～6		10以下 μg/day	24時間尿量を記入 酸性蓄尿不可 M	

DHEA-S（デヒドロエピアンドロステロンサルフェート）基準値

年　齢（歳）	男　性（μg/dL）	女　性（μg/dL）
20～29	159～538	92～399
30～39	125～475	58～327
40～49	123～422	41～218
50～59	76～386	30～201

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎髄質機能検査	3185	VMA定量 (バニリルマンデル酸)	血漿1.5	凍結	F1	90 生化Ⅱ	6〜9	LC-MS/MS法	3.3〜8.6 ng/mL	M	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	3186		酸性蓄尿 1	冷蔵	D	90 生化Ⅱ	4〜5		1.4〜4.9 mg/day	6N塩酸20mLを入れ24時間蓄尿（pH3以下） 混和後必要量を冷蔵保存 24時間尿量を記入 M	
	4080		尿 1	冷蔵	D		4〜5		成人 1.2〜4.9 μg/mg·Cr	正常児参考基準値については下記参照 M	
	3108	HVA定量 (ホモバニリン酸)	血漿1.5	凍結	F1	69 生化Ⅱ	6〜9	LC-MS/MS法	4.4〜15.1 ng/mL	M	悪性黒色腫 褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	3188		酸性蓄尿 1	冷蔵	D	69 生化Ⅱ	4〜5		1.6〜5.5 mg/day	6N塩酸20mLを入れ24時間蓄尿（pH3以下） 混和後必要量を冷蔵保存 24時間尿量を記入 M	
	4081		尿 1	冷蔵	D		4〜5		成人 1.6〜5.5 μg/mg·Cr	正常児参考基準値については下記参照 M	
	2964	カテコールアミン 3分画 アドレナリン :A ノルアドレナリン:NA ドーパミン :DA	血漿1.1	凍結	F1	170 生化Ⅱ	4〜5	HPLC法	A 0.10以下 NA 0.10〜0.50 DA 0.03以下 ng/mL	L	褐色細胞腫 神経芽細胞腫 本態性高血圧症 心不全
	2685		酸性蓄尿 1	冷蔵	D	170 生化Ⅱ	4〜5		蓄尿 A 1.1〜22.5 NA 29.2〜118 DA 100〜1000 μg/day	6N塩酸20mLを入れ24時間蓄尿（pH3以下） 混和後必要量を冷蔵保存 24時間尿量を記入 M	
	2873	メタネフリン2分画 メタネフリン :MN ノルメタネフリン:NMN	酸性蓄尿 2	冷蔵	D	221 生化Ⅱ	5〜6	LC-MS/MS法	MN 0.04〜0.18 NMN 0.10〜0.28 mg/day	6N塩酸20mLを入れ24時間蓄尿（pH3以下） 混和後必要量を冷蔵保存 24時間尿量を記入 L	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	3660	セロトニン (5-HT)	全血0.6	凍結	F1		4〜10	LC-MS/MS法	52.8〜200.0 ng/mL	M	カルチノイド症候群 脳性麻痺 ダンピング症候群 躁うつ病 膠原病
	2691	5-HIAA (5-ハイドロキシインドール酢酸)	血漿1.5	凍結	F1	95 生化Ⅱ	6〜9	LC-MS/MS法	1.8〜6.1 ng/mL	M	カルチノイド症候群 脳性麻痺 ダンピング症候群 パーキンソン病 フェニルケトン尿症 先天性風疹症候群
	2692		酸性蓄尿 1	冷蔵	D	95 生化Ⅱ	4〜5		0.6〜4.1 mg/day	6N塩酸20mLを入れ24時間蓄尿（pH3以下） 混和後必要量を冷蔵保存 24時間尿量を記入 M	

尿中 VMA/HVA(クレアチニン補正)：正常児参考基準値

月 齢	VMA（μg/mg Cr） mean±S.D	HVA（μg/mg Cr） mean±S.D
1〜3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11〜12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1〜12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典：沼田公介 他：小児科診療 12 2921 1990

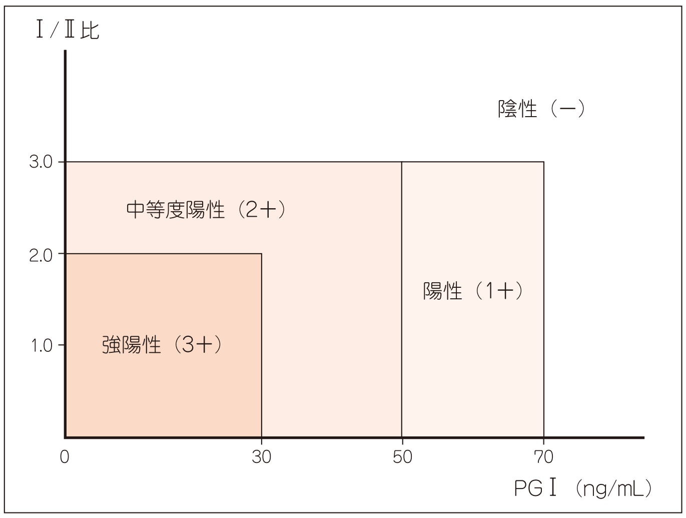
内分泌学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
膵・消化管機能検査	1901	インスリン (IRI)	血清0.5	冷蔵	A	106 生化Ⅰ	2～3	CLIA法	2.2～12.4 μU/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記 溶血により低値傾向を示す	糖尿病 インスリノーマ
	1899	インスリン抗体	血清0.5	冷蔵	A	110 免疫	5～8	RIA・PEG法	抗体濃度 125.0nU/mL未満 結合率 0.4%未満	L	インスリン自己免疫症候群 インスリン治療中糖尿病 1型糖尿病
	1912	C-ペプチド (CPR)	血清0.5	冷蔵	A	*1 111 生化Ⅰ	2～4	ECLIA法	0.8～2.5 ng/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記	糖尿病 インスリノーマ インスリン自己免疫症候群
	1916		蓄尿 1	凍結	D		3～4		22.8～155.2 μg/day	24時間尿量を記入	
	3665	膵グルカゴン	血漿0.5	凍結	F4	150 生化Ⅰ	4～7	EIA法	5.4～55.0 (空腹時) pg/mL	溶血は低値傾向 L	グルカゴノーマ
	1890	ガストリン	血清0.4	凍結	A	104 生化Ⅰ	3～6	RIA・PEG法	37～172 pg/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記 M	ガストリノーマ Zollinger-Ellison症候群 胃・十二指腸潰瘍
	2861	ICA (膵島細胞質抗体)	血清1.0	凍結	A		17～24	蛍光抗体法	(－)	L	1型糖尿病（IDDM）
	3335	抗GAD抗体	血清0.3	冷蔵	A	*2 134 生化Ⅰ	3～5	EIA法	5.0未満 U/mL	M	1型糖尿病の診断 自己免疫介在性脳炎・脳症
	4306	抗IA-2抗体	血清0.4	冷蔵	A	*3 213 生化Ⅰ	4～7	ELISA法	0.6未満 U/mL	L	1型糖尿病の診断
	4172	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	血清0.3	冷蔵	A		2～3	LA法	下記参照		萎縮性胃炎 胃癌 消化性潰瘍

＊1 同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。
＊2 すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して、1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
＊3 すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

ペプシノゲンによる胃粘膜萎縮度の判定基準

判定		測定値 PGⅠ（ng/mL）		Ⅰ/Ⅱ比
強陽性	3＋	30以下	かつ	2.0以下
中等度陽性	2＋	50以下	かつ	3.0以下
陽性	1＋	70以下	かつ	3.0以下
陰性	－	上記条件以外		



分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤機能検査	0280	尿HCG定性	尿 5	冷蔵	D	＊1 55 生化Ⅱ	2～3	Immuno Chromatography Assay		妊婦の場合は妊娠週数を記入	妊娠判定
	1869	HCG定量（ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量）	血清0.5	冷蔵	A	＊1 138 生化Ⅱ	2～3	ECLIA法	下記参照		絨毛性腫瘍 子宮外妊娠 胞状奇胎 異所性HCG産生腫瘍 切迫流産
	1870		尿 1	冷蔵	D	＊1 138 生化Ⅱ			下記参照		
	1892	HCG-βサブユニット定量	血清0.5	冷蔵	A	＊1 ＊2 136 生化Ⅱ	3～5	RIA 固相法（IRMA）	0.10以下 ng/mL	妊婦の場合は妊娠週数を記入	
	1893		尿 2	冷蔵	D	＊1 ＊2 136 生化Ⅱ			0.1以下 ng/mL	L	

＊1 ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
＊2 HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。

HCG定量（血中）基準値

		基準値
男性		3未満 mIU/mL
女性	正常性周期 閉経期	4未満 13未満 mIU/mL
妊婦	～ 6W	～ 87,200
	7～10W	6,700～202,000
	11～20W	13,800～ 68,300
	21～40W	4,700～ 65,300 mIU/mL

HCG定量（尿中）基準値

		基準値
男性 非妊婦		20未満 mIU/mL
妊婦	～ 6W	～ 62,600
	7～10W	1,800～191,000
	11～20W	3,100～125,000
	21～40W	1,400～ 29,400 mIU/mL

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤機能検査	1865	E_2 （エストラジオール）	血清0.5	凍結	A	177 生化Ⅱ	1～2	CLIA法	男 39.8以下 女 卵胞期：19.5～144.2 排卵期：63.9～356.7 黄体期：55.8～214.2 閉経期：32.2以下 pg/mL	負荷試験の場合は負荷時間を明記 妊婦の場合は妊娠週数を記入	卵巣機能障害 排卵誘発のモニタリング エストロゲン産生腫瘍 副腎皮質過形成
	1872	プロゲステロン	血清0.3	凍結	A	151 生化Ⅱ	1～2	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は 妊娠週数を記入	卵巣機能低下症 無月経症　妊娠中毒 排卵異常 アジソン病
	2726	プレグナンジオール	蓄尿　5	冷蔵	D	213 生化Ⅱ	6～8	GC/MS法	男 0.12～0.93 女 卵胞期：0.16～1.28 黄体期：0.69～4.70 閉経期：1.00以下 mg/day	（注） M	卵巣機能低下 胎盤機能不全
	4398	プレグナントリオール	蓄尿　5	冷蔵	D	234 生化Ⅱ	6～8	GC/MS法	男 0.25～1.48 女 卵胞期：0.07～1.24 黄体期：0.25～1.58 閉経後：1.00以下 mg/day	M	副腎皮質過形成 副腎皮質癌 汎下垂体機能低下症
	4433	AMH （抗ミュラー管ホルモン）	血清0.5	冷蔵	A		3～5	CLEIA法	ng/mL		不妊症 多嚢胞性卵巣症候群
	1873	テストステロン	血清0.7	冷蔵	A	125 生化Ⅱ	2～3	CLIA法	男 142.4～923.1 女 10.8～ 56.9 ng/dL	負荷試験の場合は 負荷時間を明記	性腺機能低下症 男性化卵巣腫瘍 副腎皮質過形成 多嚢胞性卵巣症候群（PCO） 原発性性腺不全 思春期遅延 クッシング症候群
	3074	遊離テストステロン	血清0.3	凍結	A	163 生化Ⅱ	3～6	RIA法 （チューブ固相法）	下記参照	M	

（注）防腐剤を加えずに冷所に蓄尿し、所定量を提出、24時間尿量および性別（性周期）を明記

プロゲステロン基準値

	プロゲステロン (ng/mL)
非妊婦	卵胞期：0.1 ～ 1.2 排卵期：0.1 ～13.1 黄体期：5.4 ～24.4 閉経期：0.1 ～ 0.8
妊婦	前期： 4.4～ 49.6 中期：11.3～143.1 後期：30.4～250.7
男性	0.1～0.9

遊離テストステロン 年齢別基準値

年齢（歳）	男性（pg/mL）	女性（pg/mL）
20～29	7.6～23.8	0.4～2.3
30～39	6.5～17.7	0.6～2.5
40～49	4.7～21.6	0.3～1.8
50～59	4.6～19.6	0.8～1.7 （50歳以上）
60～69	5.3～11.5	
70以上	4.6～16.9	

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤機能検査	3218	頸管腟分泌液中癌胎児性フィブロネクチン	腟分泌液（後腟円蓋）	凍結	Q5	＊1 204 免疫	3〜4	EIA法	判定（−）濃度50.0未満 ng/mL	採取方法は下記参照 L	切迫早産 破水
	3161	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	凍結	Q6	＊2 122 尿・糞便	3〜4	LA法	1.60以下 μg/mL	採取方法は次頁参照 M	絨毛羊膜炎 切迫早産

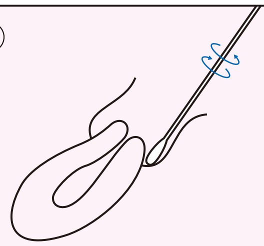
＊1　破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）及び腟分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白１型（IGFBP-1）定性を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
＊2　絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

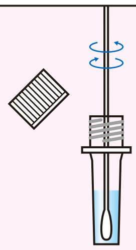
検体採取方法

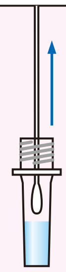
検査項目

・頸管腟分泌液中癌胎児性フィブロネクチン

検体採取に関する注意事項
・検体は後腟円蓋から採取してください。
・腟表面を強くこすらないように注意してください。

①

専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。
（腟表面を強くこすらないでください。）

②

検体抽出液入りチューブの白色キャップをはずし、検体を採取した綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。（この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。）

③

綿棒を検体抽出液から引き抜きます。

④

検体を抽出した容器に検体濾過フィルターを取り付けます。

⑤

検体抽出液の全量を検体保存チューブに加圧して滴下し、チューブの蓋を締めて保存してください。

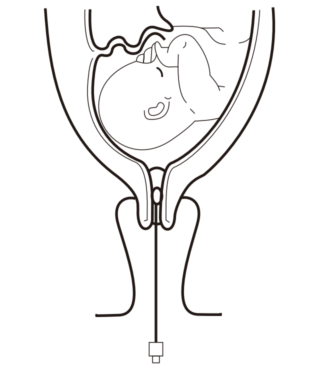
⑥

測定試料
（検体は凍結してご提出ください。）

検体採取方法

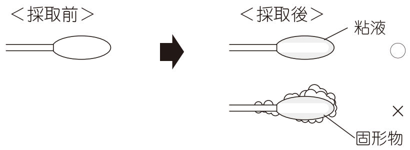
検査項目

・子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ



正しい採取部位

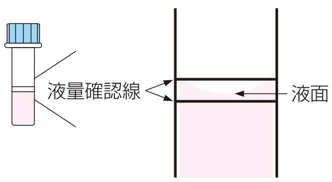
①検体採取は腟部洗浄前に行い子宮頸管部より採取します。
②検体採取前に子宮腟部の粘液を綿球で拭い取ります。
③綿棒を頸管内に挿入しゆっくりと2回転程させます。
（検体は綿棒全体に浸み込むように採取します。また、綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直してください。）



④ゆっくりと綿棒を抜いてください。
⑤採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

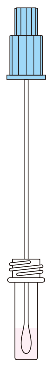
提出方法（抽出方法）

①



抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行って下さい。

②

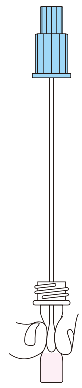


頸管粘液（滲出液）を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。

③

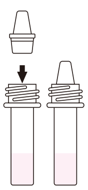
綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。

④



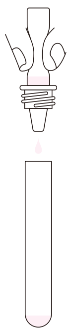
綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。

⑤



フィルターをセットします。

⑥



検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。
必要量を得られない場合は検体採取からやり直して下さい。

⑦

検体保存容器にキャップをし、容器ラベルを貼って保存して下さい。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	1851	レニン活性 (PRA)	血漿0.6	凍結	F1	*1 100 生化Ⅱ	4〜5	EIA法	(臥位) 0.2〜2.3 (座位) 0.2〜3.9 (立位) 0.2〜4.1 ng/mL/hr	負荷試験の場合は負荷時間を明記 M	原発性アルドステロン症 高血圧症 腎不全 Bartter症候群 副腎皮質機能低下症 傍糸球体細胞腫
	1874	レニン定量 (ARC)(PRC)	血漿0.5	凍結	F1	*1 108 生化Ⅱ	3〜4	CLEIA法	随時 1.2〜35.4 pg/mL		
	1897	エリスロポエチン (EPO)	血清0.7	凍結	A	*2 209 生化Ⅱ	3〜4	CLEIA法	4.2〜23.7 mIU/mL	L	赤血球増加症 腎性貧血 骨髄異形成症候群
	2730	サイクリックAMP	血漿0.4	凍結	F1	175 生化Ⅱ	5〜11	RIA (DCC) 法	6.4〜20.8 pmol/mL	M	腎不全 肝硬変 副甲状腺機能異常 甲状腺機能異常 心筋梗塞 躁うつ病
	2729		蓄尿 1	凍結	D	175 生化Ⅱ			3.3〜6.1 μmol/day	24時間蓄尿し、混和後必要量を凍結保存 24時間尿量を記入 M	
	1855	h-ANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	血漿0.3	凍結	F2	*3 *4 227 生化Ⅱ	2〜3	CLEIA法	43.0以下 pg/mL		心不全 心筋梗塞 慢性腎不全
	3237	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	血漿0.5	凍結	F3	*3 *4 *5 136 生化Ⅱ	1〜2	CLIA法	18.4以下 pg/mL		心不全 心筋梗塞
	4419	NT-proBNP	血清0.5	冷蔵	A	*3 *4 *5 136 生化Ⅱ	1〜3	ECLIA法	125以下 pg/mL		
	4182	アディポネクチン	血清0.5	冷蔵	A2		3〜9	LA法	4.0以上 μg/mL	L	動脈硬化性疾患 生活習慣病

*1 レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。
*2 エリスロポエチンは、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア 赤血球増加症の鑑別診断
イ 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定
*3 脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）及び心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
*4 脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）及び心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
*5 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	2649	トランスフェリン (Tf)	血清0.5	冷蔵	A	60 免疫	3〜4	ネフェロメトリー法	190〜320 mg/dL	L	鉄欠乏性貧血 ネフローゼ症候群 ヘモクロマトーシス
	1834	フェリチン	血清0.3	冷蔵	A	108 生化Ⅰ	1〜2	CLIA法	男 9.0〜220.0 女 4.0〜 88.0 ng/mL		再生不良性貧血 鉄過剰症、欠乏症 鉄欠乏性貧血
	1840	P-Ⅲ-P (プロコラーゲンⅢペプチド)	血清0.4	冷蔵	A	*1 *2 140 生化Ⅰ	4〜6	IRMA (チューブ固相法)	0.3〜0.8 U/mL	M	急性肝炎 慢性活動性肝炎 肝硬変 アルコール性肝障害
	6638	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清0.5	冷蔵	A	*1 *2 148 生化Ⅰ	3〜5	CLEIA法	4.4以下 ng/mL	M	
	5116	M2BPGi (Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体)	血清0.3	冷蔵	A	*1 *2 *3 194 生化Ⅰ	3〜4	CLEIA法	陰性(−) C.O.I. 1.00未満	L	慢性肝炎 肝硬変
	1886	ミオグロビン (Mb)	血清0.5	冷蔵	A	*4 139 生化Ⅰ	3〜4	CLIA法	60.0以下 ng/mL	L	心筋梗塞 筋ジストロフィー症 クラッシュ症候群 DM/PM
	1880		尿 8	冷蔵	L5		3〜4	RIA 二抗体法	10.0以下 ng/mL		
	4158	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	血清0.3	凍結	A	*4 *5 139 生化Ⅰ	3〜9	LA法	5.0以下 ng/mL	M	心筋梗塞
	1922	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血清0.4	凍結	A	*6 184 生化Ⅰ	3〜6	EIA法	2.5以下 ng/mL	M	心筋梗塞 心筋炎
	1925	心筋トロポニンT (TnT)	血清0.7	凍結	A	*7 115 生化Ⅰ	3〜4	ECLIA法	0.014以下 ng/mL	急性心筋梗塞診断のカットオフ値:0.100 L	心筋梗塞 狭心症

*1 Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
*2 本検査とプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)若しくはⅣ型コラーゲン、Ⅳ型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
*3 慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
*4 心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
*5 急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。
*6 同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
*7 心筋トロポニンIと心筋トロポニンT(TnT)定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

M2BPGi判定基準

判定		C.O.I.
陰性	(−)	1.00未満
陽性	(1+)	1.00〜2.99
	(2+)	3.00以上

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	2549	レチノール結合蛋白 (RBP)	血清0.3	冷蔵	A	136 免疫	3～4	LA法	男 2.7～6.0 女 1.9～4.6 mg/dL	M	甲状腺機能亢進症 ビタミンA欠乏症 肝疾患 腎不全
	2548	プレアルブミン (トランスサイレチン)	血清0.3	冷蔵	A	107 免疫	3～4	TIA法	22.0～40.0 mg/dL	M	栄養不良 慢性肝障害
	3391	尿アルブミン定量	蓄尿 1	冷蔵	D	*1 102 尿・糞便	1～2	TIA法	2.0～20.0 mg/day		糖尿病性腎症 腎炎
	3390	尿アルブミン/cr比	尿 1	冷蔵	D				10.0以下 mg/g·CRE		
	4351	尿中 トランスフェリン	尿 1	冷蔵	D	*1 104 尿・糞便	3～4	LA法	1.0以下 mg/g・CRE	M	糖尿病性腎症
	4052	尿中Ⅳ型コラーゲン	尿 5	冷蔵	L8	*1 189 尿・糞便	4～10	EIA法	30歳代： 4.0以下 40歳以上：4.9以下 随時尿7.3以下 μg/g・CRE	早朝一番尿を提出してください。 M	
	4698	L-FABP (尿中L型脂肪酸結合蛋白)	尿 1	凍結	D	*2 210 尿・糞便	3～4	LA法	8.4以下 μg/g・Cr	M	慢性腎臓病（糸球体腎炎） 薬剤性腎障害 糖尿病性腎症 糖尿病
	1895	α_1-マイクログロブリン (α_1-MG)	血清0.5	冷蔵	A	136 免疫	2～3	LA法	9.1～18.4 mg/L	M	尿細管障害 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 肝機能障害
	1832	β_2-マイクログロブリン (BMG)	血清0.5	冷蔵	A	104 免疫	2～3	LA法	0.9～1.9 mg/L		多発性骨髄腫 腎不全 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 悪性腫瘍
	1833		尿 1	凍結	D	104 免疫			200以下 μg/L	pH5.5～7.5を確認して提出	
	4352	シスタチンC	血清0.3	冷蔵	A	*3 118 生化Ⅰ	2～3	LA法	男 0.61～1.00 女 0.51～0.82 mg/L	M	腎機能低下 腎不全 心不全
	3243	血清アミロイドA蛋白 (SAA)	血清0.5	冷蔵	A	*4 47 免疫	3～4	LA法	8.0以下 μg/mL	M	炎症性疾患 膠原病 悪性腫瘍

＊1　アルブミン定量（尿）、トランスフェリン（尿）及びⅣ型コラーゲン（尿）は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
＊2　原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
＊3　尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
＊4　血清アミロイドA蛋白（SAA）をC反応性蛋白（CRP）定性又はC反応性蛋白（CRP）と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	2677	オリゴクローナルバンド	血清0.4 と 髄液0.4	冷蔵	A・D	＊1 522 尿・糞便	6〜9	等電点電気泳動法	陰性：バンド数0〜1本	M	多発性硬化症
	2547	クリオグロブリン定性	血清0.3	冷蔵	A	42 免疫	5〜6	ゲル内拡散法	(−)	血清分離の際は、冷却遠心を避けて下さい M	本態性クリオグロブリン血症 膠原病 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 肝疾患
	2565	α_1-アンチトリプシン (α_1-AT)	血清0.5	冷蔵	A	80 血液	3〜4	ネフェロメトリー法	94〜150 mg/dL	L	感染症 悪性腫瘍 膠原病 心筋梗塞
	2647	α_2-マクログロブリン (α_2-MG)	血清0.4	冷蔵	A	138 血液	3〜6	ネフェロメトリー法	男 100〜200 女 130〜250 mg/dL	M	慢性肝疾患 ネフローゼ症候群 DIC
	3592	ハプトグロビン 型判定無	血清0.5	冷蔵	A	136 免疫	3〜4	ネフェロメトリー法	19〜170 mg/dL	L	自己免疫性溶血性貧血 感染症 膠原病 溶血性疾患全般 肝疾患 不適合輸血後 DIC
	2653	ハプトグロビン 型判定有	血清0.3	冷蔵	A		5〜6	TIA法/薄層アクリルアミドゲル電気泳動法	1-1型 43〜180 2-1型 38〜179 2-2型 15〜116 mg/dL	M	
	2648	セルロプラスミン (Cp)	血清0.4	冷蔵	A	90 免疫	3〜4	ネフェロメトリー法	21.0〜37.0 mg/dL	M	膠原病 貧血 肝胆道疾患 悪性腫瘍 Wilson病
	2634	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清)	血清0.5	冷蔵	A	＊2 170 免疫	5〜8	免疫電気泳動法		特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行います 年令、病歴を明記 M	M蛋白血症の有無・同定 自己免疫性疾患 肝疾患 膠原病 感染症 悪性腫瘍 血清蛋白異常症 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症
	2636	免疫電気泳動 (特異抗血清) (M蛋白の同定)	血清0.3	冷蔵	A	＊2 224 免疫	4〜6				
	2635	尿中免疫電気泳動 (尿中BJP同定)	尿 5	冷蔵	D	201 免疫	4〜6				
	0417	ベンスジョーンズ蛋白(BJP)定性	尿 10	冷蔵	D	9 尿・糞便	1〜4	Putnum法	陰性		
	0226	血清補体価 (CH_{50})	血清0.4	凍結	A	38 免疫	3〜4	Mayer変法	30〜46 CH_{50}/mL	M	膠原病 感染症 腎炎 慢性肝炎 炎症性疾患
	3657	C_3	血清0.3	凍結	A	70 免疫	1〜3	TIA法	86〜160 mg/dL		SLE 急性糸球体腎炎 C_3欠損症
	3658	C_4	血清0.3	凍結	A	70 免疫	1〜3	TIA法	17〜45 mg/dL		SLE DIC 慢性増殖性腎炎 肝硬変症 C_4欠損症

＊1 IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。
＊2 同一検体につき一回に限り算定する。なお免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白検査	0290	IgG	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1〜3	TIA法	870〜1700 mg/dL		原発性免疫不全症候群 慢性肝疾患 多発性骨髄腫 自己免疫疾患 慢性感染症 IgA腎症（IgA）
	4376	IgGサブクラスIgG4	血清0.4	冷蔵	A	377 免疫	3〜4	LA法	4.5〜117.0 mg/dL	M	
	0289	IgA	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1〜3	TIA法	110〜410 mg/dL		
	0291	IgM	血清0.3	冷蔵	A	*1 38 免疫	1〜3	TIA法	男 33〜190 女 46〜260 mg/dL		
アレルギー検査	1951	IgE（非特異的 IgE）	血清0.3	冷蔵	A	100 免疫	2〜3	FEIA法	170以下 IU/mL	年齢別参考基準値下記参照	アトピー性疾患 肝疾患 膠原病 寄生虫感染症
		特異的IgE CAPシングルアレルゲン	血清各0.3	冷蔵	A	*2 1アレルゲン 110 免疫	2〜3	FEIA法	クラス0 0.34以下 UA/mL	アレルゲン一覧表次頁参照	アレルギー疾患全般 アトピー性疾患 （原因アレルゲンの検索） 気管支喘息 蕁麻疹
		特異的IgE CAPマルチアレルゲン	血清各0.3	冷蔵	A					アレルゲン一覧表次頁参照	
	2222	特異的IgE Viewアレルギー39	血清0.9	冷蔵	A	*2 1,430 免疫	2〜3	FEIA法	クラス0 index：0.27未満	アレルゲン一覧表次頁参照	
	2151	特異的IgE MAST36	血清0.5	冷蔵	A		4〜6	CLEIA法	クラス0 1.39以下 LC	アレルゲン一覧表次頁参照 L	
	1876	アトピー鑑別試験	血清0.3	冷蔵	A	194 免疫	2〜3	FEIA法	（−）	アレルゲン一覧表次頁参照	アトピー性疾患（アトピー/非アトピーの鑑別）
	4470	TARC	血清0.2	冷蔵	A	*3 184 免疫	2〜4	CLEIA法	小児(6〜12ヶ月未満)：1367未満 小児(1〜2歳未満)：998未満 小児(2歳以上)：743未満 成人：450未満 pg/mL		アトピー性皮膚炎の重症度評価

*1　免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。
*2　特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は1,430点を限度として算定する。
*3　血清中のTARC量を測定する場合に月1回を限度として算定できる。

非特異的IgE 年齢別参考基準値

年齢（歳）	平均値±1SD
1未満	1.36〜19.32
1〜3	5.24〜29.99
4〜6	5.19〜111.94
7〜9	13.12〜141.91
10〜12	11.09〜171.79
13〜18	24.72〜126.77
19以上	27.54〜138.34

CAPシングルアレルゲン・CAPマルチアレルゲン判定基準

クラス	UA/mL	判定
0	0.34以下	陰性
1	0.35〜0.69	疑陽性
2	0.70〜3.49	陽性
3	3.50〜17.49	
4	17.50〜49.99	
5	50.00〜99.99	
6	100.00以上	

Viewアレルギー39判定基準

クラス	index値	判定
0	0.27未満	陰性
1	0.27〜0.49	疑陽性
2	0.50〜1.79	陽性
3	1.80〜7.04	
4	7.05〜17.34	
5	17.35〜29.30	
6	29.31以上	

MAST36アレルゲン判定基準

クラス	LC（ルミカウント）	判定
0	0〜1.39	陰性
1	1.40〜2.77	疑陽性
2	2.78〜13.4	陽性
3	13.5〜58.0	
4	58.1〜119	
5	120〜159	
6	160以上	

特異的IgE検査構成アレルゲンの種類

CAPマルチアレルゲン

検査コード	分　類	混合アレルゲンの内容
1990	イネ科	ハルガヤ、ギョウギシバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ
1991	雑草	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ（属）、アキノキリンソウ
1992	食物	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、大豆
1993	穀物	小麦、トウモロコシ、米、ゴマ、ソバ
1994	動物上皮	ネコ皮屑、イヌ皮屑、モルモット上皮、ラット、マウス
1995	カビ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム

Viewアレルギー39アレルゲン

検査コード	アレルゲンの内容	
2222	室内塵	ハウスダスト1
	ダニ	ヤケヒョウヒダニ
	樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ（属）、シラカンバ（属）
	イネ科植物花粉	カモガヤ、オオアワガエリ
	雑草花粉	ブタクサ、ヨモギ
	真菌類（カビ）	アルテルナリア、アスペルギルス、カンジダ、マラセチア（属）
	動物	ネコ（フケ）、イヌ（フケ）
	昆虫	ゴキブリ、ガ
	職業性アレルゲン	ラテックス
	食品	ミルク、卵白、オボムコイド、米、コムギ（実）、ソバ、大豆、ピーナッツ、リンゴ、キウイ、バナナ、ゴマ、牛肉、豚肉、鶏肉、エビ、カニ、サバ、サケ、マグロ

MAST36アレルゲン

検査コード	アレルゲンの内容	
2151	イネ科食物花粉	オオアワガエリ、カモガヤ
	雑草花粉	ブタクサ混合物Ⅰ、ヨモギ
	樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ
	室内塵、ダニ	コナヒョウヒダニ、ハウスダストⅠ
	真菌類（カビ）	カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス
	動物上皮	ネコ皮屑、イヌ皮屑
	食餌系	小麦、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、牛肉、豚肉、鶏肉、卵白、オボムコイド、ソバ、ピーナッツ、ゴマ、キウイ、バナナ、モモ、トマト
	その他	ラテックス

アトピー鑑別試験

検査コード	混合アレルゲンの内容（12種類）
1876	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコ皮屑 、イヌ皮屑、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ（属）、スギ 、カンジダ、アルテルナリア

アレルギー検査セット

検査コード	セット名	特異抗原名
8331	A01　花粉　春季 ①	スギ、ヒノキ
8332	A02　花粉　春季 ②	スギ、ヒノキ、イネ科、雑草
8333	A03　花粉　春季 ③	スギ、ヒノキ、マツ、シラカンバ、ハンノキ、ハルガヤ、カモガヤ
8334	A04　吸入性スクリーニング	スギ、コナヒョウヒダニ、イネ科マルチ、雑草マルチ、動物上皮マルチ、カビマルチ
8335	A05　室内アレルゲンの疑い	ハウスダスト1、コナヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、カビマルチ
8099	A06　アトピー鑑別パネル	スギ、コナヒョウヒダニ、食物マルチ、穀物マルチ、イネ科マルチ、雑草マルチ、動物上皮マルチ、カビマルチ
8373	A07　アレルギー性皮膚炎	ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ、ピティロスポリウム、黄色ブドウ球菌A、黄色ブドウ球菌B
8374	A08　喘　息	ハウスダスト1、ガ、カンジダ、アスペルギルス、アルテルナリア、ヤケヒョウヒダニ、スギ
8375	A09　小　児	ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、卵白、ミルク、小麦、ソバ、大豆、米
8376	A10　食物アレルギー ①	卵白、大豆、米、小麦、ソバ、ミルク、ゴマ
8377	A11　アレルギー性鼻炎（通年）	スギ、カモガヤ、ブタクサ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ
8379	A12　アレルギー性鼻炎（夏季）	ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ
8380	A13　アレルギー性鼻炎（秋季）	ブタクサ、ヨモギ、オオアワガエリ、ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ、カンジダ、ガ
8390	A14　花粉（通年）	オオアワガエリ、ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、スギ、ハンノキ、ヒノキ、シラカンバ
8336	A15　食物アレルギー ②	卵白、ミルク、小麦、ソバ、ピーナッツ、エビ、カニ
8521	A21　食物アレルギー13	卵白、オボムコイド、ミルク、小麦、ピーナッツ、ソバ、カニ、エビ、イクラ、大豆、サケ、キウイ、バナナ
8522	A22　成人アトピー13	ヤケヒョウヒダニ、スギ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、カンジダ、マラセチア、小麦、ソバ、大豆、ピーナッツ、カニ、エビ、サバ
8523	A23　小児アレルギー13	卵白、オボムコイド、ミルク、小麦、ピーナッツ、イクラ、サケ、キウイ、ヤケヒョウヒダニ、イヌ皮屑、ネコ皮屑、スギ、カビマルチ
8524	A24　鼻炎・結膜炎・喘息13	ヤケヒョウヒダニ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、ガ、ユスリカ、ゴキブリ、カビマルチ
8525	A25　花粉症・PFAS13	ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、リンゴ、モモ、トマト、キウイ、メロン、スイカ、セロリ
8526	A26　食物アレルギー8	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、ソバ、エビ、キウイ、イクラ
8527	A27　成人アトピー8	ハウスダスト1、動物上皮マルチ、スギ、マラセチア、カンジタ、小麦、エビ、ピーナッツ
8528	A28　小児アレルギー8	卵白、ミルク、小麦、ピーナッツ、イクラ、ヤケヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、スギ
8529	A29　鼻炎・結膜炎・喘息8	ヤケヒョウヒダニ、動物上皮マルチ、ハンノキ、スギ、ヒノキ、カモガヤ、雑草マルチ、カビマルチ
8530	A30　花粉症・PFAS8	ハンノキ、スギ、カモガヤ、雑草マルチ、リンゴ、モモ、キウイ、メロン

特異的IgE　CAPシングルアレルゲン一覧

吸入性アレルゲン【 花　粉 】

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.イネ科植物		
1980	g 1	ハルガヤ
1966	g 2	ギョウギシバ
1967	g 3	カモガヤ
2141	g 4	ヒロハウシノケグサ
2085	g 5	ホソムギ
1981	g 6	オオアワガエリ
2000	g 7	アシ
1982	g 8	ナガハグサ
2199	g 9	コヌカグサ（属）
2073	g 10	セイバンモロコシ
2019	g 15	小麦（属）
2083	g 16	オオスズメノテッポウ
2123	g 17	スズメノヒエ（属）
2.雑　草		
1962	w 1	ブタクサ
2030	w 2	ブタクサモドキ
1963	w 3	オオブタクサ
1989	w 5	ニガヨモギ
1964	w 6	ヨモギ
2007	w 7	フランスギク
1965	w 8	タンポポ（属）
2108	w 9	ヘラオオバコ
2135	w 10	シロザ
2028	w 12	アキノキリンソウ
2127	w 18	ヒメスイバ

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
2098	w 20	イラクサ（属）
2057	w 22	カナムグラ
3.樹　木		
2111	t 1	カエデ（属）
2029	t 2	ハンノキ（属）
1983	t 3	シラカンバ（属）
2088	t 5	ブナ（属）
2129	t 6	ビャクシン（属）
2082	t 7	コナラ（属）
2115	t 8	ニレ（属）
2128	t 9	オリーブ
2125	t 10	クルミ（属）
2100	t 12	ヤナギ（属）
2025	t 16	マツ（属）
1970	t 17	スギ
2018	t 19	アカシア（属）
1968	t 24	ヒノキ
2124	t 70	クワ（属）

吸入性アレルゲン【花粉以外】

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.ダニ		
1984	d 1	ヤケヒョウヒダニ
1971	d 2	コナヒョウヒダニ
1998	d 70	アシブトコナダニ
1997	d 71	サヤアシニクダニ
1996	d 72	ケナガコナダニ
2.真菌（カビ）／細菌		
2023	m 1	ペニシリウム
1985	m 2	クラドスポリウム
1986	m 3	アスペルギルス
2107	m 4	ムコール
1972	m 5	カンジダ
1973	m 6	アルテルナリア
2021	m 8	ヘルミントスポリウム
2075	m 70	ピティロスポリウム
2120	m 80	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA
2121	m 81	黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB
2136	m205	トリコフィトン
2144	m227	マラセチア（属）
3.動　物		
1957	e 1	ネコ皮屑
2069	e 3	ウマ皮屑
2070	e 4	ウシ皮屑
1961	e 5	イヌ皮屑
2035	e 6	モルモット上皮
2017	e 70	ガチョウ羽毛

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
2036	e 77	セキセイインコのふん
2037	e 78	セキセイインコ羽毛
2116	e 80	ヤギ上皮
2020	e 81	羊上皮
1969	e 82	家兎上皮
1959	e 83	豚上皮
2022	e 84	ハムスター上皮
2001	e 85	ニワトリ羽毛
2002	e 86	アヒル羽毛
2012	e 87	ラット
1960	e 88	マウス
4.室内塵		
1954	h 1	ハウスダスト1
1955	h 2	ハウスダスト2
5.職業性		
2126	k 72	オオバコ種子
2003	k 74	絹
1928	k 75	イソシアネートTDI
1929	k 76	イソシアネートMDI
1930	k 77	イソシアネートHDI
2097	k 78	エチレンオキサイド
2102	k 79	無水フタル酸
2117	k 80	ホルマリン
2078	k 82	ラテックス
2145	k220	Hev b 6.02（ラテックス由来）

食　物　性　ア　レ　ル　ゲ　ン

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.卵		
1974	f 1	卵白
2009	f 75	卵黄
2122	f 233	オボムコイド
2.牛　乳		
1975	f 2	ミルク
2045	f 76	α-ラクトアルブミン
2047	f 77	β-ラクトグロブリン
2103	f 78	カゼイン
2014	f 81	チーズ
1934	f 82	モールドチーズ
3.肉		
1978	f 26	豚肉
2006	f 27	牛肉
2015	f 83	鶏肉
2049	f 88	羊肉
4.魚貝類		
2041	f 3	タラ
1976	f 23	カニ
1977	f 24	エビ
2031	f 37	ムラサキイガイ
2048	f 40	マグロ
1979	f 41	サケ
2033	f 50	サバ
1931	f 58	イカ
1932	f 59	タコ
2034	f 60	アジ
1933	f 61	イワシ
2068	f 80	ロブスター
2132	f 207	アサリ
2077	f 254	カレイ
2133	f 290	カキ（貝）

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
2134	f 338	ホタテ
2130	f 349	イクラ
2131	f 350	タラコ
5.穀　類		
2026	f 4	小麦
2064	f 5	ライ麦
2027	f 6	大麦
2080	f 7	オート麦
2050	f 8	トウモロコシ
2032	f 9	米
1987	f 11	ソバ
2056	f 55	キビ
2055	f 56	アワ
2054	f 57	ヒエ
2142	f 416	ω-5グリアジン
6.豆類／ナッツ		
2096	f 12	エンドウ
2042	f 13	ピーナッツ
2024	f 14	大豆
2095	f 15	インゲン
2137	f 17	ハシバミ
2086	f 18	ブラジルナッツ
2044	f 20	アーモンド
2043	f 36	ココナッツ
1950	f 93	カカオ
2139	f 256	クルミ
2143	f 202	カシューナッツ
2146	f 353	Gly m 4（大豆由来）
2190	f 423	Ara h2（ピーナッツ由来）
2147	f 441	Jug r 1（クルミ由来）
2148	f 443	Ana o 3（カシューナッツ由来）

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
7.果　物		
2089	f 33	オレンジ
1927	f 44	イチゴ
2060	f 49	リンゴ
1939	f 84	キウイ
2063	f 87	メロン
2112	f 91	マンゴ
2008	f 92	バナナ
2059	f 94	洋ナシ
1936	f 95	モモ
2113	f 96	アボカド
1941	f 209	グレープフルーツ
2140	f 329	スイカ
8.野　菜		
2066	f 25	トマト
2076	f 31	ニンジン
2010	f 35	ジャガイモ
1999	f 47	ニンニク
2046	f 48	タマネギ
1937	f 51	タケノコ
1938	f 54	サツマイモ
2109	f 85	セロリ
2110	f 86	パセリ
2138	f 97	ヤマイモ
2099	f 214	ホウレンソウ
2084	f 225	カボチャ
9.その他		
2039	f 10	ゴマ
2013	f 45	ビール酵母
2101	f 79	グルテン
2071	f 89	マスタード
2011	f 90	麦芽

そ の 他

検査コード	略号	特 異 抗 原 名
1.昆　虫		
1935	i 1	ミツバチ
1949	i 3	スズメバチ
1943	i 4	アシナガバチ
2040	i 6	ゴキブリ
2005	i 7	ユスリカ（成虫）
2065	i 8	ガ
2004	i 71	ヤブカ（属）
2.寄生虫		
1988	p 1	カイチュウ
2092	p 4	アニサキス
3.その他		
2118	c 73	ヒトインシュリン
2114	c 74	ゼラチン
1942	o 1	綿
7935	o 72	ピキア精製酵母成分
7936	o 73	ピキア粗抽出物
7937	o 74	ピキア培養上清

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
免疫血液学検査	0331	血液型ABO式	全血2.0	冷蔵	B	＊1 24 免疫	1～2	カラム凝集法			血液型判定 輸血前検査
	0332	血液型Rh(D)式	全血2.0	冷蔵	B	＊1 24 免疫	1～2	カラム凝集法			
	2779	血液型Rh-Hr式	全血2.0	冷蔵	B	＊2 152 免疫	3～4	カラム凝集法		全血のまま当日中に出検 M	血液型判定
	0287	直接クームス	全血1.0	室温	B	34 免疫	2～3	試験管法	陰性	全血のまま当日中に出検	新生児溶血性疾患 輸血 自己免疫性溶血性貧血
	0288	間接クームス	血清2.0	冷蔵	A	＊3 47 免疫			陰性	採血後、血清分離し血清を当日中に出検	
	2783	不規則抗体	血清5.0 と 全血2.0	冷蔵 室温	A ・ B	＊4 ＊5 159 免疫	3～4	カラム凝集法 (クームス法 酵素法)	(－)	(注1) (注2)	血液型不適合妊娠 輸血副作用
	2784	血液型不適合妊娠	全血5.0	冷蔵	A2		3～4	DTT処理法		(注3) L	血液型不適合妊娠 胎児性新生児溶血性疾患

＊1　輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を所定点数に加算する。
＊2　同一検体による検査の場合は因子の種類及び数にかかわらず所定点数を算定する。
＊3　輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
＊4　不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず１月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあっては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。
＊5　輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術又は異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は輸血料に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれかに該当するかを記載する。

（注1）下記の事項をご連絡ください。
①輸血歴の有無および輸血予定時期
②年齢（とくに1才未満）
③疾病歴を記入

（注2）下記の事項にご注意ください。
①血清と血液をペアで提出
②血清については、採血後すみやかに分離
③A,B容器ともに単独依頼

（注3）下記の事項をご連絡ください。
子供及び夫のABO式血液型

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	0255	RF定量	血清0.3	冷蔵	A	＊1 30 免疫	1〜2	LA法	0〜15 IU/mL		関節リウマチ （他の自己免疫疾患）
	3340	抗ガラクトース欠損IgG抗体	血清0.3	凍結	A	＊1 ＊2 ＊4 117 免疫	4〜6	ECLIA法	6.0未満 AU/mL	M	関節リウマチ
	3124	IgG型リウマチ因子（IgG-RF）	血清0.3	冷蔵	A	＊1 ＊4 203 免疫	4〜6	EIA法	IgG-RF index 2.0 未満	M	関節リウマチ 膠原病の活動性評価
	4065	マトリックスメタロプロティナーゼ-3（MMP-3）	血清0.3	冷蔵	A	＊1 ＊4 116 免疫	1〜3	LA法	男 36.9〜121.0 女 17.3〜 59.7 ng/mL		関節リウマチ （経過観察）
	4258	抗 CCP 抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体）	血清0.6	冷蔵	A	＊3 ＊4 204 免疫	2〜3	CLIA法	4.5 未満 U/mL		関節リウマチ （関節リウマチと確定診断できない患者の診断補助、または治療薬の選択時）
	3225	抗核抗体（ANA）	血清0.4	冷蔵	A	105 免疫	3〜4	FA法	40倍未満	M	SLE 強皮症 皮膚筋炎 多発性筋炎 シェーグレン症候群 混合性結合組織病 関節リウマチ

＊1 リウマトイド因子（RF）定量、マトリックスメタロプロティナーゼ-3（MMP-3）、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、及びIgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

＊2 リウマトイド因子（RF）定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊3 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又は、前述とは別に関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、当該検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

＊4 抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロティナーゼ-3（MMP-3）、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	1887	抗DNA抗体	血清0.3	冷蔵	A	168 免疫	3～4	RIA 硫安塩析法	6以下 IU/mL	M	SLE オーバーラップ症候群 関節リウマチ 混合性結合組織病
	2869	抗ds-DNA抗体 IgG	血清0.4	冷蔵	A	168 免疫	3～4	CLEIA法	12.0以下 IU/mL	M	
	2862	抗ds-DNA抗体 IgM	血清0.3	冷蔵	A		3～9	EIA法	6未満 U/mL	M	
	2870	抗ss-DNA抗体 IgG	血清0.4	冷蔵	A	168 免疫	3～4	CLEIA法	25.0以下 AU/mL	M	
	2772	抗RNP抗体	血清0.4	冷蔵	A	144 免疫	5～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	検出せず 倍	M	SLE 混合性結合組織病
	3066	抗RNP抗体	血清0.4	冷蔵	A		3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL		
	2773	抗Sm抗体	血清0.4	冷蔵	A	151 免疫	5～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	検出せず 倍	M	SLE シェーグレン症候群 混合性結合組織病
	3067	抗Sm抗体	血清0.4	冷蔵	A		3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL		
	2995	抗SS-A/Ro抗体	血清0.4	冷蔵	A	163 免疫	5～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	検出せず 倍	M	SLE シェーグレン症候群
	3168	抗SS-A/Ro抗体	血清0.4	冷蔵	A		3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL		
	2996	抗SS-B/La抗体	血清0.4	冷蔵	A	161 免疫	5～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	検出せず 倍	M	シェーグレン症候群
	3169	抗SS-B/La抗体	血清0.4	冷蔵	A		3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL		

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	2733	抗Jo-1抗体	血清0.4	冷蔵	A	＊1 140 免疫	4～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	1倍未満		多発性筋炎 皮膚筋炎
	4054		血清0.4	冷蔵	A		3～5	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	
	4876	抗ARS抗体 (抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体)	血清0.3	冷蔵	A	＊1 190 免疫	4～10	EIA法	陰性（－） index 25.0未満	M	
	3004	抗Scl-70抗体	血清0.4	冷蔵	A	161 免疫	5～6	オクタロニー法（免疫拡散法）	検出せず 倍		強皮症
	3588		血清0.4	冷蔵	A		3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	
	2786	抗セントロメア抗体(ACA)	血清0.4	冷蔵	A	＊2 179 免疫	3～4	CLEIA法	10.0未満 U/mL	M	強皮症 原発性胆汁性肝硬変
	0271	抗マイクロゾーム抗体(マイクロゾームテスト)	血清0.3	冷蔵	A	＊3 37 免疫	3～4	PA法	100倍未満	M	橋本病 バセドウ病 亜急性甲状腺炎 甲状腺腫瘍
	2927	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	血清0.5	冷蔵	A	＊3 146 免疫	1～3	ECLIA法	16.0未満 IU/mL		
	0272	抗サイログロブリン抗体(サイロイドテスト)	血清0.3	冷蔵	A	37 免疫	3～4	PA法	100倍未満	M	
	2675	抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	血清0.5	冷蔵	A	144 免疫	1～3	ECLIA法	28.0未満 IU/mL		

＊1　抗ARS抗体と抗Jo-1抗体定性、同半定量又は同定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
＊2　原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。
＊3　抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	4726	HIT 抗体 (血小板第４因子 -ヘパリン複合体抗体)	血漿0.5	凍結	E	＊1 390 免疫	3〜4	LA法	1.0未満 U/mL	M	ヘパリン起因性血小板減少症
	2785	抗血小板抗体	血清0.5	凍結	A	262 免疫	4〜6	MPHA法	（−）	M	特発性血小板減少性紫斑病
	2889	血小板関連 IgG (PA IgG)	全血7.0	冷蔵	F8	＊2 198 免疫	3〜4	EIA法	30.2以下 ng/10^{7}cells	採血後、当日に出検 受付曜日：月〜金 （注） M	特発性血小板減少性紫斑病
	2768	抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	血清0.3	冷蔵	A	186 免疫	3〜4	FA法	20倍未満	M	原発性胆汁性肝硬変
	2528	抗ミトコンドリア M2抗体	血清0.4	冷蔵	A	194 免疫	3〜4	CLEIA法	陰性（−） index 7.0未満	M	
	2767	抗平滑筋抗体 (SMA)	血清0.3	冷蔵	A		3〜4	FA法	20倍未満	M	自己免疫性肝炎 慢性活動性肝炎
	2788	抗胃壁細胞抗体	血清0.2	冷蔵	A		3〜5	FA法	10倍未満	L	悪性貧血 萎縮性胃炎
	2968	抗アセチルコリン レセプター抗体 (抗 AChR 抗体)	血清0.3	凍結	A	＊3 822 免疫	4〜7	RIA法 (抗ヒトIgG法)	陰性（−） 0.2以下 nmol/L	M	重症筋無力症
	4880	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体)	血清0.3	凍結	A	＊3 1000 免疫	4〜10	RIA法	0.02未満 nmol/L	M	
	3038	抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体)	血清0.3	冷蔵	A	＊4 270 免疫	3〜4	FEIA法	下記参照	L	抗糸球体基底膜抗体腎炎 グッドパスチャー症候群
	4879	抗アクアポリン4抗体	血清0.3	凍結	A	＊5 1000 免疫	4〜10	EIA法	3.0未満 U/mL	M	視神経脊髄炎

＊1　ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。
＊2　特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
＊3　重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
＊4　抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。
＊5　視神経脊髄炎の診断（治療効果判定を除く。）を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
（注）末梢血の血小板数が3万/μL以下の場合は、2本採取し、2倍量の血液をご提出ください。

抗糸球体基底膜抗体　判断基準

判　　定	U/mL
陰　　性（−）	7.0未満
疑 陽 性（±）	7.0以上、10.0以下
陽　　性（＋）	10.0を越える

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	2734	抗精子不動化抗体	血清0.5	凍結	A		4～9	不動化法	判定 ：（－） 不動化値：1.40以下 SI_{50}値 ：1.0未満	L	不妊症
	4399	抗BP180抗体	血清0.3	冷蔵	A	＊1 270 免疫	3～5	CLEIA法	9.0未満 U/mL	L	水疱性類天疱瘡
	2718	抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA）	血清0.4	冷蔵	A	267 免疫	3～4	FEIA法	陰性（－） 2.0未満 IU/mL	L	Wegener肉芽腫症
	2727	抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）	血清0.4	冷蔵	A	＊2 265 免疫	3～4	FEIA法	陰性（－） 3.5未満 IU/mL	L	急性進行性糸球体腎炎
	3232	抗カルジオリピンIgG抗体	血清0.4	凍結	A	＊3 232 免疫	4～7	EIA法	10.0未満 U/mL	M	抗リン脂質抗体症候群 SLE 習慣性流産
	2526	抗カルジオリピンIgM抗体	血清0.4	凍結	A		5～11	CLIA法	20.0以下 U/mL	M	
	2650	抗カルジオリピン β_2グリコプロテインI複合体抗体（抗CL・β_2GPI複合体抗体）	血清0.3	冷蔵	A	＊3 223 免疫	4～6	EIA法	3.5未満 U/mL	L	
	4284	抗デスモグレイン1抗体	血清0.3	冷蔵	A	＊4 ＊5 300 免疫	3～5	CLEIA法	20.0未満 U/mL	L	落葉状天疱瘡
	4333	抗デスモグレイン3抗体	血清0.3	冷蔵	A	＊4 ＊6 270 免疫	3～5	CLEIA法	20.0未満 U/mL	L	尋常性天疱瘡

＊1　水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
＊2　急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
＊3　抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインI複合体抗体と抗カルジオリピン抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
＊4　天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
＊5　落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
＊6　尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

抗精子不動化抗体　判定基準

不動化値	判　定
1.40以下	（－）
1.41～1.99	判定保留
2.00～20.00	（＋）
20.01以上	強陽性

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0242	CRP定量	血清0.3	凍結	A	*1 16 免疫	1～2	LA法	0.30以下 mg/dL		炎症性疾患
	0241	ASO	血清0.3	凍結	A	15 免疫	1～2	LA法	239以下 IU/mL		溶連菌感染症
	0244	ASK	血清0.2	冷蔵	A	29 免疫	3～4	PA法	1280倍以下	L	
	0252	寒冷凝集反応	血清0.3	凍結	A	11 免疫	2～3	HA法	64倍未満	血清分離が不可能な場合、20℃以下に冷やさず全血のまま当日中に出検	マイコプラズマ肺炎 自己免疫性疾患 自己免疫性溶血性貧血
	0251	マイコプラズマ抗体 (マイコプラズマ・ニューモニエ抗体)	血清0.3	冷蔵	A	*2 32 免疫	2～3	PA法	40倍未満		マイコプラズマ感染症 マイコプラズマ肺炎
	2794		血清0.3	冷蔵	A		4～6	CF法	4倍未満	L	
	4549	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	喀痰1.0 または ぬぐい液	凍結	D2	300 微生物	4～5	LAMP法	検出せず	M	
	2759	トキソプラズマ抗体 IgG	血清0.3	冷蔵	A	93 免疫	2～3	CLIA法	下記参照		トキソプラズマ感染症
	2760	IgM	血清0.3	冷蔵	A	95 免疫			下記参照		
	4772	MAC抗体 (抗酸菌抗体定性)	血清0.2	冷蔵	A	116 免疫	5～7	EIA法	(−) 抗体濃度(参考値) 0.70 未満 U/mL	L	

＊1　血清アミロイドA蛋白（SAA）をC反応性蛋白（CRP）定性又はC反応性蛋白（CRP）と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
＊2　マイコプラズマ抗体定性、マイコプラズマ抗体半定量、マイコプラズマ抗原定性（免疫クロマト法）又はマイコプラズマ抗原定性（FA法）を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

トキソプラズマ抗体IgG　判定基準

判　定	IU/mL
陰　　性(−)	1.6未満
判定保留（±）	1.6～3.0未満
陽　　性（+）	3.0以上

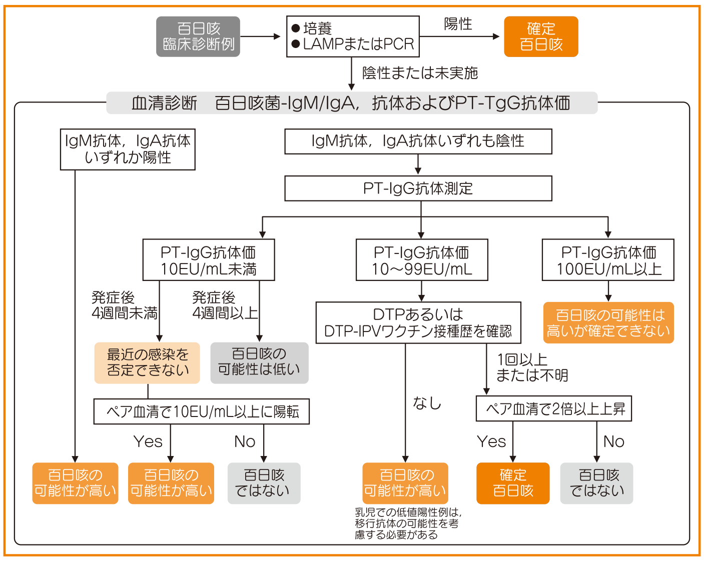
トキソプラズマ抗体IgM　判定基準

判　定	S/CO
陰　　性(−)	0.83未満
判定保留（±）	0.83～1.00未満
陽　　性（+）	1.00以上

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3217	ツツガ虫抗体	カープ IgG	血清0.3	凍結	A	*1 207 免疫	6〜9	FA法	10倍未満	M	ツツガ虫病
	3248		カープ IgM	血清0.3	凍結	A						
	3216		カトー IgG	血清0.3	凍結	A	*1 207 免疫					
	3247		カトー IgM	血清0.3	凍結	A						
	3215		ギリアム IgG	血清0.3	凍結	A	*1 207 免疫					
	3246		ギリアム IgM	血清0.3	凍結	A						
	3969	百日咳菌抗体	IgM	血清0.5	冷蔵	A	80 免疫	3〜6	EIA法	（－）8.5未満 NTU	L	百日咳菌感染症
	3966		IgA	血清0.5	冷蔵	A		3〜6	EIA法	（－）8.5未満 NTU	L	
	4040			血清0.3	冷蔵	A	264 免疫	4〜6	EIA法	PT-IgG ：10未満 FHA-IgG：10未満 EU/mL	百日咳血清診断の目安（参考）は下記参照 M	
	3886	百日咳菌核酸検出		後鼻腔ぬぐい液	凍結	J5	*2 360 微生物	3〜5	LAMP法	（－）	採取後、速やかに凍結保存 L	

＊1　各株ごとに算定する。
＊2　関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、測定した場合に算定できる。

百日咳臨床診断例での確定フローチャート



（咳嗽喀痰の診療ガイドライン2019より）

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2561	エンドトキシン定量	全血3.0	冷蔵	P1	＊1 243 免疫	3～4	比濁時間分析法	5.0未満 pg/mL	他項目との重複依頼は避ける M	グラム陰性桿菌感染症 敗血症
	4134	エンドトキシン(透析液)	透析液4	冷蔵	P3		3～4	合成基質法 (エンドスペーシー法)	EU/mL		
	3052	(1→3)-β-D-グルカン	全血2.0	冷蔵	P1	＊2 ＊3 207 免疫	3～4	発色合成基質法	20以下 pg/mL		深在性真菌症
	4516	プロカルシトニン(PCT)	血清0.3	凍結	A	＊1 ＊4 292 生化Ⅰ	3～4	ECLIA法	0.05以下 ng/mL	敗血症鑑別診断のカットオフ値 0.50未満 敗血症重症度判定のカットオフ値 2.00以上 L	重症の全身性細菌感染症 敗血症
	4861	プレセプシン	血漿0.4	凍結	F3	＊1 ＊4 301 生化Ⅰ	3～4	CLEIA法	pg/mL	敗血症診断のカットオフ値 500pg/mL M	敗血症（細菌性）
	3113	ブルセラ凝集反応	血清1.0	凍結	A	200 免疫	7～13	菌体凝集反応	Canis 160倍未満 Abortus 40倍未満	M	ブルセラ感染症（波状熱、マルタ熱）
	3097	破傷風抗体	血清1.0	凍結	A		17～24	EIA法	0.10以上 IU/mL	健常者のワクチン接種による抗体価獲得のスクリーニング検査であり罹患者のモニタリングには不適当です。 L	破傷風
	3516	クロストリジウム ディフィシル毒素	糞便 拇指頭大	冷蔵	K	80 免疫	3～4	EIA法	(－)	L	偽膜性大腸炎
	2929	アスペルギルス抗原	血清0.7	冷蔵	A	＊2 ＊5 161 免疫	3～5	EIA法	0.5未満 陰性	L	アルペルギス感染症
	3569	アスペルギルス抗体	血清0.3	冷蔵	A		4～6	CF法	4倍未満	M	
	2961	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	血清0.8	冷蔵	A	＊2 174 免疫	3～4	LA法	(－) 倍	L	クリプトコックス感染症 夏過敏性肺炎
	4320	クリプトコックス抗体	血清1.0	絶凍	A		17～19	試験管凝集法	2倍未満	M	

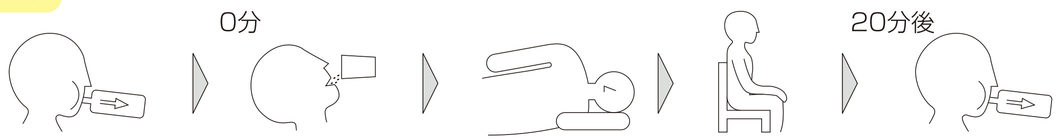
＊1　プレセプシン定量とプロカルシトニン（PCT）定量、同半定量又はエンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
＊2　(1→3)-β-D-グルカン、カンジダ抗原定性、同半定量、同定量、D-アラビニトール、アスペルギルス抗原、クリプトコックス抗原半定量又は同定性と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
＊3　深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。
＊4　敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。
＊5　侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0283	抗アニサキス IgG・A抗体	血清0.5	凍結	A	＊1 210 免疫	9〜12	ELISA法	(index) 1.50以下（−）	M	アニサキス症
	4047	ヘリコバクター・ピロリ 抗体	血清0.3	冷蔵	A	＊2 80 免疫	2〜3	LA法	10未満（−） U/mL		ヘリコバクター・ピロリ感染症
	0227	尿素呼気試験 (ユービット)	呼気	室温	U	＊2 70 微生物	2〜3	赤外分光法	⊿2.5未満 ‰	採取方法は下記参照	
	4229	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	糞便	冷蔵	K4	＊2 142 免疫	3〜5	EIA法	(−)	L	

＊1 腸アニサキス症、肉芽腫を伴う慢性胃アニサキス症又はアニサキス異所迷入例（肺アニサキス症等）における診断のために実施した場合に限り算定できる。
＊2 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に則して行うこと。

尿素呼気試験（ユービット）

採取方法



【準備】
呼気採取前※の呼気採取バッグ2個（１回分）にご施設名と患者氏名を明記し、「服用前」または「服用後」のいずれかに必ずチェックを入れてください。

※呼気採取後に記入されますと、バッグを破損する可能性がありますので、ご注意願います。
また、ボールペンなどの鋭利なものではなく、サインペンなどでご記入ください。

①ユービット錠の服用前に、呼気を採取します。（注）
②ユービット錠（1錠）をつぶしたりせず、空腹時に水100mLとともに噛まずに速やかに（5秒以内に）服用します。
③5分間左側臥位の姿勢を保ち、さらに座位で15分待ちます。
④ユービット錠服用後20分にもう一度呼気を採取します。
（注）呼気採取方法のポイント
　1）呼気採取バッグを口にあて、（鼻から）息を吸って、5〜10秒程息を止めてください。
　2）その後呼気採取バッグにゆっくりと息を入れてください。
　3）息止めが苦しい場合は2〜3回に分けて入れても大丈夫です。
　4）呼気採取バッグには肺の中の息を入れるようにしてください。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0264	梅毒定性	RPR法	血清0.3	冷蔵	A	*15 免疫	1～2	凝集反応	陰性	下記参照	梅毒
	0259		TPHA法	血清0.3	冷蔵	A	32 免疫		PA法	陰性		
	3221		FTA-ABS法	血清0.2	冷蔵	A	138 免疫	4～5	FA法	陰性	下記参照	
	0275	梅毒定量	RPR法	血清0.5	冷蔵	A	*34 免疫	1～2	凝集反応	1倍未満	下記参照	
	0263		TPHA法	血清0.5	冷蔵	A	53 免疫		PA法	80倍未満		
	2557		FTA-ABS法	血清0.2	冷蔵	A	138 免疫	4～5	FA法	陰性（20倍未満）	下記参照	

＊ 梅毒血清反応（STS）定性、梅毒血清反応（STS）半定量及び梅毒血清反応（STS）定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。

梅毒血清反応の使用抗原と検査法

脂質抗原検査（STS）	RPR法
TP抗原検査	TPHA法 FTA-ABS法

検査結果と判定の目安

STS	TPHA法	考えられる病態	確認の方法
−	−	非梅毒 感染初期の梅毒 早期梅毒治療後	一定期間後の再検またはFTA-ABS法 既往歴などの問診
−	＋	早期梅毒治療後 非常に古い梅毒 地帯現象 非特異反応	問診 問診 FTA-ABS法 歯槽膿漏など
＋	−	BFP 感染初期の梅毒	一定期間後の再検やFTA-ABS法 臨床症状・問診と一定期間後の再検やFTA-ABS法
＋	＋	梅毒 梅毒治療後 Pinta,Yaws など	問診 臨床症状

梅毒感染初期が疑われる場合は3～4週間後に再検査する。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2838	EB ウイルス (EBV)	抗VCA IgA	血清各0.2 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	＊1 79 免疫	3〜5	FA法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	L	EBウイルス感染症 伝染性単核症 バーキットリンパ腫 上咽頭癌
	2836		抗VCA IgG				＊2 212 免疫					
	2837		抗VCA IgM									
	2839		抗EA-DR IgG									
	2840		抗EA-DR IgA				＊1 79 免疫					
	2841		抗EBNA									
	2824	サイトメガロウイルス (CMV)	CF	血清0.3	冷蔵	A	＊1 79 免疫	4〜6	CF法	4倍未満	M	サイトメガロウイルス感染症
	2948		IgG	血清各0.4			＊2 212 免疫	3〜4	CLIA法	6.0未満(−) AU/mL		
	2947		IgM							0.85未満(−) S/CO		

＊1 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

＊2 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

サイトメガロウイルス抗体判定基準

判定	IgG(AU/mL)	IgM(S/CO)
−	6.0未満	0.85未満
±	−	0.85〜1.00未満
＋	6.0以上	1.00以上

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3630	アデノウイルス抗原	糞便 1g	凍結	K	＊1 60 免疫	3〜9	Immuno Chromatography Assay	（ー）	L	急性胃腸炎（とくに小児）
	2983	アデノウイルス CF	血清0.3 または 髄液0.4				4〜6	CF法	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	M	
	2985	アデノウイルス 1型NT									
	2986	アデノウイルス 2型NT									
	2987	アデノウイルス 3型NT									
	2988	アデノウイルス 4型NT	血清各0.2 または 髄液各0.5						血清　4倍未満 髄液　1倍未満		
	2989	アデノウイルス 5型NT									
	2990	アデノウイルス 6型NT		冷蔵	A または D	＊2 79 免疫	9〜15	NT法			咽頭結膜熱 上気道炎 肺炎 流行性角結膜炎 胃腸炎 出血性膀胱炎
	2991	アデノウイルス 7型NT									
	2992	アデノウイルス 8型NT	血清0.3				12〜17		血清　8倍未満		
	2993	アデノウイルス 11型NT									
	2994	アデノウイルス 19型NT	血清各0.2 または 髄液各0.5				9〜15		血清　4倍未満 髄液　1倍未満		
	4171	アデノウイルス 37型NT								L	

＊1　アデノウイルス抗原定性（糞便）とロタウイルス抗原定性（糞便）又は定量（糞便）を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。
＊2　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

分類	検査コード	検査項目			検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2795	インフルエンザウイルス	A型	CF	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4〜6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	急性呼吸器感染症 インフルエンザ脳症
	2796			HI	血清0.4 または 髄液0.9					HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	M	
	2797		B型	CF	血清0.3 または 髄液0.5			* 79 免疫	4〜6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	
	2798			HI	血清0.4 または 髄液0.9					HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	M	
	2643	パラインフルエンザウイルス		1型	血清各0.2 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4〜7	HI法	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	L	上気道炎 気管支炎 肺炎
	2644			2型				* 79 免疫					
	2645			3型				* 79 免疫					
	2823	RSウイルス		CF	血清各0.3 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	* 79 免疫	4〜6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	M	上気道炎 気管支炎 肺炎
	4057			NT					11〜16	NT法			

＊ 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2808	麻疹ウイルス HI	血清0.2 または 髄液0.4	冷蔵	A または D	＊1 79 免疫	4〜7	HI法	血清　8倍未満 髄液　1倍未満	L	麻疹（はしか）
	3130	麻疹ウイルス IgG	血清各0.4	冷蔵	A	＊2 212 免疫	3〜4	EIA法	下記参照		
	3016	麻疹ウイルス IgM									
	2805	日本脳炎ウイルス CF	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	＊1 79 免疫	4〜6	CF法	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	L	日本脳炎
	4413	日本脳炎ウイルス HI	血清0.5 または 髄液1.0	冷蔵			7〜10	HI法	血清　10倍未満 髄液　10倍未満	M	
	4363	ノロウイルス抗原	糞便1ｇ	凍結	K	＊3 150 免疫	2〜3	ICA法	（－）		ノロウイルス性胃腸炎 ノロウイルス性下痢症

＊1　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

＊2　グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

＊3　ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。
- ア　3歳未満の患者
- イ　65歳以上の患者
- ウ　悪性腫瘍の診断が確定している患者
- エ　臓器移植後の患者
- オ　抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

麻疹ウイルス血清　判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（index）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0〜3.9	0.80〜1.20
＋	4.0以上	1.21以上

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3255	ムンプスウイルス	CF	血清0.3 または 髄液0.5	冷蔵	A または D	*1 79 免疫	4～6	CF法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	流行性耳下腺炎（おたふく風邪） 無菌性髄膜炎 膵炎 精巣炎 卵巣炎
感染症関連検査	3256	ムンプスウイルス	HI	血清0.2 または 髄液0.4	冷蔵	A または D	*1 79 免疫	4～7	HI法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	L	流行性耳下腺炎（おたふく風邪） 無菌性髄膜炎 膵炎 精巣炎 卵巣炎
感染症関連検査	2517	ムンプスウイルス	IgG	血清各0.4	冷蔵	A	*2 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	流行性耳下腺炎（おたふく風邪） 無菌性髄膜炎 膵炎 精巣炎 卵巣炎
感染症関連検査	2511	ムンプスウイルス	IgM	血清各0.4	冷蔵	A	*2 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	流行性耳下腺炎（おたふく風邪） 無菌性髄膜炎 膵炎 精巣炎 卵巣炎
感染症関連検査	0250	風疹ウイルス	HI	血清0.3	冷蔵	A	*1 79 免疫	2～3	HI法	血清 8倍未満	M	風疹（三日はしか）
感染症関連検査	4321	風疹ウイルス	HI	髄液0.4	冷蔵	D	*1 79 免疫	4～5	HI法	髄液 1倍未満	M	風疹（三日はしか）
感染症関連検査	2938	風疹ウイルス	IgG	血清各0.4	冷蔵	A	*2 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	風疹（三日はしか）
感染症関連検査	2939	風疹ウイルス	IgM	血清各0.4	冷蔵	A	*2 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	風疹（三日はしか）
感染症関連検査	2739	ヒトパルボウイルスB19抗体	IgG	血清各0.4	冷蔵	A		3～4	EIA法	下記参照	L	伝染性紅斑（リンゴ病）
感染症関連検査	2740	ヒトパルボウイルスB19抗体	IgM	血清各0.4	冷蔵	A	*2 *3 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照	L	伝染性紅斑（リンゴ病）

*1 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

*2 グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体についてグロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

*3 紅斑が出現している15歳以上の成人について、ヒトパルボウイルスB19による感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ムンプウイルス血清・風疹ウイルス血清　判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（index）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

ヒトパルボウイルスB19抗体　判定基準

判　定	（index）
－	0.80未満
±	0.80～0.99
＋	1.00以上

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2962	エンテロウイルス	70型NT	血清各0.2 または 髄液各0.2	冷蔵	A または D		9～15	NT法	血清　4倍未満 髄液　1倍未満		急性出血性結膜炎
	2963		71型NT								L	手足口病 無菌性髄膜炎
	2819	コクサッキーウイルスA群	2型NT	血清各0.2 または 髄液各0.2	冷蔵	A または D	79 * 免疫	9～15	NT法	血清 NT　4倍未満 髄液 NT　1倍未満		ギランバレー症候群 肝炎 ヘルパンギーナ 無菌性髄膜炎 手足口病 発疹性疾患
	2820		3型NT									
	2790		4型NT									
	3228		5型NT									
	3227		6型NT	血清0.2				13～18		血清　8倍未満		
	2818		7型NT	血清0.2 または 髄液0.2				9～15		血清 CF　4倍未満 NT　4倍未満 髄液 CF　1倍未満 NT　1倍未満		
	2810		9型 CF	血清0.3 または 髄液0.5				4～6	CF法			
	2821		9型 NT	血清0.2 または 髄液0.3				9～15	NT法			
	2822		10型NT	血清各0.2 または 髄液0.2								
	2817		16型NT	血清0.2 または 髄液0.3							L	

＊　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2811	コクサッキーウイルスB群 1型	CF	血清各0.3 または 髄液各0.5	冷蔵	A または D	79* 免疫	4〜6	CF法	血清 CF 4倍未満 NT 4倍未満 髄液 CF 1倍未満 NT 1倍未満		心筋炎 脳炎 ギランバレー症候群 ヘルパンギーナ 無菌性髄膜炎 麻痺 発疹 流行性筋痛炎
	3034		NT					9〜15	NT法			
	2812	2型	CF					4〜6	CF法			
	3035		NT					9〜15	NT法			
	2813	3型	CF					4〜6	CF法			
	3036		NT					9〜15	NT法			
	2814	4型	CF					4〜6	CF法			
	3037		NT					9〜15	NT法			
	2815	5型	CF					4〜6	CF法			
	3033		NT					9〜15	NT法			
	2816	6型	CF					4〜6	CF法			
			NT					9〜15	NT法		L	

＊ 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2828	エコーウイルス 1型 NT	血清各0.3 または 髄液各0.4	冷蔵	A または D	79* 免疫	9～15	NT法	血清 HI　8倍未満 NT　4倍未満 髄液 HI　1倍未満 NT　1倍未満		無菌性髄膜炎 上気道炎 発疹 脳炎 心筋炎
	2829	エコーウイルス 3型 HI					6～8	HI法			
	2924	エコーウイルス 3型 NT					9～15	NT法			
	2925	エコーウイルス 4型 NT									
		エコーウイルス 5型 NT									
	2830	エコーウイルス 6型 NT									
	2831	エコーウイルス 7型 HI					6～8	HI法			
	2842	エコーウイルス 7型 NT					9～15	NT法			
	2825	エコーウイルス 9型 NT									
	2832	エコーウイルス 11型 HI					6～8	HI法			
	3020	エコーウイルス 11型 NT					9～15	NT法			
	2833	エコーウイルス 12型 HI					6～8	HI法			
		エコーウイルス 12型 NT					9～15	NT法			
	3094	エコーウイルス 13型 NT									

＊　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査		エコーウイルス	14型 NT	血清各0.2 または 髄液各0.2	冷蔵	A または D	79 * 免疫	9～15	NT法	血清 4倍未満 髄液 1倍未満		無菌性髄膜炎 上気道炎 発疹 脳炎 心筋炎
			16型 NT									
	4605		17型 NT									
	3131		18型 NT									
			19型 NT									
			21型 NT									
			24型 NT									
			25型 NT									
	2835		30型 NT								L	

＊ 同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2716	単純ヘルペスウイルス特異抗原		塗抹標本	絶凍	Q1	＊1 180 免疫	4～6	FA法	1型　陰性 2型　陰性	採取方法は次頁参照 M	歯肉口内炎 ヘルペス脳炎 ヘルペス角結膜炎 ヘルペス湿疹 主病変部位 1型：上半身 2型：下半身（性器）
	3259	単純ヘルペスウイルス（HSV）	CF	血清各0.3または髄液各0.4	冷蔵	AまたはD	＊2 79 免疫	4～6	CF法	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	M	
	2522		1型NT					11～16	NT法		1型と2型には抗原交差性があります M	
	2523		2型NT									
	3012		IgG				＊3 212 免疫	4～6	EIA法	下記参照	M	
	3013		IgM	血清0.3		A						
	2661	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原		塗抹標本	絶凍	Q3	233 免疫	3～4	FA法	陰性	採取方法は次頁参照 L	水痘（みずぼうそう） 帯状疱疹
	3260	水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）	CF	血清各0.3または髄液各0.4	冷蔵	AまたはD	＊2 79 免疫	4～6	CF法	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	L	
	2509		IgG	血清各0.4		A	＊3 212 免疫	3～4	EIA法	下記参照		
	2510		IgM									

＊1　ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
＊2　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
＊3　グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、IgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定し、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。なお、ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。また、同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

単純ヘルペスウイルスIgM･IgG　判定基準

判　定	IgG（EIA価） 血　清	IgG（EIA価） 髄　液	IgM（index）
－	2.0未満	0.20未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.20～0.39	0.80～1.20
＋	4.0以上	0.40以上	1.21以上

水痘･帯状ヘルペスウイルス血清　判定基準

判　定	IgG（EIA価）	IgM（index）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

検体採取方法

検査項目

・単純ヘルペスウイルス特異抗原〔FA法〕
・水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原〔FA法〕

採取方法

病巣基底細胞が多数得られるように採取して下さい。
早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液及び膿は、検体として不適当です。

①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)
②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。(図2)
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)

●注意
膿がでている場合には綿棒でまず膿を拭い去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意して下さい。

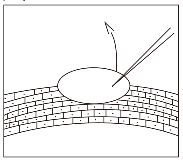
図1


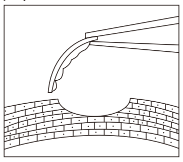
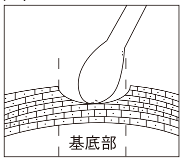
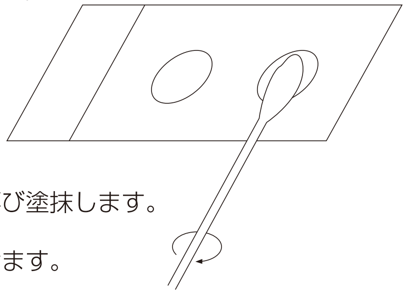
図2


図3


操 作 法

図4


■検体の塗抹
①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、
スライドグラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。
不均一にならないように注意して下さい。(図4)
②綿棒をすてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。
均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に充分な量（検体にゆきわたる）のアセトンを添加し、蒸発させます。

■検体の保存
乾燥後のスライドグラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、施設名、氏名等を記入後、
凍結保存して下さい。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0270	HTLV-Ⅰ抗体(ATLA)	血清0.3	冷蔵	A	85 免疫	2〜3	PA法	16倍未満		成人T細胞白血病(ATL) ヒトT細胞白血病関連脊髄症(HAM)
	3162		血清0.5			168 免疫	3〜4	CLIA法	陰性	M	
	3042		血清0.6			＊1 425 免疫	4〜10	ラインブロット法	陰性	他項目との重複依頼は避ける。 M	
	3997	妊婦 HTLV-Ⅰ核酸同定	全血7.0	冷蔵	F1	＊2 450 微生物	6〜17	リアルタイムPCR法	検出せず	他項目との重複依頼は避ける。(注) M	
	1812	HIV抗原・抗体	血清0.5	冷蔵	A	＊3 ＊4 115 免疫	2〜3	ECLIA法	(−)	陽性時は別途連絡	後天性免疫不全症候群(AIDS)
	3313	HIV-1抗体	血清0.6	冷蔵	A	＊5 280 免疫	4〜7	ウエスタンブロット法	陰性	他項目との重複依頼は避ける。 M	
	3314	HIV-2抗体	血清0.6	冷蔵	A	＊5 380 免疫	4〜10	ウエスタンブロット法	陰性		
	4447	HIV-1RNA定量(TaqMan PCR法)	血漿2.1	冷蔵	A9	＊6 520 微生物	4〜5	リアルタイムRT-PCR法	2.0×10^{1}未満 コピー/mL 増幅反応シグナル：検出せず		
	4272	ニューモシスチスカリニDNA	呼吸器系材料	凍結	D2		6〜8	PCR法	検出せず	M	カリニ肺炎

＊1　HTLV-Ⅰ抗体定性、半定量又はHTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定する。

＊2　HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）によって判定保留となった妊婦を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

＊3　診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者及び診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対して、HIV-1抗体、HIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗体定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量を実施した場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定する。ただし、保険医療機関において採血した検体の検査を保健所に委託した場合は、算定しない。
　ア　新生児出血症（新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等）等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者
　イ　肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者
　ウ　食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐下血があった者
　エ　大量に出血するような手術を受けた者（出産時の大量出血も含む）
　なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合、既応がある場合又は疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できる。

＊4　輸血（自己血輸血を除く。以下この項において同じ。）を算定した患者又は血漿成分製剤（新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等）の輸注を行った患者に対して、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概ね2カ月後にHIV-1抗体、HIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗体定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量の測定が行われた場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず、当該輸血又は輸注につき1回に限り、所定点数を算定できる。 他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であっても同様とする。 この場合、診療報酬明細書の摘要欄に該当輸血又は輸注が行われた最終日を記載する。

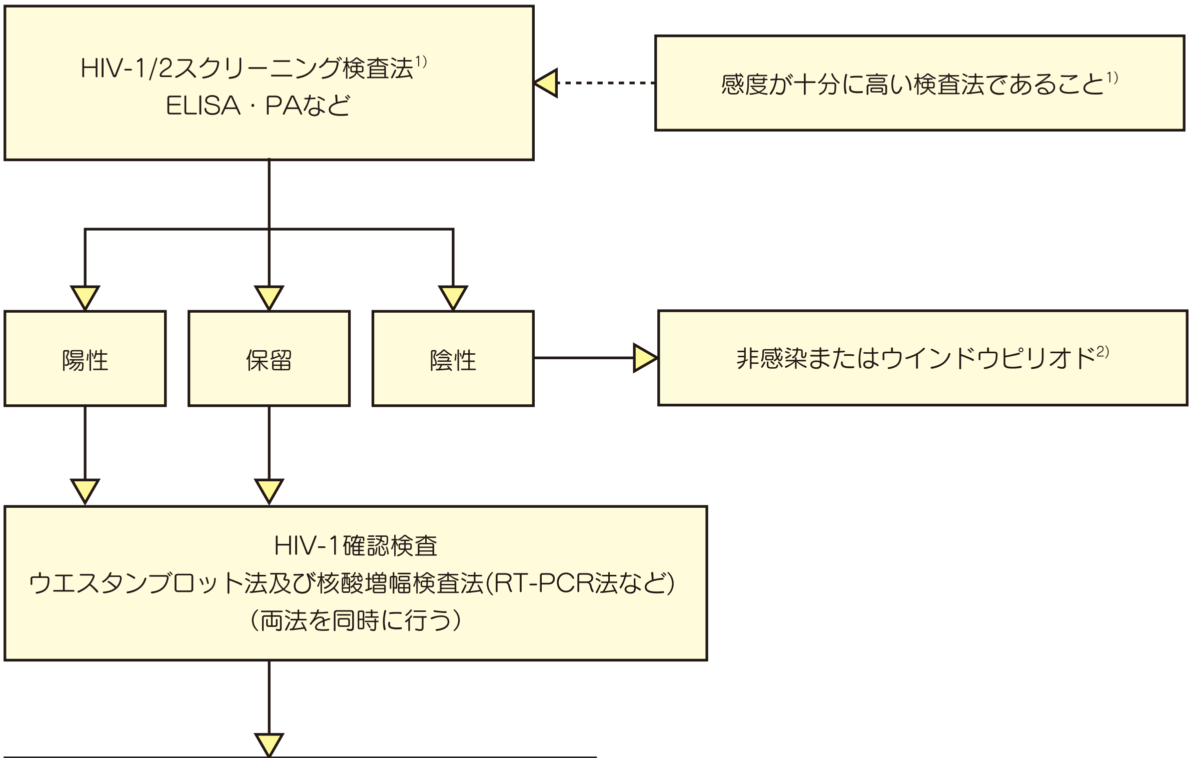
＊5　スクリーニング検査としてのHIV-1，2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1，2抗体定量又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量が陽性の場合の確認診断用の検査である。

＊6　HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体、HIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1，2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。なお、本検査とHIV-1抗体（ウエスタンブロット法）を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。

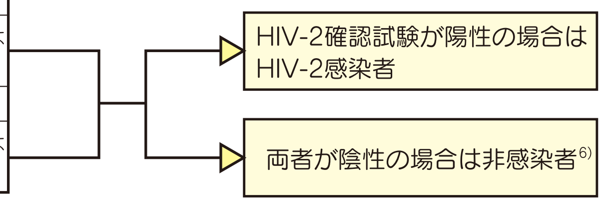
（注）受付曜日：月～金曜日（休前日不可）
採血後、速やかに検体を提出下さい（原則として採血後 24 時間以内の検体を用います）。

診療におけるHIV-1/2感染症診断のためのフローチャート

HIV-1/2感染症の診断法　2008年版
(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会　標準推奨法)



HIV-1検査結果		判定・指示事項
ウエスタンブロット法	核酸増幅検査法	
陽性	陽性	HIV-1感染者
	検出せず※	HIV-1感染者[3)]
保留	陽性	急性HIV-1感染者[4)]
	検出せず※	HIV-2の確認検査を実施、陰性時は保留とし2週間後に再検査[5)]
陰性	陽性	急性HIV-1感染者[4)]
	検出せず※	HIV-2の確認検査を実施、陰性時は保留とし2週間後に再検査[5)]



1) 明らかな感染のリスクがある場合や急性感染を疑う症状がある場合は抗原・抗体同時検査法によるスクリーニング検査に加えHIV-1核酸増幅検査法による検査も考慮する必要がある。(ただし、現時点では保険適応がない。)
2) 急性感染を疑って検査し、HIV-1/2スクリーニング検査とウエスタンブロット法が陰性または保留であり、しかも、HIV-1核酸増幅検査法（RT-PCR法）が陽性であった場合は、HIV-1の急性感染と診断できるが、後日、HIV-1/2スクリーニング検査とウエスタンブロット法にて陽性を確認する。
3) HIV-1感染者とするが、HIV-1核酸増幅検査法（RT-PCR：リアルタイムPCR法または従来法の通常感度法）で「検出せず※」の場合（従来法で実施した場合は、リアルタイムPCR法または従来法の高感度法における再確認を推奨）はHIV-2ウエスタンブロット法を実施し、陽性であればHIV-2の感染者であることが否定できない（交差反応が認められるため）。このような症例に遭遇した場合は、専門医、専門機関に相談することを推奨する。
4) 後日、適切な時期にウエスタンブロット法で陽性を確認する。
5) 2週間後の再検査において、スクリーニング検査が陰性であるか、H1V-1/2の確認検査が陰性/保留であれば、初回のスクリーニング検査は偽陽性であり、「非感染（感染はない）」と判定する。
6) 感染のリスクがある場合や急性感染を疑う症状がある場合は保留として再検査が必要である。また、同様な症状を来たす他の原因も平行して検索する必要がある。
注1 妊婦健診、術前検査等の場合にはスクリーニング検査陽性例の多くが偽陽性反応によるため、その結果説明には注意が必要。
注2 母子感染の診断は、移行抗体が存在するため抗体検査は有用でなく、児の血液中のHIV-1抗原、またはHIV-1核酸増幅検査法により確認する必要がある。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2516	クラミジア トラコマチス抗体 IgG	血清0.4	冷蔵	A	＊1 200 免疫	3～4	EIA法	下記参照	判定基準は次頁参照 L	クラミジア トラコマチス感染症 (骨盤内感染症 卵管炎 副睾丸炎 新生児乳児肺炎等)
	2515	IgA	血清0.4	冷蔵	A						
	2919	クラミジア トラコマチス 核酸同定検査	初尿 4.5	室温	Q12	＊2 ＊3 198 微生物	2～3	リアルタイム PCR法 (TaqManPCR法)	陰性	(注) 採取方法は次頁参照	
	0281		分泌物	室温	Q11						
	4760		うがい液4.5	室温	Q12						
	3177	クラミドフィラ ニューモニエ 抗体 IgG	血清0.4	冷蔵	A	＊4 70 免疫	4～7	EIA法	下記参照	判定基準は次頁を参照 L	クラミドフィラ ニューモニエ感染症 肺炎
	3289	IgA	血清0.4	冷蔵	A	＊4 75 免疫					
	3362	IgM	血清0.4	冷蔵	A	＊4 156 免疫	3～6				
	2913	オウム病抗体 (クラミドフィラ・シッタシ抗体)	血清0.3	冷蔵	A	＊5 79 免疫	4～6	CF法	4倍未満	M	クラミドフィラ シッタシ感染症 オウム病 間質性肺炎

＊1　クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
＊2　クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
＊3　泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。
＊4　クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
＊5　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。なお、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
（注）遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。（但し、淋菌・クラミジア・トラコマチス検査の同時依頼は可能です。）

クラミジアトラコマチス抗体IgG,IgA　判定基準

判　　定	index
（－）	0.90未満
（±）	0.90～1.09
（＋）	1.10以上

クラミドフィラニューモニエ抗体IgG,IgA,IgM　判定基準

判　定	IgG（EIU 値）	IgA（EIU 値）	IgM（S/CO）
（－）	30 未満	8 未満	0.5 未満
（±）	30～45	8～12	0.5～1.1
（＋）	45 を超える	12 を超える	1.1 を超える

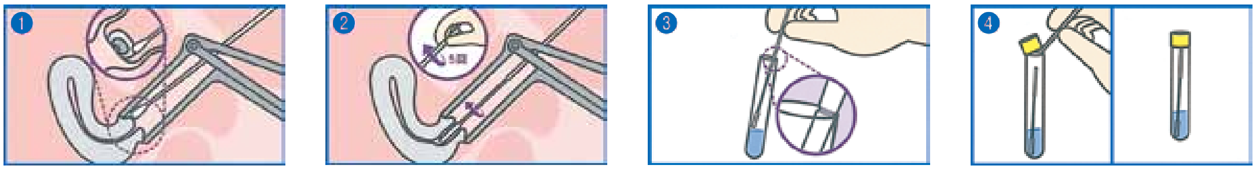
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3151	淋菌核酸同定検査	初尿 4.5	室温	Q12	＊1 ＊2 204 微生物	2〜3	リアルタイムPCR法 (TaqManPCR法)	陰性	（注）採取方法は下記参照	淋菌感染症
	0286		分泌物	室温	Q11						
	4761		うがい液4.5	室温	Q12						

＊1　淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
＊2　泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又は、TRC法においては咽頭からの検体も算定できる。
（注）　遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。（但し、淋菌・クラミジアトラコマチス検査の同時依頼は可能です。）

検体採取方法

検査項目
・クラミジアトラコマチス核酸検出［リアルタイムPCR法］
・淋菌核酸検出［リアルタイムPCR法］

●子宮頸管検体の採取方法



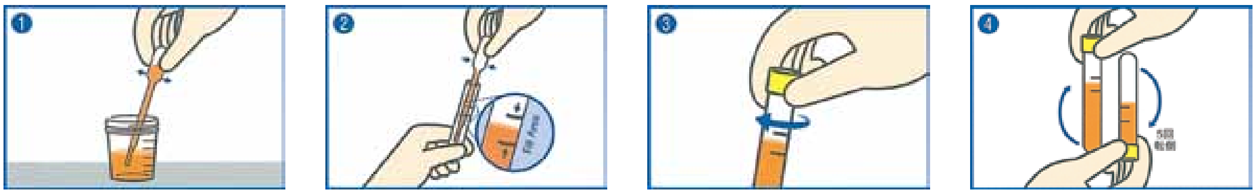
❶子宮頸部の粘液除去　スワブ検体採取セット付属の1本目のスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。
【注意】粘液を拭ったスワブは廃棄します。

❷子宮頸管検体の採取　付属されている2本目のスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(まわし過ぎないでください。)
スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。

❸子宮頸管検体の保存　コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したスワブの先端の綿球がコバスPCRメディアの溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。

❹コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線で折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。
【注意】手元に残った折られた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対に**はさみを使用しないでください。**

●尿検体の採取方法



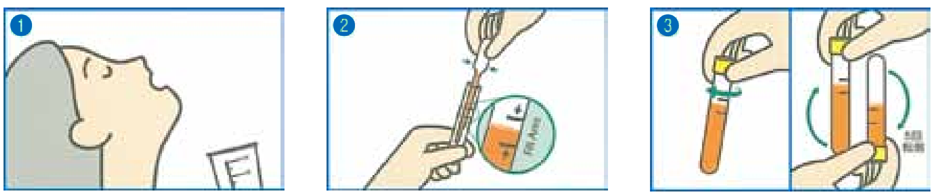
❶尿検体の採取　滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿をコバスPCRメディアに移します。
【注意】初尿は採取後2〜30℃で24時間以内にPCRメディアに移してください。

❷コバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。

❸尿検体の保存　コバスPCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。

❹コバスPCRメディアを5回転倒混和させてください。

●うがい液検体の採取方法



❶うがいの仕方　生理食塩水（日局方など）をコップに15〜20mL入れてください。生理食塩水15〜20mLを口に含み、顔を上に向けて10〜20秒間、勢いよく"ガラガラ"とうがいを行います。
【注意】口に含んで吐き出した液うがい用容器に残した液を合わせてうがい液とします。

❷検体輸送液への懸濁　うがい液全量をうがい用容器に回収し、スポイトでコバスPCRメディア（尿・うがい用）に必要量添加します。
【注意】うがい液はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。

❸検体容器の保管　PCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。PCRメディアを5回転倒混和させてください。

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
肝炎ウイルス検査	1825	HA-IgG抗体	血清0.6	冷蔵	A	＊1 146 免疫	3~4	CLIA法	次頁参照	L	A型肝炎
	1826	HA-IgM抗体	血清0.6	冷蔵	A		3~4	CLIA法	次頁参照	L	
	0246	HBs抗原 定性	血清0.3	冷蔵	A	29 免疫	1~2	Immuno Chromatography Assay	陰性		B型肝炎
	2202	HBs抗原 精密	血清0.5	冷蔵	A	＊2 88 免疫	1~2	ECLIA法	0.05未満 陰性 IU/mL		
	0247	HBs抗体 定性	血清0.3	冷蔵	A	32 免疫	1~2	Immuno Chromatography Assay	陰性		
	3651	HBs抗体 半定量	血清0.2	冷蔵	A	32 免疫	2~4	PHA法	8倍未満	L	
	2205	HBs抗体 精密	血清0.5	冷蔵	A	＊2 88 免疫	1~2	ECLIA法	10.0未満 陰性 mIU/mL	10.0mIU/mLはHBVワクチンの追加接種基準としてのカットオフ値	
	1822	HBc抗体	血清0.4	冷蔵	A	＊2 ＊3 137 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	1824	HBc-IgM 抗体	血清0.5	冷蔵	A	＊2 ＊3 146 免疫	2~4	CLIA法	次頁参照	L	
	1819	HBe 抗原	血清0.3	冷蔵	A	104 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	1821	HBe 抗体	血清0.4	冷蔵	A	104 免疫	2~3	CLIA法	次頁参照		
	4438	HBcrAg (HBV コア関連抗原)	血清0.5	冷蔵	A	＊4 266 免疫	4~10	CLEIA法	2.9以下 LogU/mL	L	
	4471	HBV-DNA定量	血清2.0	絶凍	A8	＊5 271 微生物	4~6	リアルタイムPCR法 (TaqMan PCR法)	1.0未満 Log IU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複依頼は避ける。 L	
	4591	HBV 遺伝子型 (HBV ジェノタイプ判定)	血清0.5	冷蔵	A	＊6 340 免疫	3~9	EIA法		A､B､C､D または「検出されず」で報告 L	

＊1　HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
＊2　免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前にHBs抗原、HBs抗体及びHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
＊3　HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
＊4　HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原（HBcrAg）を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
＊5　B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
＊6　B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合、患者1人につき1回に限り算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
肝炎ウイルス検査	0201	HCV 抗体	血清0.4	冷蔵	A	108 免疫	1～2	ECLIA法	陰性		C型肝炎
	4118	HCV コア抗原	血清0.5	冷蔵	A	108 免疫	3～4	CLIA法	3.0未満 fmol/L	M	
	3234	HCV 群別 (HCV グルーピング)	血清0.6	冷蔵	A	＊1 227 免疫	3～4	CLEIA法	下記参照	L	
	4448	HCV-RNA 定量 (TaqMan PCR 法)	血清2.1	絶凍	A5	＊2 437 微生物	2～5	リアルタイム RT-PCR法	1.2未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複依頼は避ける。	
	2922	HCVサブタイプ系統解析	血清0.5	絶凍	A5		6～8	RT-PCR法／ダイレクトシーケンス法	型別判定 1a,1b,1c,1d,2a,2b,2c,3a,3b,4,5a,6a,（12型）	他項目との重複依頼は避ける。 M	
	4684	IgA-HEV抗体	血清0.3	凍結	A	210 免疫	4～10	EIA法	陰性	M	E型肝炎

＊1　C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
＊2　急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。なお、治療経過の観察の場合において、HCV核酸定量及びHCV核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

肝炎ウイルス抗原・抗体関連検査　判定基準一覧表

検査項目	単　位	陰　性	判定保留	陽　性
HA-IgG抗体	S/CO	1.00未満	－	1.00以上
HA-IgM抗体	S/CO	0.80未満	0.80～1.20	1.21以上
HBc抗体	S/CO	1.00未満	－	1.00以上
HBc-IgM抗体	S/CO	1.00未満	－	1.00以上
HBe抗原	S/CO	1.00未満	－	1.00以上
HBe抗体	inhibition	50.0%未満	－	50.0%以上

HCV群別（HCVグルーピング）判定基準

判　定　基　準	報　告
一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合	グループ1 または グループ2
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します。	
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上とならない場合で、どちらのグループか判定できない場合。	判定保留
どちらのグループの抗体も陰性の場合。	判定不能

免疫血清学的検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	2608	肝細胞増殖因子 (HGF)	血清0.2	冷蔵	A	* 227 生化Ⅰ	3〜6	EIA法	0.39以下 ng/mL	L	劇症肝炎
	3378	ヒトインターフェロンγ (IFN-γ)	血清0.3	凍結	A		4〜18	EIA法	20.6以下 pg/mL	M	インターフェロン治療のモニタリング
	3377	腫瘍壊死因子-α (TNF-α)	血清0.3	凍結	A2		事前にご確認下さい	EIA法	pg/mL	L	炎症性大腸疾患 SLE 関節リウマチ 川崎病

＊ 肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	備考
ウイルス分離・同定	3007	ウイルス分離	下記参照	下記参照	P2		14〜55	HeLa（ヒト子宮頸癌細胞）、Hep-2（ヒト咽頭癌細胞）、HEL（ヒト胎児肺細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、RD18S（ヒト横紋筋腫細胞）、B95a（マーモセットリンパ球由来細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、LLC-MK2（アカゲザル腎細胞）	水泡液の採取に際しては、予め滅菌生理食塩水にて皮膚を洗浄して下さい（アルコール消毒は不可） M
	2834	ウイルス同定	下記参照	下記参照	P2			蛍光抗体法、中和試験等、アデノウイルスについては、PCR法により同定を行います。エンテロウイルスについては、中和試験もしくはPCR法にて同定致します。	

分離可能ウイルス及び主要検体

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

分離可能ウイルス	主要検体	保存条件	同定可能な型
サイトメガロ（CMV）	咽頭ぬぐい液、尿	冷蔵 凍結不可 ※1	
水痘・帯状ヘルペス	水疱		
単純ヘルペス	咽頭ぬぐい液、水疱、陰部ぬぐい液	凍結 −70℃以下 ※2	1、2型
アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便、尿、結膜ぬぐい液		1、2、3、4、5、6、7、8、11、19、37型
インフルエンザ	咽頭ぬぐい液		A/H1、A/H3、B型
パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、喀痰		1、2、3、4型
ムンプス	髄液、咽頭ぬぐい液		
ポリオ	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		1、2、3型
コクサッキーA群	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便、結膜ぬぐい液		7、9、16、24型
コクサッキーB群	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		1、2、3、4、5、6型
エコー	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		1、3、4、5、6、7、9、11、12、13、14、16、17、18、19、22、24、25、30型
エンテロ	髄液、咽頭ぬぐい液、糞便		71型
麻疹 ※3	咽頭ぬぐい液		

採取方法

検体は、発症後速やかに（一般的に4日以内）無菌的に採取・保存して下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。

①各種ぬぐい液および水泡：
　滅菌済みのプラスチック製綿棒にて採取、ウイルス保存液入りバイアルびんに綿棒を入れてよく攪拌後、綿棒を容器上部で折り、密栓して下さい。
　木製綿棒の使用は避けて下さい。
　木製綿棒を使用した場合は、綿棒を抜いて密栓して下さい。
②糞便：　小指頭大の半分（0.5g）をウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
③髄液：　1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
④喀痰・尿：1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。

ウイルス保存液（ゲンタマイシン加0.5％BSA含有ブイヨン）入りバイアルびんは、当社にて準備致しますので、担当者にお申し付け下さい（容器番号P2）。
ウイルス分離検査・同定検査は、同時にご依頼して下さい。
ウイルスが分離された場合のみ、同定検査を実施致します。
ウイルス「分離」および「同定」は、個別に検査料金を申し受けます。
（ウイルス分離検査が陰性の場合は、同定検査の検査料金はかかりません。）

※1：サイトメガロ、水痘・帯状ヘルペスは、凍結により活性が低下するため、冷蔵で保存して下さい。他のウイルスと同時に依頼される場合は、2本に分けて（1本冷蔵、1本凍結）提出して下さい。
※2：凍結は−70℃とし、−20℃では保存しないで下さい。
※3：麻疹ウイルスの分離をご依頼される場合は、事前にご連絡下さい。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
主要組織適合性抗原検査	4347	HLAタイピング	A・B	全血2.0	冷蔵	F1		4〜6	PCR-γSSO法	下記参照	続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記 HLA検査以外の項目との重複依頼不可 （注1） M	臓器移植 HLA型適合血小板輸血 強直性脊椎炎
	4348		DR	全血2.0	冷蔵	F1						
	6713	HLA-DNAタイピング	A	全血2.0	冷蔵	F1		6〜9	PCR-SBT法	HLAタイピングの種類はお問合せ下さい		
	4404		B	全血2.0	冷蔵	F1						
			C	全血2.0	冷蔵	F1						
	4781		DRB1	全血2.0	冷蔵	F1						
			DQA1	全血3.0	冷蔵	F1		5〜11	PCR-SSP法			
	5171		DQB1	全血2.0	冷蔵	F1		6〜9	PCR-SBT法			
			DPB1	全血2.0	冷蔵	F1						
	3160	リンパ球混合培養（MLC）		（受給者）全血 18.0 （提供者）全血 9.0 （非血縁者）全血 9.0 （注2）	室温	H1		9〜10	^{3}H-サイミジン取込能測定法		予約検査 受付曜日：月〜金 続柄·臨床診断名·投与薬剤名·輸血歴·移植歴が必要 M	骨髄移植 生体腎移植

（注1）HLA型判定、遺伝子型判定検査の留意点
1）「HLA型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互のcross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。
①真空採血管を使用し、採血して下さい。
②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。
③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。
④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理して下さい。
2）複数項目を同時にご依頼の場合、HLA型判定、AB LocusおよびDR LocusはEDTA加血液2mL、HLA遺伝子型判定群では3項目までは同2mL、4項目以上は同4mLで検査可能です。ただし、DQA1は単独でEDTA加血液3mLが必要となります。
3）有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/μL以下の場合、所定量の2倍の血液をご提出下さい。
4）血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。
（注2）提供者1人増すごとに、受給者、非血縁者は9mLずつ加算して下さい。

HLAタイピングの種類

HLA-タイピング

HLA-A, B

A		
A1	A25（10）	A34（10）
A2	A26（10）	A36
A3	A28	A43
A9	A29（19）	A66（10）
A10	A30（19）	A68（28）
A11	A31（19）	A69（28）
A23（9）	A32（19）	A74（19）
A24（9）	A33（19）	A80

B					
B7	B22	B44（12）	B53	B62（15）	B75（15）
B8	B27	B45（12）	B54（22）	B63（15）	B76（15）
B12	B35	B46	B55（22）	B64（14）	B77（15）
B13	B37	B47	B56（22）	B65（14）	B78
B14	B38（16）	B48	B57（17）	B67	B81
B15	B39（16）	B49（21）	B58（17）	B70	
B16	B40	B50（21）	B59	B71（70）	
B18	B41	B51（5）	B60（40）	B72（70）	
B21	B42	B52（5）	B61（40）	B73	

HLA-DR

DR		
DR1	DR9	DR17（3）
DR2	DR10	DR18（3）
DR3	DR11（5）	
DR4	DR12（5）	
DR5	DR13（6）	
DR6	DR14（6）	
DR7	DR15（2）	
DR8	DR16（2）	

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
NK細胞活性	4436	NK細胞活性	全血6.0	室温	M3		4～5	^{51}Cr遊離法	下記参照 %	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可 白血球数が3,000/μL以下の場合は、倍量必要 M	免疫機能の評価
リンパ球幼若化試験	2791	薬剤によるリンパ球刺激試験(D-LST)	全血10	室温	H3	＊1 1薬剤 345 2薬剤 425 3薬剤以上 515 免疫	8～10	^{3}H-サイミジン取込能測定法	S.I. ＋ ≧ 1.8 ± 1.6～1.7	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可、開封厳禁 （注） L	
	2942	リンパ球幼若化試験 PHA	全血各5.0	室温	M3	＊1 345 免疫	7～8	^{3}H-サイミジン取込能測定法	PHA+ 41000～79900 Control 180～660 cpm	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可 白血球数が3,000/μL以下の場合は、倍量必要 M	免疫不全症　膠原病 自己免疫疾患
	2943	リンパ球幼若化試験 Con-A				＊1 345 免疫			Con-A+ 34400～62300 Control 180～660 cpm		
リンパ球サブセット	2944	T.B細胞百分率	全血3.0	室温	B	198 免疫	3～4	フローサイトメトリー法	T細胞 72～90 B細胞 7～30 %	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可 M	免疫不全症 悪性腫瘍 自己免疫性疾患 白血病
		Single-color解析による細胞表面マーカー検査	全血3.0	室温	B	＊2 190 免疫	3～4	フローサイトメトリー法	次頁参照		
		Two-color解析による細胞表面マーカー検査	全血3.0	室温	B	＊2 190 免疫	3～4	Tow-color フローサイトメトリー法			
	4138	B細胞サブクラス（表面免疫グロブリン） IgG	全血3.0	室温	B	157 免疫	3～4	フローサイトメトリー法	3～12 % 44～271 /μL	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日の前日は受付不可 M	急性・慢性リンパ性白血病 無(低)免疫グロブリン血症
	4139	IgA							3～9 % 35～205 /μL		
	4140	IgM							2～7 % 24～138 /μL		
	4141	IgD							1～6 % 1～145 /μL		
	2501	K							% 4～279 /μL		
	2502	L							% 8～204 /μL		

＊1　Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。
＊2　T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。
（注）1薬剤増すごとに血液5mL必要。血液と同時に依頼薬剤も提出（1回投与量記入）（坐薬、皮内反応注射薬は検査不可）

NK細胞活性　健常者対照表

【E/T比　50：1】

	男性（%）	女性（%）
X̄	59.79	50.09
S.D.	15.65	13.36
X̄±1S.D.	44.1～75.4	36.7～63.4

【年齢別・性別対照表E/T比　50：1】

年齢		男性（%）	女性（%）	男女（%）
20～29歳	X̄	58.71	52.62	55.53
	S.D.	15.50	12.68	14.28
	X̄±1S.D.	43.2～74.2	39.9～65.3	41.2～69.8
30～39歳	X̄	58.97	44.05	52.39
	S.D.	16.11	11.91	16.07
	X̄±1S.D.	42.8～75.0	32.1～55.9	36.3～68.4
40～49歳	X̄	60.54	51.40	56.73
	S.D.	13.65	17.24	15.66
	X̄±1S.D.	46.8～74.1	34.1～68.6	41.0～72.3
50～59歳	X̄	62.38	50.97	55.72
	S.D.	20.15	11.16	16.19
	X̄±1S.D.	42.2～82.5	39.8～62.1	39.5～71.9

Single-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

	検査コード	CDナンバー	抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)
T細胞	2882	CD1a	胸腺細胞	1以下
T細胞	2878	CD2	T細胞、NK細胞、LFA-2（E-ロゼットレセプター）	72～90
T細胞	2877	CD3	成熟T細胞（TCRα・β・γ・δに結合）	56～86
T細胞	2879	CD4	helper/inducerT細胞（HIV-レセプター）	29～55
T細胞	4500	CD5	T細胞、B細胞サブセット	56～84
T細胞	2888	CD7	T細胞、NK細胞、未成熟骨髄細胞サブセット	58～86
T細胞	2880	CD8	suppressor/cytotoxicT細胞、NK細胞サブセット	19～41
T細胞	3059	CD38	前駆細胞、形質細胞、活性化T細胞、B細胞、胸腺細胞	26～63
T細胞		TCRγ/δ	T細胞	11以下
B細胞	2884	CD10	commonALL、pre-B細胞、胸腺細胞サブセット、顆粒球	1以下
B細胞	2933	CD19	pre-B細胞を含むB細胞	6～23
B細胞	2959	CD20	B細胞、濾胞内樹状細胞	7～30
B細胞	4501	CD21	成熟B細胞（CR2、EBVレセプター）	2～19
B細胞	4502	CD22	B細胞全般（BL-CAM）	3～20
B細胞		CD23	〈A型〉成熟B細胞全般〈B型〉活性化B細胞、好酸球、単球/マクロファージ、血小板（Fcεレセプター Ⅱ）	9以下
B細胞		CD24	B細胞、顆粒球	5～24
骨髄球系	2932	CD13	単球、顆粒球、骨髄細胞	4以下
骨髄球系		CD14	単球、樹状細胞、マクロファージ	2以下
骨髄球系		CD15	顆粒球、ホジキン病	4以下
骨髄球系	3319	CD16	NK細胞、顆粒球、マクロファージ、単球（Fc-γレセプターⅢA/ⅢB）	3～33
骨髄球系	2982	CD33	単球、骨髄細胞	2以下
骨髄球系	3000	CD34	造血前駆細胞	2以下
骨髄球系		CD35	顆粒球、単球/マクロファージ、赤血球、B細胞、一部のNK細胞（CR1）	6～24

	検査コード	CDナンバー	抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)
NK細胞	3320	CD56	NK細胞、T細胞サブセット（N-CAM、NKH1）	4～35
NK細胞	3321	CD57	NK細胞サブセット、T細胞サブセット（HNK1）	4～30
接着分子	2885	CD11b	単球、NK細胞、顆粒球、マクロファージ（MAC-1α、インテグリンαM、CR3）	11～41
接着分子		CD11c	単球、顆粒球、マクロファージ（p150、インテグリンαX、CR4）	2～22
その他		CD25	活性化T細胞、B細胞、活性化マクロファージ（Tac抗原、IL-2Rα）	8以下
その他		CD30	活性化T/B細胞、Reed-Sternberg/Hodgkin細胞、伝染性単核症の異型リンパ球、未分化大細胞性リンパ腫細胞、成人T細胞白血病細胞、正常リンパ組織の大型リンパ芽球	3以下
その他		CD41	血小板、巨核球（GPⅡbⅢa）	5以下
その他		CD42b	血小板、巨核球（GPⅠbα）	2以下
その他	2883	CD71	活性化細胞（T9抗原、トランスフェリンレセプター）	6以下
その他	2881	抗HLA-DR	B細胞、単球、活性化T細胞（HLAクラスⅡ-DR抗原）	11～36
その他		抗HLA-DQ	B細胞サブセット（HLAクラスⅡ-DQ抗原）	7～20
その他		抗グリコホリンA	赤芽球、赤血球	7以下

2886	CD4/CD8比		0.6～2.4

CD : Cluster of differentiation

曜日指定：細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から金曜日までです。

＊　T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

Two-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

検査コード	モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)
3092	CD3X抗HLA-DR	CD3$^+$抗HLA-DR$^+$	11以下
		CD3$^+$抗HLA-DR$^-$	55～84
		CD3$^-$抗HLA-DR$^+$	1～16
		CD3$^-$抗HLA-DR$^-$	2～29
	CD4X抗HLA-DR	CD4$^+$抗HLA-DR$^+$	4以下
		CD4$^+$抗HLA-DR$^-$	28～56
		CD4$^-$抗HLA-DR$^+$	4～19
		CD4$^-$抗HLA-DR$^-$	25～60
	CD8X抗HLA-DR	CD8$^+$抗HLA-DR$^+$	7以下
		CD8$^+$抗HLA-DR$^-$	16～39
		CD8$^-$抗HLA-DR$^+$	4～19
		CD8$^-$抗HLA-DR$^-$	46～67
	CD3XCD56	CD3$^+$CD56$^+$	11以下
		CD3$^+$CD56$^-$	48～81
		CD3$^-$CD56$^+$	7～17
		CD3$^-$CD56$^-$	11～27
4181	CD4XCD8	CD4$^+$CD8$^+$	1以下
		CD4$^+$CD8$^-$	28～57
		CD4$^-$CD8$^+$	9～38
		CD4$^-$CD8$^-$	15～45
	CD4XCD29	CD4$^+$CD29$^+$	12～36
		CD4$^+$CD29$^-$	7～29
		CD4$^-$CD29$^+$	16～50
		CD4$^-$CD29$^-$	7～38

検査コード	モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)
	CD4XCD45RA	CD4$^+$CD45RA$^+$	5～21
		CD4$^+$CD45RA$^-$	16～49
		CD4$^-$CD45RA$^+$	20～47
		CD4$^-$CD45RA$^-$	2～34
2934	CD4XCD45RD	CD4$^+$CD45RO$^+$	16～33
		CD4$^+$CD45RO$^-$	2～24
		CD4$^-$CD45RO$^+$	10～36
		CD4$^-$CD45RO$^-$	32～51
2935	CD5XCD20	CD5$^+$CD20$^+$	10以下
		CD5$^+$CD20$^-$	47～85
		CD5$^-$CD20$^+$	16以下
		CD5$^-$CD20$^-$	4～34
	CD8XCD11b	brightCD8$^+$CD11b$^+$	9以下
		brightCD8$^+$CD11b$^-$	6～25
		brightCD8$^-$dullCD8$^+$CD11b$^+$	40以下
		CD8$^-$CD11b$^-$	34～73
3302	CD57XCD16	CD57$^+$CD16$^+$	19以下
		CD57$^+$CD16$^-$	22以下
		CD57$^-$CD16$^+$	7以下
		CD57$^-$CD16$^-$	55～95
	抗TCRγ/δXCD3	抗TCRγ/δ$^+$CD3$^+$	8以下
		抗TCRγ/δ$^+$CD3$^-$	0
		抗TCRγ/δ$^-$CD3$^+$	50～81
		抗TCRγ/δ$^-$CD3$^-$	13～44

曜日指定：細胞性免疫検査の受託可能日は月曜日から金曜日までです。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	0581	CEA (癌胎児性抗原)	血清0.3	冷蔵	A	*1 102 生化Ⅱ 腫管	1～2	CLIA法	5.0以下 ng/mL		悪性腫瘍 転移性肝癌
	1842	TPA (組織ポリペプチド抗原)	血清0.4	冷蔵	A	110 生化Ⅱ 腫管	3～4	CLIA法	75未満 U/L	M	悪性腫瘍
	3088	BFP (塩基性 フェトプロテイン)	血清0.3	冷蔵	A2	150 生化Ⅱ 腫管	4～7	EIA法	75未満 ng/mL	M	原発性肝癌　卵巣癌 膵癌 胆道癌
	4446	抗p53抗体	血清0.5	冷蔵	A	*2 163 生化Ⅱ 腫管	3～4	CLEIA法	1.30以下 U/mL	L	乳癌・大腸癌 食道癌 悪性腫瘍
	3341	尿中核マトリックス プロテイン 22 (NMP22)	尿　5	冷蔵	D	*3 147 生化Ⅱ	4～6	EIA法	12.0以下 U/mL	L	尿路上皮癌 膀胱癌
	1829	α-フェトプロテイン (AFP)	血清0.3	冷蔵	A	*4 104 生化Ⅱ 腫管	1～2	CLIA法	10.0以下 ng/mL		肝細胞癌 肝硬変 慢性肝炎
	3587	AFPレクチン分画比	血清0.4	冷蔵	A	190 生化Ⅱ 腫管	4～5	LBA(LBA-EATA)法	L3 10.0未満 %	M	肝細胞癌
	3072	PIVKAⅡ	血清0.3	冷蔵	A	*4 139 生化Ⅱ 腫管	2～3	CLIA法	40未満 mAU/mL		肝細胞癌 肝硬変 慢性肝炎
	1839	神経特異エノラーゼ (NSE)	血清0.3	冷蔵	A	*5 146 生化Ⅱ 腫管	2～3	ECLIA法	16.3以下 ng/mL	溶血により高値傾向を示す	肺癌（小細胞癌） 神経芽細胞腫
	1841	SCC 抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	血清0.3	冷蔵	A	107 生化Ⅱ 腫管	2～3	CLIA法	1.5以下 ng/mL	唾液・フケ・皮膚などの混入により高値傾向を示す (頻回穿刺に注意)	肺癌（扁平上皮癌） 子宮頸癌 食道癌
	2695	サイトケラチン 19 フラグメント (シフラ)	血清0.3	冷蔵	A	*6 162 生化Ⅱ 腫管	2～3	ECLIA法	3.5以下 ng/mL		肺癌（扁平上皮癌・腺癌） 肺炎
	2696	ProGRP (ガストリン放出 ペプチド前駆体)	血漿0.3	冷蔵	F1	*5 175 生化Ⅱ 腫管	3～4	CLIA法	81.0未満 pg/mL	M	肺癌（小細胞癌）
	2079	シアリル Le^x-i 抗原 (SLX)	血清0.3	凍結	A	148 生化Ⅱ 腫管	3～5	RIA　固相法 (IRMA)	38.0 以下 U/mL	溶血不可 M	肺癌（腺癌） 膵癌 卵巣癌
	3964	HE4 (ヒト精巣上体蛋白 4)	血清0.3	冷蔵	A	200 生化Ⅱ 腫管	4～6	CLIA法	閉経前女性　70.0以下 閉経後女性　140.0以下 pmol/L	M	卵巣癌

● 腫管 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

＊1　癌胎児性抗原（CEA）と DUPAN-2 を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

＊2　食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月 1 回に限り算定できる。

＊3　尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。なお、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。核マトリックスプロテイン 22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）及びサイトケラチン 8・18（尿）を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。

＊4　悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 肝硬変、HBs 抗原陽性の慢性肝炎又は HCV 抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α-フェトプロテイン（AFP）、PIVKAⅡ半定量又は定量を行った場合（月 1 回に限る。）

＊5　ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

＊6　悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

腫瘍関連検査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	1920	前立腺特異抗原(PSA)	血清0.3	冷蔵	A		1～2	CLIA法	4.0以下 ng/mL	(注)	
	3332	PSA-ACT	血清0.5	冷蔵	A	＊1 127 生化Ⅰ 腫管	3～4	CLIA法	3.4以下 ng/mL	(注) L	
	6141	高感度PSA	血清0.3	凍結	A		2～3	CLEIA法	4.000以下 ng/mL	(注)	前立腺癌 前立腺肥大症
	4013	フリーPSA／トータルPSA比	血清0.7	冷蔵	A	＊2 154 生化Ⅰ 腫管	2～4	CLIA法	26.1以上 %	(注) L	
	1845	γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	血清0.4	凍結	A	194 生化Ⅰ 腫管	3～4	CLEIA法	4.00以下 ng/mL	(注) M	
	1837	CA125	血清0.3	冷蔵	A	＊3 144 生化Ⅰ 腫管	1～2	CLIA法	35以下 U/mL		卵巣癌 子宮癌　子宮内膜症 膵癌
	2087	CA72-4	血清0.3	冷蔵	A	146 生化Ⅰ 腫管	3～4	ECLIA法	8.0以下 U/mL	M	卵巣癌　大腸癌 胃癌　乳癌 膵癌
	3501	シアリル Tn 抗原(STN)	血清0.3	凍結	A	146 生化Ⅰ 腫管	3～5	RIA法(ビーズ固相法)	45.0以下 U/mL	M	卵巣癌 子宮頸癌 胃癌　大腸癌 膵癌
	3100	CA54／61	血清0.4	冷蔵	A	184 生化Ⅰ 腫管	4～7	EIA法	12.0以下 U/mL	M	卵巣癌
	3101	CA602	血清0.4	冷蔵	A	＊3 190 生化Ⅰ 腫管	4～7	EIA法	63.0以下 U/mL	M	卵巣癌 子宮内膜症
	1843	CA15-3	血清0.4	冷蔵	A	＊4 118 生化Ⅰ 腫管	3～4	CLIA法	31.3以下 U/mL		乳癌
	2506	BCA225	血清0.4	冷蔵	A	162 生化Ⅰ 腫管	3～4	CLEIA法	160.0未満 U/mL	L	乳癌

● 腫管 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

＊1 診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するにあたっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

＊2 診療及び他の検査（PSA等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

＊3 CA125、CA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→ 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125、又は、CA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。）
CA125、及びCA602を併せて測定した場合は、1つを悪性腫瘍特異物質治療管理料の項目とし、他の1つの検査を腫瘍マーカーの項目として算定することはできず、いずれか一方のみ算定する。

＊4 シアリルLe^{X}抗原（CSLEX）とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

（注）前立腺触診、内視鏡カテーテルなどの尿道刺激後24時間以内は一過性の上昇を示す。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	1844	DUPAN-2	血清0.4	冷蔵	A	＊1 118 生化Ⅱ 腫管	4～6	EIA法	150以下 U/mL	L	膵癌 胆道癌
	1835	エラスターゼ1	血清0.5	冷蔵	A	＊2 126 生化Ⅱ 腫管	2～3	LA法	300以下 ng/dL		膵癌 急性・慢性膵炎
	1836	CA19-9	血清0.3	冷蔵	A	127 生化Ⅱ 腫管	1～2	CLIA法	37以下 U/mL		膵癌 胆道癌 大腸癌
	1848	SPan-1	血清0.3	冷蔵	A	146 生化Ⅱ 腫管	3～6	RIA 固相法 (IRMA)	30以下 U/mL	M	膵癌 胆道癌
	3079	NCC-ST-439	血清0.4	冷蔵	A	118 生化Ⅱ 腫管	4～5	EIA法	男 4.5未満 女 (49歳以下) 7.0未満 (50歳以上) 4.5未満 U/mL	L	膵癌 胆道癌 乳癌
	2683	可溶性 IL-2 受容体 (可溶性インターロイキン-2 レセプター)	血清0.4	冷蔵	A	＊3 438 生化Ⅱ 腫管	3～4	CLEIA法	121～613 U/mL	M	成人T細胞白血病（ATL） 非ホジキンリンパ腫
	3048	チミジンキナーゼ活性 (TK 活性)	血清0.4	冷蔵	A	＊4 233 血液	3～6	CLIA法	7.5以下 U/L	M	白血病 悪性リンパ腫 造血器腫瘍
	3153	Ⅰ型コラーゲン C テロペプチド (ⅠCTP)	血清0.5	冷蔵	A	170 生化Ⅱ ＊5 腫管	3～5	RIA 二抗体法	5.5未満 (骨転移判定の cut off 値) ng/mL	M	悪性腫瘍に伴う骨転移
	4119	Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド (NTx)	血清0.6	冷蔵	A	＊6 156 生化Ⅱ ＊5 腫管	3～4	EIA法	男性 9.5～17.7 女性閉経前 7.5～16.5 閉経後 10.7～24.0 nmol BCE/L	L	原発性副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症 悪性腫瘍の骨転移
	4026		尿 2 (注)	凍結	D		4～6		次ページ参照	L	
	4020	デオキシピリジノリン (DPD)	尿 2 (注)	冷蔵	D	＊6 191 生化Ⅱ ＊5 腫管	4～6	EIA法	(参考基準値) 男 2.1～5.4 女 2.8～7.6 nmol/mmol·CRE	M	
	4488	TRACP-5b	血清0.3	凍結	A	＊7 156 生化Ⅱ ＊5 腫管	3～5	EIA法	男 170～590 女 YAM 120～420 mU/dL	L	代謝性骨疾患及び骨転移（乳癌、肺癌、前立腺癌に限る）の診断補助並びに経過観察

● 腫管 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

＊1　癌胎児性抗原（CEA）とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
＊2　悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。→急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合
＊3　非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料により算定する。
＊4　造血器腫瘍の診断又は治療効果の判定のために行った場合に算定する。
＊5　乳癌、肺癌、又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
＊6　（P45、＊2・＊3参照）
＊7　（P45、＊2・＊5参照）
（注）　午前中の第2尿を提出

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
	4917	メソテリン（可溶型メソテリン関連蛋白）	血清0.3	凍結	A	* 220 生化Ⅱ 腫管	4～10	CLEIA法	1.5未満 nmol/L	M	中皮腫

● 腫管 印：悪性腫瘍特異物質治療管理料

＊ 悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。また、悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（イ）石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者

（ロ）体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者

（ハ）画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者

なお、悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド(NTx)(尿)判定基準

骨吸収亢進の指標	55 以上
悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標	100 以上
副甲状腺摘出手術の指標	200 以上

（単位：nmol BCE/mmol・CRE）

腫瘍マーカーの臨床的有用性

●特に有用なもの ○有用なもの	肺	食道	胃	肝	胆・胆道	膵	大腸	乳	卵巣	子宮	膀胱	前立腺	甲状腺	神経芽細胞腫
CEA（癌胎児性抗原）	○	○	○＊9	●＊1	○	○	○	○	○	○	○		○	
TPA（組織ポリペプタイド抗原）	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
塩基性フェトプロテイン（BFP）	○			○	○	○			○	○	○	○		
尿中核マトリックスプロテイン22（NMP22）											●			
SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原）	●＊3	●＊3								●＊3				
神経特異エノラーゼ（NSE）	●＊4						○						○	○
シアリルLe^{X}-i抗原（SLX）	●＊6		○			○			○					
サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	●＊5													
Pro GRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	●＊4													
α-フェトプロテイン（AFP）				●＊2										
AFPレクチン分画比				●										
PIVKA II				●										
DUPAN-2				○	○	●								
エラスターゼ1						●								
CA19-9			○		○	●	○							
SPan-1				○	○	●								
NCC-ST-439	○		○	○	○	●	○	●						
CA15-3								●						
BCA225	○					○		●	○	○				
CA125									●＊8	○				
CA602									●	○				
CA72-4			○＊10			○	○	○	●＊7					
CA54/61									●					
シアリルTn抗原（STN）			○		○	○	○		●	○				
抗p53抗体		●					●	●						
PAP（前立腺酸性ホスファターゼ）												●		
前立腺特異抗原（PSA）												●		
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）												●		

＊1転移性　＊2原発性　＊3扁平上皮　＊4小細胞　＊5非小細胞　＊6腺　＊7ムチン性　＊8漿液性　＊9分化型　＊10未分化型

血 液 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血球計数	8127	白血球数（WBC）	全血　2.0	冷蔵	B	21 血液	1〜2	DC検出法	3.8〜9.6 $\times 10^3/\mu L$	採血日に出検 凍結不可	白血病 炎症 感染症
		赤血球数（RBC）						シースフロー DC検出法	男　431〜565 女　378〜497 $\times 10^4/\mu L$		貧血 赤血球増多症
		ヘモグロビン量（Hb）						SLSヘモグロビン法	男　13.7 〜17.4 女　11.2 〜14.9 g/dL		
		ヘマトクリット値（Ht）						赤血球パルス波高値検出法	男　40.2〜51.5 女　33.6〜44.6 %		
		MCV						計算法	男　82.9〜101.2 女　79.0〜 99.2 fL		
		MCH							男　28.1〜34.5 女　26.2〜33.6 pg		
		MCHC							男　31.8〜36.4 女　31.1〜36.2 %		
		血小板数（Plt）						電気抵抗検出法および光学的検出法	13.1〜36.5 $\times 10^4/\mu L$		出血傾向 本態性血小板血症 慢性骨髄性白血病 急性白血病
	0304	網状赤血球数	全血　2.0	冷蔵	B	12 血液	1〜2	フローサイトメトリー法	4〜19 ‰		貧血 白血病

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
形態学的検査	0305	血液像 (白血球分類)	全血 2.0	冷蔵	B	＊1 15 血液	1〜2	自動機械法 (フローサイトメトリー法およびRF/DCインピーダンス方式)	好中球 44.9〜74.4 好酸球 0.0〜 9.9 好塩基球 0.0〜 2.9 リンパ球 19.8〜59.9 単球 0.1〜12.4 %	採血日に出検 凍結不可	白血病 感染症
	0319	好酸球数	全血 2.0	冷蔵	B	＊1 17 血液	1〜2		70〜450 個/μL		アレルギー疾患 寄生虫症 ホジキンリンパ腫
	2896	ALP染色	血液未固定塗抹標本3枚	室温	T	＊2	5〜7	鏡検法 (アゾ色素法)	NAP-score 170〜367	採血日に出検 受付曜日：月〜金 抗凝固剤を使用せず新鮮血にて標本作製、風乾して提出 L	慢性骨髄性白血病 急性リンパ性白血病 類白血病
原虫検査	0333	マラリア原虫	全血 2.0	冷蔵	B	40 血液	3〜4	鏡検法	(−)	M	マラリア
			末固定標本 1〜2枚	室温	T						
	0334	フィラリア原虫	全血 2.0	冷蔵	B	40 血液	1〜2	鏡検法	(−)	採血時間 夜9時〜朝4時	フィラリア症
			末固定標本 1〜2枚	室温	T						

＊1　同一検体について、好酸球数及び末梢血液像（自動機械法）又は末梢血液像（鏡検法）を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
＊2　末梢血液像（鏡検法）と特殊染色を併せて行った場合は特殊染色加算として特殊染色ごとにそれぞれ27点を所定点数に加算する。

血 液 学 的 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	0322	プロトロンビン値 (PT)	血漿0.3	凍結	E	18 血液	1〜2	Quick一段法	秒 10.0〜13.0(秒) % 70〜140(%)	抗凝固療法の治療管理指標である国際標準化比（INR)#もご報告いたします。	外因系凝固因子欠乏症 DIC　肝障害 ビタミンK欠乏症 ワーファリン療法時のモニター
	0326	APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	血漿0.3	凍結	E	29 血液	1〜2	エラジン酸活性化法	25.5〜37.0 秒		内因系凝固因子欠乏症 ビタミンK欠乏症 肝障害 ヘパリン治療
	0321	フィブリノゲン	血漿0.3	凍結	E	23 血液	1〜2	トロンビン時間法	200〜400 mg/dL		DIC　血栓症 感染症 悪性腫瘍 妊娠中毒症
	0323	トロンボテスト	血漿0.3	凍結	E		1〜2	Owren法	70〜130 %		ワーファリン療法時のモニター ビタミンK欠乏症 肝障害
	2871	FDP定量	血漿0.3	凍結	E	80 血液	2〜3	LA法	5 以下 μg/mL		DIC 血栓症 凝固亢進状態
	2923	FDP定量（尿）	尿　1.0	冷蔵	E3	72 尿・糞便	3〜5	LA法	0.1以下 μg/mL	蓄尿不可 L	DIC 糸球体腎炎 妊娠中毒
	3014	プラスミノゲン活性	血漿0.3	凍結	E	100 血液	3〜4	合成基質法	80〜130 %	L	血栓症 出血傾向 肝実質障害　DIC
	2624	アンチプラスミン活性（プラスミンインヒビター）	血漿0.3	凍結	E	128 血液	3〜4	合成基質法	80〜130 %	L	DIC　線溶亢進 肝硬変　肝癌 先天性 α_2PI 欠損症 線溶療法時のモニタリング
	2665	アンチトロンビン活性（AT 活性）	血漿0.4	凍結	E	70 血液	2〜3	合成基質法	80〜130 %	L	肝硬変　心筋梗塞 DIC　静脈血栓症 先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症

INR(International Normalized Ratio, 国際標準比)
PTの測定値は各試薬の感受性や機種間差による施設間差が大きいので、共通のものさしで比較できるようにしたWHOが推奨している表現方法です。

（INRの算出法）　INR＝PR^{ISI}

ISI:　International Sensitivity Index,国際感受性指数

PR:　$\dfrac{\text{患者血漿の凝固時間（秒）}}{\text{正常標準血漿の凝固時間（秒）}}$

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	2534	Dダイマー		血漿0.3	凍結	E	133 血液	1〜2	LA法	1.00以下 μg/mL		血栓症 DIC 凝固療法のモニター 体内凝固亢進状態
	3002	TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)		血漿0.5	凍結	E	*1 181 血液	3〜4	CLEIA法	3.0未満 ng/mL	M	静脈血栓症　DIC 閉塞性動脈硬化症 脳梗塞 体内凝固亢進状態
	3003	PIC (α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)		血漿0.3	凍結	E	158 血液	3〜4	LPIA法	0.8未満 μg/mL	M	DIC　凝固亢進状態 肝硬変 線溶療法時のモニタリング
	2605	プロテインC	抗原量	血漿0.3	凍結	E	239 血液	3〜6	LA法	70〜150 %	L	先天性プロテインC欠乏症 DIC 肝硬変 血栓症
	2546	プロテインC	活性	血漿0.3	凍結	E	241 血液	3〜4	合成基質法	70〜140 %		
	2736	プロテインS	抗原量	血漿0.2	凍結	E	162 血液	3〜6	EIA法	70〜140 %	測定対象はトータル(遊離型及び複合型)です M	血栓症　DIC 先天性プロテインS欠乏症 肝疾患 ビタミンK吸収障害
	2545	プロテインS	遊離型抗原量	血漿0.3	凍結	E	162 血液	3〜4	LA法	60.0〜150.0 %	L	
	3324	プロテインS	活性	血漿0.4	凍結	E	168 血液	3〜6	凝固時間法	64〜149 %	M	
	2504	C_1インアクチベーター活性 (C_1-INH)		血漿1.0	凍結	E	268 免疫	3〜9	発色性合成基質法	70〜130 %	M	C1-INH欠損症 血管神経性浮腫
	2668	トロンボモジュリン		血清0.3	凍結	A	*2 204 血液	3〜6	CLEIA法	12.1〜24.9 U/mL	M	DIC 膠原病 MOF
	4037	PIVKA II		血漿0.3	凍結	E	143 血液	3〜6	CLEIA法	1未満 μg/mL	M	血栓症 肝疾患 ビタミンK欠乏症 新生児出血症
	2671	ループスアンチコアグラント		血漿0.5	凍結	E	*3 281 免疫	3〜4	希釈ラッセル蛇毒試験法	1.2NR 以下 (NR:Normalized Ratio)	L	SLE 習慣性流産 抗リン脂質抗体症候群

*1 トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）、プロトロンビンフラグメントF1+2及びフィブリンモノマー複合体のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
*2 膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。
*3 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	3021	第Ⅰ因子活性 (F2)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	PT法	74〜146 %	M	先天性 プロトロンビン欠乏症 新生児出血症 肝障害
	3022	第Ⅴ因子活性 (F5)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	PT法	70〜152 %	M	先天性第Ⅴ因子欠乏症 肝障害 静脈血栓症
	3023	第Ⅶ因子活性 (F7)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	PT法	63〜143 %	M	先天性第Ⅶ因子欠乏症 肝障害 DIC 静脈血栓症
	3024	第Ⅷ因子活性 (F8)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	APTT法	62〜145 %	M	血友病A DIC von Willebrand病 妊娠
	3025	第Ⅸ因子活性 (F9)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	APTT法	74〜149 %	M	血友病B DIC ビタミンK欠乏症 肝障害
	3026	第Ⅹ因子活性 (F10)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	PT法	71〜128 %	M	先天性第Ⅹ因子欠乏症 ビタミンK欠乏症 肝障害 妊娠後期
	3027	第Ⅺ因子活性 (F11)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	APTT法	73〜136 %	M	第Ⅺ因子欠乏症 DIC 肝硬変
	3028	第Ⅻ因子活性 (F12)	血漿0.5	凍結	E	223 血液	3〜6	APTT法	46〜156 %	M	第Ⅻ因子欠乏症 DIC 肝硬変 ネフローゼ症候群
	3029	第XIII因子(定量) (F13)	血漿0.4	凍結	E	223 血液	3〜6	LA法	70以上 %	M	先天性第XIII因子欠乏症 DIC 重症肝疾患 白血病
	3030	第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	血漿0.5	凍結	E	148 血液	3〜6	Bethesda法	検出せず BU/mL	M	血友病A
	3031	第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	血漿0.5	凍結	E	148 血液	3〜6	Bethesda法	検出せず BU/mL	M	血友病B
	3032	フォン・ウィルブランド因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	血漿0.5	凍結	E	151 血液	3〜6	LA法	50〜150 %	M	von Willebrand病 出血傾向 血友病A鑑別
	2682	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	血漿0.4	凍結	E	132 血液	3〜6	固定血小板凝集法	50〜150 %	M	
	3001	可溶性フィブリンモノマー複合体 (定性)	血漿0.3	凍結	E	93 血液	3〜6	LA法	濃度 7.0未満 判定 (−) μg/mL	L	DIC 静脈血栓症 肺動脈血栓塞栓症

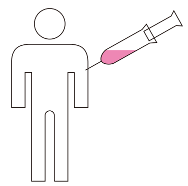
分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	2898	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血漿0.5	凍結	F6	177 血液	4～10	EIA法	60以下 ng/mL	採取方法・提出条件は下記参照 M	DIC 血栓症 凝固亢進 血小板減少症 深部静脈血栓症
	2897	血小板第４因子 (PF4)	血漿0.5	凍結	F6	178 血液	4～10	EIA法	20以下 ng/mL		

検体採取方法

検査項目

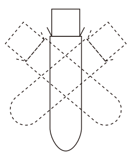
・β-トロンボグロブリン（β-TG）
・血小板第4因子（PF4）

採血方法



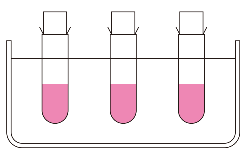
① できるだけ20ゲージ（19～23ゲージでも可）の針を用いたポリエチレン注射器で初めの血液2mLを捨て、次の血液4.5mLを採取する。
（採血にあたって、専用容器F6を使用しての直接採血は絶対にしないでください。）

（注意事項）
真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。
また、止血帯も使用しないでください。
10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。



② 予め専用容器F6を冷却しておく。
次に専用容器のフタを開け血液4.5mLを静かにうつし、ゆっくり2～3回反転混合してください。

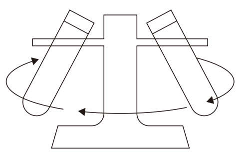
（注意事項）
指定の専用容器以外は使用しないでください。
専用容器は振とうさせないでください。



③ 専用容器をすみやかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。

（注意事項）
砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
角氷は使用しないでください。

以上の操作を2分以内に行う

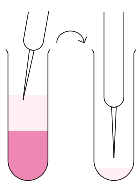


④ 砕氷水に少なくとも 15 分間放置後、採取血液を 2,500G で 20 分間、2～8℃で遠心分離してください。（下表は 2,500G におけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。）

（注意事項）
1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。

換　算　表

半径（cm）	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30
回転数（rpm）	4,700	4,300	4,000	3,700	3,500	3,300	3,200	3,100	2,900	2,800	2,700



⑤ 上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで 0.5mL 検体容器（プラスチック製）へ採取してください。
血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。（血漿の全量採取は避けてください。）
検体は必ず凍結保存してください。（1カ月安定）

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
先天異常染色体	2892	染色体	G-バンド	血液各3.0	冷蔵	H2	*2,631 (+397) 遺伝子	14~19	分染法		受付可能日：月~金 休日の前日は受付不可 M	ダウン症候群 ターナー症候群 クラインフェルター症候群 キャットクライ症候群 13トリソミー 18トリソミー 習慣性流産 不妊症
			C-バンド					15~22				
	3175		Q-バンド									
			高精度分染法									
	2893		脆弱X染色体									
血液疾患染色体	2894	染色体	G-バンド	骨髄液各0.5 または 全血各3.0	冷蔵	M1 または H2	*2,631 (+397) 遺伝子	14~19	分染法		受付可能日：月~金 休日の前日は受付不可 M	白血病
	2895		Q-バンド					15~22				
	4519	末梢血好中球 bcr/abl		全血 3.0				6~8	FISH法			[t(9；22)転座解析]

＊ 分染法を行った場合は、分染法加算として397点を所定点数に加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。

染色体検査の留意事項

(1) 採血・採取

血液、骨髄液は各々の専用容器を用いて無菌的に採取し、速やかに転倒混和（4~5回）してください。ただし、検体中に微小な凝固物が生じている場合には正しい分裂像が得られず検査できなくなることがありますので、その際には再度ご提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

(2) 検体保存温度・時間

a）血液：ヘパリン加検体で24時間以内、冷室温（4~20℃）保存
b）骨髄液：専用保存液入り検体で24時間以内、冷蔵（4℃）保存
注1．24時間以上経過した検体は検査できません。
注2．骨髄液を採取される場合には専用容器をお届けいたしますので、あらかじめご連絡ください。

(3) 血液疾患染色体検査の留意事項

a）ステロイド剤、アルキル化剤および代謝拮抗薬剤など投与中の患者では、分裂像が得られず検査できない場合があります。
b）末梢血でご依頼の際、血液中に幼若細胞（blast）の出現がみられない場合は検査できません。
c）寛解期患者では染色体分裂像が得られず検査できない場合があります。

(4) その他の留意事項

a）専用容器以外で採取された検体は検査できません。
b）無菌的に扱われていない検体は検査できません。
c）検査依頼時には専用検査依頼書にできるだけ詳しく記入してください。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
尿検査	8900	尿一般定性	蛋白	尿　10	冷蔵	D	＊1 26 尿・糞便	1～2	試験紙法	（－）		腎機能障害
			糖							（－）		腎機能障害　糖尿病
			ウロビリノーゲン							（±）		総胆管閉塞　肝障害
			ケトン体							（－）		糖尿病性ケトアシドーシス
			潜血							（－）		膀胱癌　腎炎　尿路結石
			pH							4.8～7.5		糖尿病　尿路感染症
			ビリルビン							（－）		肝障害　胆道疾患
			比重						屈折計法	1.006～1.022		尿崩症　糖尿病
	0412	尿蛋白定量		尿　5	冷蔵	D	7 尿・糞便	1～2	ピロガロールレッド法	mg/dL	24時間蓄尿の場合は尿量を記入	腎機能障害 腎炎
	0073	尿糖定量		尿　5	冷蔵	D	9 尿・糞便	1～2	ヘキソキナーゼUV法	mg/dL		糖尿病 腎性糖尿
	0430	尿沈渣		尿　10	冷蔵	D	＊2 ＊3 ＊4 ＊5 ＊6 27+9 尿・糞便	1～2	染色鏡検法 および フローサイトメトリー法		新鮮尿を提出	腎機能障害 尿路感染症
糞便検査	0445	便虫卵	（集卵）	糞便 小指頭大	冷蔵	K	15 尿・糞便	1～2	集卵法	（－）		寄生虫症
	0444		（塗抹）	糞便 小指頭大	冷蔵	K	20 尿・糞便		塗抹法			
	0440	便中ヘモグロビン	定性	糞便	冷蔵	K2	37 尿・糞便	2～3	LA法	陰性		大腸癌 直腸癌 大腸ポリープ
	4184		定量	糞便	冷蔵	K2	41 尿・糞便	2～3		ng/mL		
	4009	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定量		糞便	冷蔵	K3	56 尿・糞便	3～5	金コロイド法	ヘモグロビン　100未満 トランスフェリン　50未満 ng/mL	R	
	0446	原虫検査		糞便 小指頭大	冷蔵	K	61 微生物	1～2	塗抹鏡検法	（－）		赤痢アメーバ症 ランブル鞭毛虫症

＊1　当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。

＊2　同一検体について当該検査と排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

＊3　尿沈渣（鏡検法）の所定点数は、赤血球、白血球、上皮細胞、各種円柱、類円柱、粘液系、リポイド、寄生虫等の無染色標本検査の全ての費用を含む。尿沈渣（鏡検法）は、尿中一般物質定性半定量検査若しくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められて実施した場合に算定すること。尿沈渣（鏡検法）は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に速やかに報告されるような場合は、所定点数により算定する。尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣（鏡検法）を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。

＊4　尿沈渣（フローサイトメトリー法）は尿中一般物質定性半定量検査若しくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められ、赤血球、白血球、上皮細胞、円柱及び細菌を同時に測定した場合に算定する。

＊5　尿沈渣（鏡検法）と尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて実施して場合は、主たるもののみ算定する。

＊6　染色標本による検査を行った場合は、染色標本加算として9点を所定点数に加算する。

分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
穿刺液検査	0471	穿刺液一般検査	細胞数	穿刺液 5	冷蔵	D		1〜2	鏡検法	×10^3/mm^3	胸水、腹水、関節液（心膜液）を提出	ネフローゼ症候群 肝硬変 悪性腫瘍 心不全 結核 炎症性疾患 関節炎 関節リウマチ 痛風
	0469		細胞分類						Giemsa 染色法	%		
	0465		リバルタ反応						リバルタ反応法			
	0464		比重						屈折計法			
	0467	穿刺液蛋白定量		穿刺液 0.5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ	1〜2	屈折計法	g/dL		
	0468	穿刺液糖定量		穿刺液 0.5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ	1〜2	ヘキソキナーゼ UV法	mg/dL		
	2538	関節液検査（結晶成分）		関節液 5	冷蔵	D		2〜3	顕鏡検法 kingの方法	尿酸ナトリウム結晶(−) ピロリン酸カルシウム結晶(−)		痛風 偽痛風

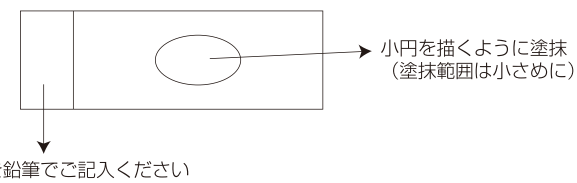
分類	検査コード	検査項目		検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
髄液検査	460	髄液一般検査	細胞数	髄液 3	冷蔵	D	62 尿・糞便	1〜2	鏡検法	0〜5 /3		ウイルス性髄膜炎 日本脳炎 結核性髄膜炎 脳腫瘍 流行性髄膜炎
	461		細胞分類						鏡検法			
	453		比重						屈折計法	1.005〜1.007		
	454		ノンネアペルト						ノンネアペルト反応法	（−）		
	455		パンディー						パンディ反応法	（−）		
	456		トリプトファン						里見変法	（−）		
	0457	髄液蛋白定量		髄液0.5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ	1〜2	ピロガロールレッド法	10〜40 mg/dL		髄膜炎 脳脊髄梅毒
	0459	髄液糖定量		髄液0.5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ	1〜2	ヘキソキナーゼUV法	50〜75 mg/dL		細菌性髄膜炎 日本脳炎
	0458	髄液クロール		髄液0.5	冷蔵	D	11 生化Ⅰ	1〜2	電極法	120〜130 mEq/L		髄膜炎 尿毒症 慢性腎炎
精液検査	0473	精液検査	精子数	精液	室温	D	70 尿・糞便	1〜2	Thoma法	50以上 $\times 10^6$/mL	コンドームでの提出は検査不可	精子減少症 無精子症 不妊症
			奇形率						鏡検法	15以下 %		
			pH						試験紙法	7.0〜8.0		
鼻汁検査	0320	鼻汁好酸球		標本	室温	T	15 血液	1〜2	鏡検法	（−）	採取方法は下記参照	アレルギー性鼻炎

鼻汁好酸球検査の検体採取方法について

採取方法　鼻汁量が多い場合　：セロファン紙、ハトロン紙、薬包紙など水分を吸収しにくい紙、あるいは食品用ラップフィルムのようなものに鼻をかませ、鼻汁の数ヶ所から綿棒あるいはピンセットの尖でスライドガラスに採ってください。

鼻汁量が少ない場合：鼻腔より綿棒で直接採取し、スライドガラスへ採ってください。（粘膜を擦過しないように注意してください。）

標本作製方法　スライドガラスへ細胞が潰れないように、軽く薄く小円を描くように塗抹してください。塗抹後、速やかに扇風機やドライヤー（冷風）などで乾燥させてください。（自然乾燥の場合は、十分乾燥させ標本ケースに入れてください。）



分類	検査コード	検査項目		検査材料	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	備考
一般細菌検査	1076	塗抹鏡検		各種材料(便・血液除く)	冷蔵	各種容器	＊1 61 微生物	1～2	グラム染色法など	緊急 二類および三類感染症菌が検出された場合は直ちに報告 (注) 糞便：糞便材料については赤痢菌、サルモネラ菌、ビブリオの検索を実施します。他の腸管病原菌については目的菌をご指示願います。
	1070	培養同定検査	(1) 口腔、気道・呼吸器系材料	喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J1 J6 など	＊2 160 微生物	3～6	Bergey's Manual などに基づく同定法	
	1070		(2) 消化器系材料 (注)	胃液 胆汁 糞便 吐物　など	冷蔵	J1 J2 K D など	＊2 180 微生物	3～6		
	1070		(3) 血液または穿刺液	血液 髄液 穿刺液 など	室温または冷蔵	J4 D など	＊2 215 微生物	3～10		
	1070		(4) 泌尿・生殖器系材料	尿 婦人科分泌物 尿道分泌物 など	冷蔵	D J1 など	＊2 170 微生物	3～6		
	1070		(5) その他の材料	膿 皮膚 耳漏 眼脂 など	冷蔵	D J1 など	＊2 160 微生物	3～6		
	1075		(6) 簡易培養	各種材料	冷蔵	各種容器	＊2 60 微生物	3～4		
	1105	嫌気性培養		膿・血液 など 各種材料	冷蔵	J1 J3 など	＊2 112 微生物	3～10		
		薬剤感受性検査	1菌種	分離菌			＊3 170 微生物	3～6	ディスク法	判定基準 S：感受性（Susceptible） I：中　間（Intermediate） R：耐　性（Resistant）
			2菌種				＊3 220 微生物			
			3菌種以上				＊3 280 微生物			

＊1　尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の滲出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。なお、染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。ただし、当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみの所定点数を算定する。

＊2　細菌培養同定検査
① 抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とする。なお、同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても（1）から（5）までの項により算定するが､あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は､検体の種類に関わらず（6）の簡易培養により算定する。また、検体ごとに（1）から（5）までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、(6）の簡易培養は算定できない。
② 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は１か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を２か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を２回算定できる。この場合、嫌気性培養の加算は２回算定できる。なお、各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。穿刺液とは、胸水、腹水、髄液及び関節液をいい、「その他の部位からの検体」とは、（1）から（4）までに揚げる部位に含まれない全ての部位からの検体をいい、例えば、皮下からの検体をいう。
③ 簡易培養は、Dip-Slide 法、簡易培地等を用いて簡単な培養を行うものである。なお、ウロトレース、ウリグロックスペーパー等の尿中細菌検査用試験紙による検査は、尿中一般物質定性半定量検査に含まれるものであり、別に算定できない。
④ 同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として 112 点を所定点数に加算する。ただし、嫌気性培養のみを行った場合は、(1）から（6）の所定点数のみ算定し、加算は算定できない。

＊3　結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

分類		検査コード	検査項目	保存条件	容器	所要日数	備考
培養目的菌	呼吸器	1231	肺炎球菌	冷蔵	J1 D J6 など	3~6	
		1216	インフルエンザ菌				
		1211	溶連菌（β溶血性連鎖球菌）				
		1212	A群溶連菌				
		1253	百日咳菌	室温		5~7	
		1250	レジオネラ	冷蔵	D J6	8~14	
		1245	マイコプラズマ	室温			
	創傷	1215	ブドウ球菌	冷蔵	J1 D など	3~5	黄色ブドウ球菌を含む
		1204	緑膿菌				
	腸管・食中毒	1209	エルシニア	冷蔵	J1 J2 K など	3~6	
		1207	ビブリオ	室温			コレラ菌を含む
		1208	赤痢菌	冷蔵			
		1220	サルモネラ				チフス菌・パラチフスA菌を含む
		1241	ウェルシュ菌（嫌気性菌）		J1 J3 など	3~7	
		1218	キャンピロバクター	室温			
		1239	大腸菌 O157	冷蔵	J1 J2 K など	3~6	＊細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
		1214	大腸菌血清型＊				
	泌尿器・生殖器	1203	淋菌	室温	J1 D など	3~8	
		1217	B群溶連菌	冷蔵			
		1206	トリコモナス	室温			
		1256	ガードネレラ	冷蔵			
	耐性菌	1210	MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)	冷蔵	J1 J6 D など	3~6	
		1258	PRSP (ペニシリン耐性肺炎球菌)				
		1260	MDRP (多剤耐性緑膿菌)				薬剤感受性試験を実施させて頂きます
		1283	MDRA (多剤耐性アシネトバクター)				
		1263	ESBLs (基質拡張型βラクタマーゼ産生菌)				
		1282	CRE (カルバペネム耐性腸内細菌科細菌)				
		1262	BLNAR(βラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌)				
	真菌	1219	アスペルギルス	冷蔵	J1 D など	3~7	
		1202	カンジダ				
		1234	クリプトコッカス				
		1201	白癬菌			6~8	

微生物学的検査

微生物検査の検体採取および保存・輸送方法

臨床微生物検査において正しい検査結果を得るためには、「材料採取」「保存と輸送」「検査」のいずれもが適正に行わなければなりません。検査材料として病原体が存在する部分が採取できていなければその検出は不可能となり、また、材料の保存・輸送が不適切であれば菌の増殖あるいは死滅を招きます。これらの場合は、検査の目的を達し得ないばかりでなく、誤った解釈を招くことにもなりかねません。

以下に、臨床微生物検査における材料採取とその保存・輸送方法を中心に、その注意点などをまとめましたので、ご参照ください。

1．採取時期
- ・発病初期に採取してください。
- ・化学療法開始前に採取してください。
- ・化学療法中の患者では、24～48時間以上投薬を中止して採取してください。
- ・中止できない場合は、血中濃度が最も低い時期（次回投与の直前）に行ってください。
- ・信頼性を高めるためにも、複数回採取してください。

2．採取法
- ・検体量はできるだけ多く採取してください。
- ・無菌的に採取してください。
- ・常在細菌の混入を最小限にとどめるようご注意ください。
  （常在細菌の混入がおこりやすい材料：喀痰、咽頭粘液、皮膚など）
- ・消毒液の混入を避けてください。
- ・乾燥すると多くの微生物は死滅するため、材料の乾燥を防いでください。
- ・適切な採取容器（輸送容器）に採取してください。
- ・採取後は液漏れなどを起こさないよう、容器の蓋を固く閉めてください（シールしてください）。
- ・バイオハザードを引き起こさないようにご注意ください。

3．保存・輸送
- ・保存および輸送は、基本的には冷蔵にて行ってください。

4．提　出
- ・ご提出に当たっては、投薬の有無、下痢の有無、海外渡航歴、推定起炎菌などの患者情報を併せて付記されることが望まれます。
- ・検体ラベルには、患者名など必要事項を適切に記入してください。また、検体の品質を裏付ける上で、採取部位、材料名、採取日の記載は必須です。

検査材料別輸送容器

検査材料	必要量	シードスワブ1号（J1）	シードスワブ2号（J1）	シードスワブ3号（J1）	嫌気ポーター（J3）	カルチャーボトル（J4）	喀痰容器（J6）	滅菌スピッツ（D）
喀痰　吸引痰	1 mL 以上				●		●	
咽頭粘液	充分量			●	●			
糞便	充分量	●			●			
尿	3 mL 以上				●			●
尿道分泌物　腟分泌物	充分量			●	●			
胸水　腹水　関節液	4 ～ 8 mL				●	●		●
髄液	2 ～ 3 mL				●	●		●
動脈血　静脈血	2 ～10 mL					●		
耳漏　眼脂	充分量		●	●				
皮膚　爪　毛	充分量							●
膿（開放性、非開放性）	充分量	●	●	●	●			●
好気性菌		●	●	●	●	●	●	●
嫌気性菌					●	●		
真菌		●	●	●	●	●	●	●
検体採取後の保存条件		冷蔵	冷蔵	冷蔵	冷蔵	室温	冷蔵	冷蔵
注意事項・その他						塗抹鏡検不可		

薬剤感受性検査

系統名	薬剤名		ブドウ球菌	MRSA	連鎖球菌	肺炎球菌	腸球菌	その他グラム陽性球菌	インフルエンザ菌	その他ヘモフィルス	緑膿菌	ビブリオ	キャンピロバクター	その他グラム陰性桿菌	グラム陽性桿菌	ブランハメラ	淋菌・髄膜炎菌	嫌気性菌
①	PCG	ペニシリンG	●		●	●	●	●									●	●
	ABPC	アンピシリン	●		●		●	●	●	●		●	●	●	●			
	PIPC	ピペラシリン					●				●			●				
②	SBT/ABPC	スルバクタム/アンピシリン	●						●									
	CVA/AMPC	クラブラン酸/アモキシシリン			●	●			●					●	●	●	●	●
	SBT/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン									●			●				
③	CEZ	セファゾリン	●					●						●				
	CMZ	セフメタゾール	●					●						●			●	●
	CTM	セフォチアム	●			●			●						●	●		
	CFDN	セフジニル							●							●		
	CFPN	セフカペン				●			●									
	CTRX	セフトリアキソン															●	
	CTX	セフォタキシム			●	●			●	●		●		●	●		●	
	CFPM	セフェピム	●								●			●				
④	IPM	イミペネム			●		●	●		●	●		●	●	●			●
	MEPM	メロペネム	●			●			●									
⑤	GM	ゲンタマイシン						●			●			●				
	ABK	アルベカシン	●	●														
⑥	EM	エリスロマイシン	●		●	●	●	●					●		●			
	CAM	クラリスロマイシン				●			●	●						●		
⑦	MINO	ミノマイシン	●	●	●		●	●		●				●	●			
	TC	テトラサイクリン			●	●	●		●			●					●	
⑧	LVFX	レボフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
⑨	VCM	バンコマイシン	●	●		●	●	●							●			●
⑩	ST	ST合剤	●	●					●			●						
	FOM	ホスホマイシン	●									●		●				

①ペニシリン系　②β-ラクタマーゼインヒビンター　③セフェム系　④カルバペネム系　⑤アミノグリコシド系
⑥マクロライド系　⑦テトラサイクリン系　⑧ニューキノロン系　⑨グリコペプチド系　⑩その他

微生物学的検査

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	備考
抗酸菌検査	1001	塗抹鏡検	喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J1 J6 D	＊1 61 微生物	1～2	チールネルゼン染色法	
	0995		喀痰 咽頭分泌物 など	冷蔵	J1 J6 D	50 微生物	1～2	蛍光法	
	1004	分離培養	喀痰など	冷蔵	115ページ参照	＊2 ＊3 204 微生物	28～56	小川培地法	
	0999		喀痰など	冷蔵		＊2 ＊3 280 微生物	12～42	酸素感受性蛍光センサー法 （MGIT培地使用）	陽性になり次第報告 陰性は6週まで培養
		薬剤感受性検査	分離菌 あるいは菌株	室温		＊4 380点 微生物	28～56	マイクロタイター法	菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します
	6520	非結核性抗酸菌 MIC （ブロスミック NTM）	分離菌 あるいは菌株	室温			28～56	微量液体希釈法	非定型抗酸菌のみ実施 菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します L
	3449	抗酸菌同定（質量分析）	分離菌 あるいは菌株	室温		＊5 361点 微生物	2～5	質量分析法 （MALDI-TOF MS）	菌量不足の場合は増菌後 検査を実施します L
	4741	T-SPOT.TB （インターフェロンγ遊離試験）	全血9.0	室温	H1	＊6 612 免疫	4～5	ELISPOT法	予約検査 受付曜日：月～金 M

＊1　尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の滲出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。なお、染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。ただし、当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみの所定点数を算定する。
＊2　検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
＊3　結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
＊4　直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。
＊5　他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。なお、抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。
＊6　診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
抗酸菌検査	3543	結核菌核酸同定検査（MTB）	次頁参照	冷蔵	次頁参照	＊3 410 微生物	2～4	リアルタイムPCR法 （TaqManPCR法）	結核菌群（－）	（注）	結核
	3542	非定型抗酸菌核酸同定（MAC）		冷蔵		＊5 421 微生物	2～4	リアルタイムPCR法 （TaqManPCR法）	M.アビウム（－） M.イントラセルラー（－）	（注）	非定型抗酸菌感染症
	3224	抗酸菌群核酸同定検査（DDH）	分離菌 あるいは菌株	室温		＊3 410 微生物	8～11	マイクロプレートハイブリダイゼーション法		菌量不足の場合は増菌後検査を実施します L	抗酸菌感染症

（注）遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。

臨床材料と必要検体量及び採取容器

検　査　材　料		喀痰	気管支洗浄液	胸水	髄液	胃液	尿	腹水	関節液	血　液	膿	糞便
必要量		1～3mL	1～3mL	5～10mL	1～2mL	1～3mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	2～3mL	小指頭大
容器		J6･D	D	D	D	D	D	D	D	F1	J1･D	K
分離培養	小川培養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MGIT	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×検査不可
遺伝子検査		○	○	○	○	○	○	○	○	○※	○	○

※ヘパリン添加不可

抗酸菌遺伝子検査の留意点

①血液混入検体、組織など材料によっては阻害物質により結果が偽陰性になる場合があります。
②組織は生材料にてご提出ください。（ホルマリン固定組織、パラフィン固定組織不可）
③胸水、腹水、髄液、関節液、血液、骨髄液の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、EDTAを用いて採取してください。
ヘパリン-Naは使用しないでください。
④検体は、冷蔵保存してください。
⑤検査結果において“陽性”は結核菌あるいはMACの存在を示唆しますが、“陰性”の場合、必ずしも結核菌あるいはMACの存在を否定するものではありません。
塗抹、培養など他の検査との併用により総合的に診断いただきますようお願い致します。

分類	検査コード	検査項目	検査材料	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	備考
真菌検査	8810	真菌塗抹鏡検	皮膚、爪	冷蔵	D	61 微生物	1〜2	水酸化カリウム(KOH)法	
	8805	真菌培養同定	各種材料	冷蔵	D	一般細菌に準ずる	7〜20	Bergey's Manual などに基づく同定法	
その他	0209	ベロトキシン検出	分離菌 あるいは菌株	冷蔵		＊1 194 微生物	3〜5	RPLA法	
	4393	ヘリコバクター同定	胃粘膜組織 十二指腸組織	冷蔵	J7	＊2 180 微生物	7〜8	微好気培養	L

＊1 細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。ただし、大腸菌ベロトキシン定性のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

＊2 ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に即して行うこと。

分類	検査コード	検査項目		検査材料	保存条件	採取容器	点数	所要日数	検査方法	備考
病理学的検査	0353	病理組織標本作製	1臓器	各種組織	室温	S	＊1 860	※5～14	ヘマトキシリン・エオジン染色	○病理組織検査専用の依頼書を添えて提出 ○専用容器（S）を使用しない場合は、組織材料が充分に入る広口の容器に組織の10倍量を目安とした10％中性緩衝ホルマリン液を入れて提出 ◎提出方法の詳細は次頁を参照 ※所要日数は一応の目安です。脱灰、脱脂、再固定等の必要が生じた際は、さらに日数を要する場合があります。 ◎特殊染色、免疫染色は119～122ページを参照 （未記載染色につきましてはホームページまたは直接お問い合わせください。）
	0348		2臓器				＊1 1,720			
	0347		3臓器以上				＊1 2,580			
		特殊染色		各種組織または未染色標本またはパラフィンブロック	室温	SまたはT		※5～14	各種特殊染色	
		免疫染色（免疫抗体法）					＊2＊3 400		酵素抗体法	
	3005	エストロジェンレセプター		パラフィンブロック	室温		＊4 720	8～12	酵素抗体法	○原則として10％中性緩衝ホルマリン固定材料及びブロックで受託。 スライドの場合はコーティングスライドを使用。 ◎ 病理検査による確定診断後の治療方針選択時に使用。検査依頼時には病理診断書（コピー）を添付してください。 ◎ 提出方法の詳細は次頁を参照
	2854	プロジェステロンレセプター		パラフィンブロック	室温		＊4 690			
	4100	HER2/neuタンパク		パラフィンブロック	室温		＊5 690			

＊1 次に掲げるものは、各区分ごとに1臓器として算定する：[ア．気管支及び肺臓、イ．食道、ウ．胃及び十二指腸、エ．小腸、オ．盲腸、カ．上行結腸、横行結腸及び下行結腸、キ．S状結腸、ク．直腸、ケ．子宮体部及び子宮頸部]。また、1臓器又は、1部位から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても、1臓器又は、1部位の標本作製として算定する。
悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製し、又は連続切片標本を作製した場合であっても、所定点数のみ算定する。ヘリコバクター・ピロリ感染診断を目的に行う場合の保険診療上の取扱いについては、「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に即して行うこと。なお、3臓器以上の標本作製を行った場合は、3臓器を限度として算定する。リンパ節については、所属リンパ節ごとに1臓器として数えるが、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数える。

＊2 病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法（蛍光抗体法又は酵素抗体法）又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。なお、免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製、病理組織標本作製又は電子顕微鏡病理組織標本作製のうち、いずれを算定した場合であっても、他の2つの項目を合わせて算定することができる。

＊3 確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。
「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）が疑われる患者に対して加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載すること。なお、次に掲げるいずれかの項目を既に算定している場合には、当該加算はできない。
ア　悪性腫瘍組織検査の悪性腫瘍遺伝子検査の「イ」処理が容易なものの医薬品の適応判定の補助等に用いるもの（肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査又はALK融合遺伝子検査に限る。）
イ　悪性腫瘍組織検査の悪性腫瘍遺伝子検査の「ロ」処理が複雑なもの（肺癌におけるBRAF遺伝子検査に限る。）
ウ　ALK融合遺伝子標本作製

＊4 エストロジェンレセプターの免疫染色とプロジェステロンレセプターの免疫染色を同一月に実施した場合は、いずれかの主たる病理組織標本作製の所定点数に180点を加算する。

＊5 半定量法又はEIA法（酵素免疫測定法）による病理標本作製を行った場合に限り算定する。

病理組織検査の提出方法

1 専用依頼書の記入方法

- カルテNo、患者名、生年月日、性別をご記入ください。
- 提出医名をご記入ください。
- 採取日をご記入ください。
- ご提出される検体個数および容器数をご記入ください。
- 臨床診断名、臨床経過、治療、臨床検査諸事項をご記入ください。
（婦人科材料の場合は月経周期や妊娠・授乳の有無をご記入ください。）
- 採取部位（採取材料名・採取臓器名）をチェックまたはご記入ください。
- 採取部位の略図や切り出し部位の指示をご記入ください。
- 前回の標本番号および診断名がわかればご記入ください。

2 検査材料の提出方法

①1容器に1臓器を入れてご提出ください。

②容器ラベルに病・医院名、患者名、性別、年齢、臓器名、検査材料数（検査材料が複数の場合）を必ず記入してください。

③容器が複数の場合は容器ラベルの容器番号、臓器名、検査材料数が検査依頼書と整合していることをよく確認してからご提出ください。

3 注意事項

①検体と依頼書は同時に提出してください。

②乾燥した組織や、結石・虫体などは病理診断の対象となりませんので、ご注意ください。

③妊娠12週を超える胎児及びそれに相当する大きさの胎児は、標本作製いたしませんので、ご注意ください。

④固定不良の組織は、病理診断に大きな影響を及ぼすばかりでなく、酵素抗体法による免疫染色においても、染色結果の判定にも重大な誤診を招くことがありますのでご注意ください。

病理組織固定法

原則として10%中性緩衝ホルマリン固定組織でご提出ください。

【10%中性緩衝ホルマリン固定組織】

①1容器に1臓器を入れてご提出ください。
②検査材料中に絹糸・ガーゼ・金属片などがある場合はあらかじめ除去してください。
③摘出した組織を自己融解、乾燥から防ぐために直ちに10%中性緩衝ホルマリン液入り容器に入れて固定してください。
④固定液は組織の10倍量程度の10%中性緩衝ホルマリン液を使用してください。
⑤胃生検などの微小組織片をご提出される場合は、濾紙の上に10秒程度のせたのちに、そのまま10%中性緩衝ホルマリン液入り容器に入れてください。また、複数の微小組織片をご提出される場合は、濾紙に番号などを記入して同一容器に入れるか、採取部位または番号ごとに異なる容器に入れてください。
⑥消化管・胆のうなどの材料は、切り開いて薄い板に粘膜面を上にして虫ピンで止めてから10%中性緩衝ホルマリン液に入れて固定してください。
⑦肺は切り出した気管支断端から10%中性緩衝ホルマリン液を注入し、できるだけ肺胞をふくらませ、空気を追い出してから10%中性緩衝ホルマリン液に入れて固定してください。
⑧子宮・乳房・腎などの大きい臓器は固定が不十分になることが多いので、あらかじめ割面を入れてから10%中性緩衝ホルマリン液で固定してください。

HER2/neuタンパク免疫染色の提出方法

1　固定法

10%中性緩衝ホルマリン固定液で固定してください。固定液に浸漬する時間は6～72時間以内が望ましいです。
（固定時間が長い場合や短い場合、染色結果に影響する場合があります。）
3日以上固定した症例に関しては、染色結果への影響が考えられます。また、アルコール系の固定液や他の固定液ではHER2タンパク過剰発現の検出および判定には適しません。

2　材料

適用には10%中性緩衝ホルマリン固定材料およびそのパラフィン包埋された組織ブロックのみで、凍結組織及び細胞診標本は使用できません。原則として10%中性緩衝ホルマリン固定材料及びブロックでの受託となりますがスライドにて提出される場合には切片の厚さ4～5μmで薄切し、コーティングスライドにて提出していただけるようお願い致します。

特殊染色一覧表

染色名	目的	染色対象
ヘマトキシリン・エオジン（H・E）染色	一般染色	
ワンギーソン染色	結合組織	膠原線維、弾性線維など
エラスチカ・ワンギーソン(EVG)染色		
レゾルシン・フクシン染色		弾性線維
オルセイン染色		
アザン染色		膠原線維、細網線維、腎糸球体、尿細管基底膜など
マッソン・トリクローム染色		
鍍銀染色		細網線維（好銀線維）など
リンタングステン酸 ヘマトキシリン（PTAH）染色	線維素、神経膠細胞、横紋筋	線維素、神経膠細胞、横紋筋の横紋
オイル赤O染色	脂肪	脂肪滴（中性脂肪、コレステリン、脂肪酸）
PAS染色	多糖類	グリコーゲン、粘液、アメーバ、真菌など
PAS ジアスターゼ消化試験		グリコーゲンの証明
アルシアン青染色		酸性粘液多糖類（中胚葉性組織由来の粘液）
PAS・アルシアン青二重染色		グリコーゲン、酸性粘液多糖類
ムチカルミン染色		上皮性粘液など
トルイジン青染色		粘液、軟骨基質など
コンゴ赤染色	アミロイド	アミロイド
ダイロン染色		
メチル緑・ピロニン染色	核酸、核小体	DNA、RNA　主に形質細胞の染色
グリメリウス（好銀性）染色	内分泌細胞の鑑別	消化管・下垂体好銀細胞、カルチノイド、内分泌腫瘍など
フォンタナ・マッソン染色		消化管好銀細胞、カルチノイド、メラニンなど
コッサ法	組織内無機物	カルシウム
ベルリン青染色		鉄
グラム染色	病原体	一般細菌
メチレン青染色		
抗酸菌（チールネルゼン）染色		抗酸菌
グロコット染色		真菌
オルセイン染色		HBs抗原
クリューバ・バレラ染色	中枢神経組織	髄鞘、ニッスル小体
ニッスル染色		ニッスル小体
過ヨウ素酸メセナミン銀（PAM）染色	腎	腎糸球体基底膜、細網線維など
ギムザ染色	血液細胞	血液細胞、ヘリコバクターピロリ
N AS-D クロロアセテートエステラーゼ染色		骨髄球系

免疫染色一覧

検査項目	抗原分布	臨床的意義
上皮系マーカー		
Cytokeratin 5/6	CK5（58kDa）は重層上皮、移行上皮、混合腺、中皮細胞、CK6（56kDa）は増殖期の扁平上皮細胞に発現	低分化型扁平上皮癌と腺癌、上皮型中皮腫と肺腺癌の鑑別
Cytokeratin 7	腺細胞を含む多様な上皮細胞と反応、重層扁平上皮、肝細胞、大腸上皮は陰性	扁平上皮癌、肝細胞癌、腎癌、前立腺癌、大腸癌などで陰性、CK7/CK20の染色特性による腫瘍細胞の鑑別
Cytokeratin 20	腸管上皮、消化管小窩上皮、幽門腺に存在する内分泌細胞、尿管上皮、皮膚のメルケル細胞と反応	結腸･直腸癌では高発現（胃癌では低い）、膵癌･胆道系癌･粘液性卵巣腫瘍・移行上皮癌・皮膚メルケル細胞腫で発現
Cytokeratin AE1+AE3	AE1は酸性サイトケラチン、AE3は塩基性サイトケラチンを認識	汎上皮性マーカー
Cytokeratin CAM5.2	低分子量サイトケラチン、主としてCK8を認識、扁平上皮以外の上皮細胞	上皮性腫瘍の同定、扁平上皮癌は陰性
Cytokeratin HMW（34βE12）	CK1/5/10/14を認識、扁平上皮、腺上皮などと反応	前立腺・乳腺における良悪性の判定
CDX2	十二指腸から直腸にわたる腸上皮の核に発現	カルチノイドを含む消化管原発腫瘍およびその転移巣の同定（卵巣癌・膀胱癌・膵癌にも陽性例あり）
E-Cadherin	カルシウムに制御された上皮細胞の細胞接着や極性の維持、腺管の分化、重層化など正常な組織構築に関与	腫瘍では発現抑制が認められ、癌の進行度・浸潤・転移能との相関あり、また、乳腺における乳管癌と小葉癌の鑑別
Epithelial Membrane Antigen（EMA）	上皮膜抗原（EMA）、癌、中皮腫、滑膜および類上皮肉腫の大部分と反応	上皮性腫瘍の鑑別
Hepatocyte	認識される抗原ははっきりしていないが、正常ヒト肝細胞に存在し、多くの肝細胞癌に発現	肝細胞および肝細胞癌の同定、胆管、肝実質細胞以外は陰性
Napsin-A	Ⅱ型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ、終末および呼吸細気管支の上皮、形質細胞、正常腎の尿細管上皮細胞に発現	肺原発腺癌の90％に陽性
間葉系マーカー		
α-Smooth Muscle Actin（α-SMA）	平滑筋線維に存在するAlpha-Smooth Muscle Actinと特異的に反応	平滑筋線維由来の腫瘍の検索
Calretinin	正常および反応性中皮、皮膚のエクリン腺、精巣のセルトリ細胞、卵巣間質細胞、副腎皮質細胞で発現	中皮腫の同定補助、中皮腫と腺癌の鑑別
D2-40（Lymphatic Endothelial Marker）	リンパ管内皮細胞	血管内皮細胞のマーカーとの組み合わせにより、悪性腫瘍におけるリンパ管侵襲と血管侵襲との鑑別、中皮腫のマーカーとしても用いられる
Desmin	筋細胞内の中間径フィラメント蛋白Desmin（53kDa）のロッド（18kDa）と反応	横紋筋細胞（骨格筋および心筋）と平滑筋細胞に反応する筋原性マーカー
S-100 Protein	ヒトS100αおよびβに強く反応、脳内グリア細胞、上衣細胞を認識、末梢神経系シュワン細胞陽性	ヒト中枢・末梢神経系腫瘍の鑑別、および悪性黒色腫の鑑別
Vimentin	中間径フィラメントの1つ	線維芽細胞、血管内皮細胞、平滑筋細胞などの間葉細胞およびリンパ球に発現
組織マーカー：神経・神経内分泌系		
Chromogranin A（CGA）	内分泌細胞や神経細胞に広く存在する分泌顆粒（クロム親和性顆粒）に認められるタンパク	神経内分泌腫瘍の一般的なマーカー
Glial Fibrillary Acidic Protein（GFAP）	中間径フィラメント蛋白で、星状膠細胞や上衣細胞といったグリア細胞に発現	星状膠細胞腫、上衣細胞腫に発現
Synaptophysin	神経筋接合部、脳、脊髄、網膜のニューロンにある前シナプス小胞および副腎髄質にある同様の小胞で産生される膜内在性糖蛋白	神経ないし神経内分泌腫瘍に特異性の高いマーカー
血液・リンパ球系（CD以外）		
bcl-2	bcl-2遺伝子産物と反応、bcl-2遺伝子産物はミトコンドリア内に存在しアポトーシスの抑制に関与	反応性のリンパ濾胞と濾胞性リンパ腫の鑑別
bcl-6	706アミノ酸核ジンクフィンガータンパク質をコードする転写調節遺伝子で、リンパ濾胞の胚中心細胞陽性	濾胞性リンパ腫、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、バーキットリンパ腫、結節性リンパ球優位型ホジキン病のReed-Sternberg細胞に陽性
Glycophorin A	赤芽球、赤血球	赤芽球系の検出
IgA（α Heavy Chains）	ヒト免疫グロブリンA（IgA）のH鎖と特異的に反応	正常および腫瘍性形質細胞のIgAを検出
IgG（γ Heavy Chains）	免疫グロブリンG（IgG）サブクラスのヒトIgGのH鎖と特異的に反応	形質細胞、IgGを含むリンパ系細胞、B細胞由来に分類される腫瘍の同定

検査項目	抗原分布	臨床的意義
IgG4（γ Heavy Chains)	ヒト免疫グロブリン G4（IgG4）の H 鎖と特異的に反応	IgG4 関連疾患では IgG4 陽性形質細胞の多数の浸潤がみられ、各臓器炎・各腫瘍と IgG4 関連疾患との区別に有用
IgM（μ Heavy Chains)	ヒト免疫グロブリン M（IgM）の H 鎖と特異的に反応	正常および腫瘍性形質細胞の IgM を検出
Kappa Light Chains（κ）	免疫グロブリンの L 鎖はκ鎖とλ鎖に分類、L 鎖κと特異的に反応	λとの組み合わせによるクローナリティの解析はリンパ腫の指標となる
Lambda Light Chains（λ）	免疫グロブリンの L 鎖はκ鎖とλ鎖に分類、L 鎖λと特異的に反応	κの項を参照
MUM1 Protein	MUM1（Multiple Myeloma Oncogene 1）遺伝子は多発性骨髄腫に関与する遺伝子として同定、MUM1 タンパクは胚中心細胞から形質芽細胞の段階で発現	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に強く発現
Myeloperoxidase（MPO)	好中球、単球、骨髄顆粒球の前駆細胞と反応	顆粒球系マーカー
PAX5	ヒト B リンパ球に存在するエピトープに反応	B リンパ球系統の正常および腫瘍性細胞の同定を補助
Plasma Cell（VS38c)	形質細胞の細胞内にある分子量 64kDa の抗原を認識	骨髄腫、形質細胞性腫瘍の鑑別
ホルモン関連物質		
Androgen Receptor（AR)	前立腺などの核	アンドロゲン受容体陽性の同定
Chorionic Gonadotropin (hCG)	ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット（HCG-β）と反応、正常ヒト胎盤の合胞体栄養細胞中にみられる	絨毛癌、胎児性癌
Estrogen Receptor（ER)	エストロゲン受容体	乳癌患者の予後の予測およびホルモン療法適応の判断基準
Progesterone Receptor (PgR)	プロゲステロン受容体	乳癌患者の予後の予測およびホルモン療法適応の判断基準
Thyroid Transcription Factor-1（TTF-1)	甲状腺、肺および脳に特異的に発現している転写因子で、肺胞上皮や甲状腺濾胞上皮の核に反応	肺腺癌、肺小細胞癌、甲状腺濾胞上皮由来の腫瘍に反応、中皮腫では陰性であるため肺腺癌との鑑別に有用
細胞周期、腫瘍マーカー		
α -Fetoprotein（AFP)	ヒトα -フェトプロテイン（AFP）と特異的に反応、AFP はヒトの胎児の卵黄嚢、胎児肝および腸管の細胞で生成される糖タンパク質	生殖腺や生殖腺外の胚細胞腫組織、および肝細胞癌の組織、AFP 産生胃癌などで陽性
AMACR（P504S)	胆汁酸生合成や分岐鎖脂肪酸のβ酸化に関与する AMACR（α -methylacy-CoA racemase）を認識	前立腺癌や高度 PIN には高率に発現、基底細胞染色用マーカーとの組み合わせにより前立腺癌の鑑別に有用
CA19-9	シアリル化したルイス A（Lewis[a]）5 単糖で、乳腺、腎臓、唾液腺、汗腺の導管、肺の気管支上皮、大腸の管腔上皮、前立腺の導管上皮に反応	胃・大腸癌および膵癌の診断とフォローアップ
Carcinoembryonic Antigen (CEA)	ヒト大腸、肺、乳房、胃、膵臓などの悪性腫瘍組織中の 180kDa の癌胎児性抗原（CEA）と反応	中皮腫と腺癌の鑑別
Cyclin D1	ヒトサイクリン D1（PRAD-1 またはｂｃｌ -1）に反応、細胞周期に関与する核内タンパク	マントル細胞リンパ腫、乳癌を含むヒトの悪性腫瘍においてサイクリン D1 が過剰発現
Gross Cystic Disease Fluid Protein-15（BRST-2)	分子量 15kDa の単量体蛋白質で、乳腺嚢胞液、アポクリン上皮、涙腺などに発現	アポクリン上皮、乳癌（乳管上皮）の特異的マーカー
HER2/neu	HER2 遺伝子はチロシンキナーゼ活性を持つ受容体の膜貫通型タンパクをコード、細胞増殖・分化に関与	乳癌・胃癌における HER2 タンパク（c-erbB-2 または HER2/neu タンパク）の過剰発現の検出は、ハーセプチン投与の適応の判断基準
Ki-67（MIB-1)	細胞周期の G1、S、G2、M 期全般にわたって発現する核タンパク	腫瘍の増殖能の評価、濾胞性リンパ腫と反応性濾胞の鑑別、バーキットリンパ腫とびまん性大細胞型リンパ腫との鑑別
p16	サイクリン依存性キナーゼインヒビターの 1 つで細胞周期の中心的な役割を果たす癌抑制遺伝子（p16）蛋白	p16 タンパク過剰発現は、ハイリスク型 HPV の継続的な感染により引き起こされる発癌性形質転換に関係、子宮頸部病変の鑑別に有用
p40	ヒト p63 遺伝子産物には TAp63 と p40 の 2 つのアイソフォームが存在し、そのうち p40 と特異的に反応	扁平上皮癌の代表的なマーカーである p63 よりも特異性が高い
p53（DO7)	癌抑制遺伝子 p53 の遺伝子産物、野生型と変異型のヒト p53 protein を認識	良悪性の判断の補助、正常細胞では陰性
p63	前立腺基底細胞、乳管筋上皮細胞、重層扁平上皮や尿路上皮等多くの上皮細胞の基底細胞の核に反応	基底細胞・筋上皮のマーカー
Prostate Specific Antigen (PSA)	前立腺腺管	転移した前立腺癌の原発巣の検索
Uroplakin Ⅲ	尿路上皮系を形成する移行上皮のアンブレラ細胞の形成に関与し、尿路上皮の分化に対する特異的マーカー	正常では細胞表面に強い陽性反応
Wilms' Tumor 1（WT-1)	Wilms' Tumor 1 Protein（WT1）は癌抑制遺伝子として作用する転写因子であり、WT1 遺伝子の欠失または点突然変異が腫瘍の発生に関与	Wilms' 腫瘍、悪性中皮腫他、多くの腫瘍に反応

病理学的検査

検　査　項　目	抗　原　分　布	臨　床　的　意　義
病原体		
Cytomegalovirus (CMV)	2つのクローンCCH2とDDG9を混合	感染初期/早期のCytomegalovirusの検索
Epstein-Barr Virus (EBV)	Latent membrane protein (LMP-1) はEBVのBNLF1遺伝子がコードする蛋白質、4種類のモノクローナル抗体 (clone CS1、CS2、CS3、CS4) のカクテル	膜蛋白質LMP-1に反応、EBVに感染した細胞の一部に陽性
白血球分化抗原		
CD1a	樹状細胞と胸腺皮質細胞に発現	ランゲルハンス細胞と指状突起細胞の同定、胸腺腫の診断
CD3	正常および腫瘍性のT細胞に発現	T細胞を認識する汎T細胞マーカー
CD4	MHCクラスⅡによる抗原提示を認識するヘルパー・インデューサーT細胞に存在	T細胞性リンパ腫の組織型分類や正常組織内のヘルパー・インデューサーT細胞サブセットの鑑別
CD5	95%以上のヒトT細胞表面に発現、正常B細胞の一部にも発現	T細胞性リンパ腫の診断、B細胞性リンパ腫の分類（小リンパ球性リンパ腫、マントル細胞リンパ腫）
CD8	細胞傷害性サプレッサーT細胞、一部のNK細胞に反応	T細胞性リンパ腫の診断の補助
CD10	common急性リンパ性白血病抗原と特異的に反応、胚中心B細胞・成人骨髄中の未熟なB細胞・乳腺筋上皮細胞・消化管上皮細胞などにも発現	濾胞性リンパ腫、バーキットリンパ腫、リンパ芽球性リンパ腫、腎細胞癌、内膜症、胆管癌
CD20 (L26)	B細胞に反応、形質細胞まで分化すると陰性	B細胞性リンパ腫、ただしリツキサン使用後は発現が減弱
CD21	補体C3d受容体として機能、EBVの受容体として作用、成熟B細胞・濾胞樹状細胞に存在	B細胞性の白血病やリンパ腫の鑑別
CD30 (Ki-1)	活性化B細胞および活性化T細胞に発現	古典的ホジキンリンパ腫のホジキン細胞・Reed-Sternberg細胞および未分化大細胞型リンパ腫などに発現
CD31 (Endothelial Cell)	血管内皮細胞に存在する糖タンパクと血小板に存在するタンパクを認識	血管内皮マーカー、血管内皮細胞由来の良性および悪性腫瘍の検索
CD34 (Endothelial Cell)	ヒトリンパ系および骨髄系前駆細胞に選択的に発現、血管内皮・ある種の間葉系細胞にも発現	血管内皮細胞の同定、間葉系腫瘍、急性白血病の骨髄での芽球の評価
CD42b	血小板、巨核球に発現	巨核球の同定
CD45 (LCA)	白血球共通抗原	白血球起源の腫瘍と、癌・肉腫のような非造血系腫瘍との鑑別
CD56 (N-CAM)	NK細胞および活性化Tリンパ球のサブセット、神経細胞、Schwann細胞に発現	NK細胞性リンパ腫、小細胞癌、神経内分泌性腫瘍の同定
CD68 (KP-1)	マクロファージ、単球、骨髄系前駆細胞、顆粒球、クッパー細胞	マクロファージの同定
CD79 α	B細胞の成熟過程の初期である前B細胞から細胞質内成分としてみられる形質細胞に至るまで広く発現	汎B細胞マーカー
CD117 (c-kit)	カハールの介在細胞に発現	消化管間質性腫瘍（GIST）のマーカー
その他		
Amyloid A	AA型アミロイド沈着物と反応	AA型アミロイドーシスの同定
HMB45 (Melanosome)	ヒトの悪性黒色腫の細胞質内抗原と特異的に反応、メラニン形成細胞へと分化傾向を示す腫瘍とも反応	転移性および無色素性悪性黒色腫の検索
Melan A	ヒトのメラノーマの90%以上で細胞質に均一に陽性反応を示し、成人メラノサイトにも反応	悪性黒色腫の補助的な診断
Muc-1 Glycoprotein	ムチンは上皮組織表面を覆う粘液の主成分を構成し上皮間で発現が異なり、MUC1は乳腺・膵臓に存在する膜結合型ムチン	「乳腺型」の粘液形質マーカー
Muc-2 Glycoprotein	小腸・大腸（とくに杯細胞）に存在する分泌型ムチン	「腸型」の粘液形質マーカー
Muc-5AC Glycoprotein (Muc-5AC)	胃腺窩上皮細胞に存在する分泌型ムチン	「胃型」の粘液形質マーカー
Muc-6 Glycoprotein (Muc-6)	胃幽門腺・噴門腺Brunner腺に存在する分泌型ムチン	「胃型」の粘液形質マーカー
$p57^{Kip2}$	正常細胞は核が陽性	全胞状奇胎の診断に有用、cytotrophoblastsと実質が陰性、絨毛外のtrophoblastsは陽性

分類	検査コード	検査項目		検査材料	保存条件	採取容器	点数	所要日数	検査方法	備考
細胞診検査	0351	婦人科材料等細胞診		腟部擦過	室温	T	＊1 150	3〜11	パパニコロウ染色 メイギムザ染色	○細胞診専用の依頼書を添えて提出 ◎注意事項の詳細は下記及び次頁を参照
				頸部擦過						
				内膜吸引						
	0500	細胞診(婦人科LBC)		頸部擦過	室温	R2	150＋＊2 36			
	0352	その他の細胞診	呼吸器	喀　　痰	冷蔵	J6	＊1 190			
				喀痰集細胞法	室温	R1				
				気管支擦過		T				
			泌尿器	自　然　尿	冷蔵	D				
				カテーテル尿						
			体腔液	胸　　水	冷蔵	D				
				腹　　水						
				関　節　液						
				髄　　液						
			消化器	胃　　液	冷蔵	D				
				胆　　汁						
				生検捺印	室温	T				
			その他	乳　　腺	室温	T				
				甲　状　腺						
				リンパ節						
		細胞診標本作製		各種材料				1〜3		
		細胞診標本診断		細胞診標本	室温	T		3〜11		

＊1　同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、1回として算定する。
＊2　固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、36点を所定点数に加算する。婦人科材料等液状化検体細胞診加算は、採取と同時に行った場合に算定できる。なお、過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製し診断を行った場合には算定できない。

細胞診検査の提出方法

1 専用依頼書の記入方法

- 患者名、生年月日、性別をご記入ください。
- 提出医名をご記入ください。
- 採取日をご記入ください。
- 検査材料をチェックまたはご記入ください。
- 臨床診断名、臨床経過・治療、臨床検査諸事項をご記入ください。
  （婦人科材料の場合は月経周期や妊娠・授乳の有無・ホルモン剤投与の有無、その他特異所見があればご記入ください。）
- 胸部X 線像の特異所見があればご記入ください。
- 前回の標本番号および診断名が分かればご記入ください。

2 スライドガラス・標本ケース及び容器への記入方法

①スライドガラスのすりガラス部に患者名を記入し、乾燥固定した塗抹標本スライドの場合のみ“乾燥（ドライ）”と追記してください。又、同一患者で複数のご依頼がある場合は、材料名も記入してください。

②標本ケースには病・医院名、患者名、性別、年齢、標本枚数を必ず記入してください。

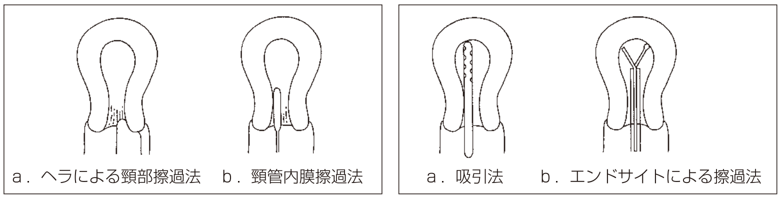
③採取容器に、病・医院名、患者名、性別、年齢、材料名を必ず記入してください。

細　胞　診　検　査

検査材料の提出方法

①婦人科材料　〔湿固定標本〕
●直接塗抹法：乾燥しやすいので、塗抹後直ちに湿固定してください。
●BD Sure Path法(BDシュアパス法)：採取後すぐにバイアルに入れ、開口部端に先端を引っかけて柄を引き抜いてください。バイアルのフタをしっかりしめてご提出ください。
●Thin Prep法：採取後すぐにバイアルに入れ、容器の底で毛先が広がるように10回以上押す（ブラシの場合）か、バイアル中で10回以上強くかき回し（ヘラの場合）、細胞を十分にバイアルへ入れてください。採取器具はバイアルに入れたままにしないでください。バイアルのフタをしっかりしめてご提出ください。

婦人科検体の採取方法



頸部および頸管内膜擦過スメア採取法　　子宮内膜スメア採取法

②喀痰〔湿固定標本〕
喀痰を採取する際は、起床後にうがいをして口腔内をきれいにしてから採取してください。
●喀痰集細胞法検体は、蓄痰容器の内シールをはがし、1日1回・3日間（できれば連続3日間）採取し、その都度フタをして15〜20回強く振り、痰を溶解させ、容器のままご提出ください。（痰は青線を超えないように注意してください）
●生検体のまま提出される場合は、所定の容器に喀痰を入れ、しっかりとフタをしてご提出ください。
●標本スライドを作製する場合は、小豆大の喀痰を2枚のスライドガラスで挟み、軽い圧迫を加えて前後左右に3〜4回程度すり合わせ、直ちに湿固定してください。癌細胞は血痰部、白濁部、粘液部に多く含まれるので、特にその部分を塗抹してください。なお、検体がごく少量で乾燥のおそれがある場合や粘稠性がない場合は蓄痰容器での提出が望まれます。

③液体検体（尿、胸水、腹水、洗浄液）〔湿固定標本〕場合によって＋〔乾燥固定標本〕
●生検体のまま提出される場合は、所定の容器に入れてご提出ください。また尿は10mL以上提出してください。胸水・腹水は2〜3回体位を交換させてから穿刺採取してください。冷蔵保存してください。
●標本スライドを作製する場合は、1,500rpm・5分間遠心後、沈渣を毛細管ピペットで1〜2滴とり、引きガラス法またはすり合わせ法によって塗抹し、直ちに湿固定してください。血性検体の場合は有核成分が多い白色層（バフィーコート層）を塗抹し、直ちに湿固定してください。

④擦過検体（気管支、消化管など）〔湿固定標本〕
●所定容器の液中に採取器具を入れ、振り洗いをするようにし、フタをしてご提出ください。採取器具を入れたまま提出されてもかまいません。この場合は冷蔵保存してください。
●標本スライドを作製する場合は、スライドガラスに塗抹後、直ちに湿固定してください。

⑤穿刺吸引検体（乳腺、甲状腺、肺、リンパ節、軟部腫瘍など）〔湿固定標本〕場合によって＋〔乾燥固定標本〕
●所定容器の液中に針内の検体を入れ、針内に何回か液を出し入れし、針を液に浸したままご提出ください。
●標本スライドを作製する場合は、針内の検体をスライドガラスに吹き出し、別のスライドガラスを重ねて挟み、1度だけ軽くすり合わせ、直ちに湿固定してください。

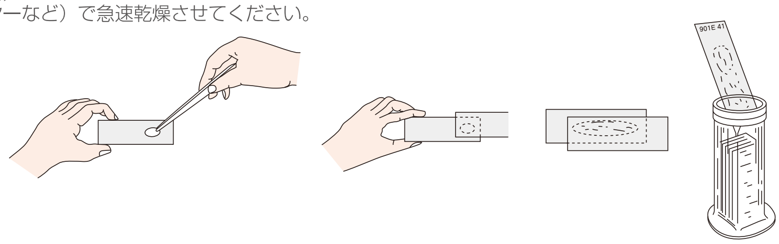
⑥捺印標本（リンパ節、固形腫瘍など）〔湿固定標本〕場合によって＋〔乾燥固定標本〕
●組織の割面をスライドガラスに軽く押し当て、直ちに湿固定してください。

※なお、③〜⑤で標本スライドを作製した場合、残検体がありましたら所定容器に入れてご提出ください。（お問い合わせください。）

【固定方法】

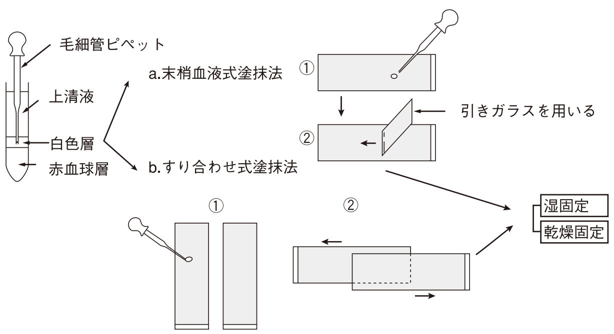
標本スライドを作製する場合、塗抹後瞬時にいずれかの方法で固定してください。
〔湿固定標本〕（おもにパパニコロウ染色用）
A　塗抹したスライドガラスを瞬時に95%エタノールに入れ、30分以上固定後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。（スプレー固定剤はしたたり落ちるくらいの量を噴霧してください。）
B　塗抹したスライドガラスを瞬時に95%エタノールに入れ、そのままご提出ください。（この場合、搬送に耐えられるフタ付固定容器が必要となります。）
C　塗抹したスライドガラスを瞬時に固定剤をしたたり落ちるくらいの量を噴霧し、ご提出ください。
〔乾燥固定標本〕（ギムザ染色用）
塗抹後、直ちに冷風（ドライヤーなど）で急速乾燥させてください。

粘稠性検体
■すり合わせ法



1.シャーレから小豆大の痰を取り出す。
2.スライドガラスの間にはさんで押しつける。
3.２枚のスライドガラスを前後左右にのばす。（3〜4回程度）
4.湿固定

液状検体
■引きガラス法
■すり合わせ法



分類	検査コード	検査項目	検体量mL	保存条件	採取容器	実施料判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
淋菌・クラミジア	3151	淋菌核酸同定検査	初尿4.5	室温	Q12	＊1 ＊2 204 微生物	2～3	リアルタイムPCR法（TaqManPCR法）	陰性	（注）採取方法は87ページ参照	淋菌感染症
	0286		ぬぐい液	室温	Q11						
	4761		うがい液4.5	室温	Q12						
	2919	クラミジアトラコマチス核酸同定検査	初尿4.5	室温	Q12	＊3 ＊4 198 微生物	2～3	リアルタイムPCR法（TaqManPCR法）	陰性	（注）採取方法は87ページ参照	クラミジアトラコマチス感染症 子宮頸管炎 尿道炎
	0281		ぬぐい液	室温	Q11						
	4760		うがい液4.5	室温	Q12						
	4388	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	初尿4.5	室温	Q12	＊2 ＊5 278 微生物	2～3	リアルタイムPCR法（TaqManPCR法）	淋菌：陰性 クラミジア・トラコマチス：陰性	（注）採取方法は87ページ参照	淋菌感染症 クラミジアトラコマチス感染症 混合感染
	4385		ぬぐい液	室温	Q11						
	4762		うがい液4.5	室温	Q12						

＊1　淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
＊2　泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法又はTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又は、TRC法においては咽頭からの検体も算定できる。
＊3　クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
＊4　泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。
＊5　クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。淋菌抗原定性、クラミジア・トラコマチス抗原定性、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、淋菌核酸検出又はクラミジア・トラコマチス核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
（注）初尿は排尿時の最初の部分の尿です。検体採取1時間前より排尿しないで下さい。遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。
（但し、淋菌・クラミジア・トラコマチス検査の同時依頼は可能です。）

遺 伝 子 検 査

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス	3882	ノロウイルスRNA (SRSV-RNA)	糞便 拇指頭大	凍結	K		2～3	リアルタイム RT-PCR法	GⅠ（－） GⅡ（－）		ノロウイルス胃腸炎 ノロウイルス下痢症
	2603	ヒトパルボウイルスB19DNA (HPV/B19-DNA)	血清0.4	凍結	A5		6～8	PCR法	検出せず	他項目との重複依頼は避ける。 M	伝染性紅斑（リンゴ病）
	4238	HPV-DNA同定（低リスク型）	ぬぐい液	冷蔵	Q4		3～9	ハイブリッドキャプチャー法	陰性（－） index 1.00未満	6､11､42､43および44型の低リスク型HPVを検出（型判別不可） M	HPV感染症 子宮頸癌
	4241	HPV-DNA同定（中～高リスク型）	ぬぐい液	冷蔵	Q4	＊1 350 微生物	3～4	ハイブリッドキャプチャー法	陰性（－） index 1.00未満	16､18､31､33､35､39､45､51､52､56､58､59および68型の中～高リスク型HPVを検出（型判別不可） M	HPV感染症 子宮頸癌
	4610	HPVジェノタイプ判定	ThinPrep または SurePath	冷蔵	R2	＊2 2000 微生物	4～7	PCR-rSSO法		16､18､31､33､35､39､45､51､52､56､58､59および68型の中～高リスク型HPVを検出 M	HPV感染症 子宮頸癌
	3997	妊婦 HTLV-Ⅰ 核酸同定	全血7.0	冷蔵	F1	＊3 450 微生物	6～17	リアルタイム PCR法	検出せず	採血日に出検 受付曜日：月～金 休日前日は受付不可 他項目との重複不可 M	成人T細胞白血病（ATL） ヒトT細胞白血病関連脊髄症（HAM）
	4447	HIV1-RNA定量 (TaqMan PCR法)	血漿2.1	冷蔵	A9	＊4 520 微生物	4～5	リアルタイム RT-PCR法	2.0×10^{1}未満 コピー/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複依頼は避ける。 M	後天性免疫不全症候群（AIDS）
	4471	HBV-DNA定量	血清2.0	凍結	A8	＊5 271 微生物	4～6	リアルタイムPCR法（TaqManPCR法）	1.0未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複依頼は避ける。 L	B型肝炎
	4448	HCV-RNA定量 (TaqMan PCR法)	血清2.1	凍結	A5	＊6 437 微生物	2～5	リアルタイム RT-PCR法	1.2未満 LogIU/mL 増幅反応シグナル：検出せず	他項目との重複依頼は避ける。	C型肝炎
	2922	HCVサブタイプ系統解析	血清0.5	凍結	A5		6～8	RT-PCR法／ダイレクトシーケンス法	型別判定 1a,1b,1c,1d,2a,2b,2c,3a,3b,4,5a,6a,（12型）	他項目との重複依頼は避ける。 M	C型肝炎
	3886	百日咳菌核酸検出	後鼻腔ぬぐい液	凍結	J5	＊7 360 微生物	3～5	LAMP法	（－）	採取後速やかに凍結保存 L	百日咳
	4549	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	喀痰1.0 または ぬぐい液	凍結	D2	300 微生物	4～5	LAMP法	検出せず	M	マイコプラズマ感染症 マイコプラズマ肺炎

＊1 厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類がASC-USと判定された患者又は過去に子宮頸部（膣部）切除術、子宮頸部摘出術（膣部切断術を含む。）若しくは子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。また、HPV核酸検出とHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

＊2 あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。なお、HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。また、同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

＊3 HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）によって判定保留となった妊婦を対象として測定した場合にのみ算定する。本検査を実施した場合は、HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）の判定保留を確認した年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

＊4 HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体、HIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1,2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。なお、本検査とHIV-1抗体（ウエスタンブロット法）を併せて実施した場合はそれぞれを算定することができる。

＊5 B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。

＊6 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。なお、治療経過の観察の場合において、HCV核酸定量及びHCV核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊7 関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、測定した場合に算定できる。

分類	検査コード	検査項目	検体量 mL	保存条件	採取容器	実施料 判断料	所要日数	検査方法	基準値	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
結核菌・非定型抗酸菌	3543	結核菌核酸同定検査 (MTB)	下記参照	冷蔵	下記参照	＊1 410 微生物	2～4	リアルタイムPCR法 (TaqManPCR法)	結核菌群（－）	（注）	結核
	3542	非定型抗酸菌核酸同定 (MAC)		冷蔵		＊2 421 微生物	2～4	リアルタイムPCR法 (TaqManPCR法)	M.アビウム (－) M.イントラセルラー (－)	（注）	非定型抗酸菌感染症

＊1　結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
＊2　他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。なお、抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。
（注）遺伝子検査は、コンタミネーションの影響を受けるため、重複依頼は避けて下さい。

臨床材料と必要検体量及び採取容器

検査材料	喀痰	気管支洗浄液	胸水	髄液	胃液	尿	腹水	関節液	血液	膿	糞便
必要量	1～3mL	1～3mL	5～10mL	1～2mL	1～3mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	5～10mL	2～3mL	小指頭大
容器	J6･D	D	D	D	D	D	D	D	F1	J1･D	K

抗酸菌遺伝子検査の留意点

①血液混入検体、組織など材料によっては阻害物質により結果が偽陰性になる場合があります。
②組織は生材料にてご提出ください。（ホルマリン固定組織、パラフィン固定組織不可）
③胸水、腹水、髄液、関節液、血液、骨髄液の採取に当たっては、フィブリンの析出防止のため、EDTAを用いて採取してください。
　ヘパリン-Naは使用しないでください。
④検体は、冷蔵保存してください。
⑤検査結果において“陽性”は結核菌あるいはMACの存在を示唆しますが、“陰性”の場合、必ずしも結核菌あるいはMACの存在を否定するものではありません。
　塗抹、培養など他の検査との併用により総合的に診断いただきますようお願い致します。

検体の安定性（血清・血漿）

検査項目	保存期間
■生化学的検査	
総ビリルビン（T-Bil）	室温２日　冷蔵１週間　凍結１ヶ月（遮光）
直接ビリルビン（D-Bil）	室温２日　冷蔵１週間　凍結１ヶ月（遮光）
総蛋白（TP）	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
アルブミン（Alb）	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
蛋白分画	室温２日　冷蔵１週間　凍結＞１ヶ月
TTT（チモール混濁試験）	室温１～２日　冷蔵３～５日　凍結１週間
ZTT（硫酸亜鉛混濁試験）	室温１日　冷蔵２日　凍結１週間
GOT（AST）	室温３日　冷蔵１週間　凍結＞１ヶ月
GPT（ALT）	室温１日　冷蔵３日　凍結＞１ヶ月
ALP	室温＜１日　冷蔵１週間　凍結６ヶ月
LDH（LD）	室温５日　冷蔵５日　凍結不安定
LAP	室温３日　冷蔵１週間　凍結３ヶ月
γ-GTP（γ-GT）	室温１週間　冷蔵１週間　凍結３ヶ月
コリンエステラーゼ	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
アミラーゼ（AMY）	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
リパーゼ	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結６ヶ月
トリプシン	凍結６ヶ月
エラスターゼ１	凍結３ヶ月
CPK（CK）	室温２日　冷蔵１週間　凍結１ヶ月
アルドラーゼ	室温１日　冷蔵１ヶ月　凍結＞３ヶ月
PAP	凍結１ヶ月
リゾチーム	室温１～４日　冷蔵１週間
L-CAT	冷蔵１週間　凍結３ヶ月
グアナーゼ	室温３日　冷蔵２週間　凍結１０ヶ月
総コレステロール	室温１週間　冷蔵１週間　凍結１年
トリグリセライド（TG）	室温１日　冷蔵４日　凍結＞１ヶ月
リン脂質（PL）	室温不安定　冷蔵１週間　凍結＞１ヶ月
β-リポ蛋白	室温３日　冷蔵１ヶ月　凍結６ヶ月
HDLコレステロール	室温１週間　冷蔵２週間　凍結３ヶ月
リポ蛋白分画	冷蔵１週間
総胆汁酸	室温１週間　冷蔵６ヶ月　凍結１年
ナトリウム（Na）	室温１～２週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
クロール（Cl）	室温１～２週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
カリウム（K）	室温１～２週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
カルシウム（Ca）	室温１週間　冷蔵２週間　凍結１年
無機リン（IP）	室温３日　冷蔵１週間　凍結＞１ヶ月
マグネシウム（Mg）	室温１週間　冷蔵２週間　凍結１年
尿素窒素（UN）	室温３日　冷蔵１週間　凍結６ヶ月
クレアチニン（CRE）	室温３日　冷蔵１週間　凍結６ヶ月
尿酸（UA）	室温３日　冷蔵１週間　凍結６ヶ月
クレアチン	冷蔵１週間　凍結６ヶ月
アンモニア	室温２時間　冷蔵５時間　凍結１週間
血糖（グルコース）	室温８時間　冷蔵１週間　凍結＞１年
乳酸	凍結１ヶ月
ピルビン酸	凍結１ヶ月
ビタミンA	凍結１週間
ビタミンB_1	凍結１０日
ビタミンB_2	凍結１週間
ビタミンB_6	凍結１週間
ビタミンB_{12}	室温４日　凍結３ヶ月
ビタミンE	冷蔵２週間
葉酸	凍結４週間
鉄（Fe）	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
TIBC	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
UIBC	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
銅（Cu）	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
亜鉛（Zn）	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
■内分泌学的検査	
成長ホルモン（GH）	室温１日　冷蔵１日　凍結＞６ヶ月
黄体形成ホルモン（LH）	室温１日　冷蔵１日　凍結＞６ヶ月
卵胞刺激ホルモン（FSH）	室温１日　冷蔵１日　凍結＞６ヶ月
TSH	室温１日　冷蔵１日　凍結＞６ヶ月
ACTH	凍結６ヶ月
プロラクチン	凍結３ヶ月
アルギニンバゾプレッシン	凍結４ヶ月
T_3（トリヨードサイロニン）	室温数日　冷蔵２週間　凍結＞６ヶ月
T_4（サイロキシン）	室温数日　冷蔵２週間　凍結＞６ヶ月
TBG	凍結３ヶ月
サイログロブリン	凍結３ヶ月
抗マイクロゾーム抗体	凍結３ヶ月
抗サイログロブリン抗体	凍結３ヶ月
カルシトニン	凍結３週間
PTH	室温不安定　冷蔵不安定　凍結３ヶ月
１１-OHCS	凍結１ヶ月
コルチゾール	室温１日　冷蔵１０日　凍結＞６ヶ月
アンドロステロン	室温１日　冷蔵２日　凍結＞１年
VMA	凍結６ヶ月
HVA	凍結３ヶ月
カテコールアミン	室温２時間　冷蔵１～２日　凍結１ヶ月
セロトニン	室温不安定　冷蔵不安定　凍結半月
5-HIAA	凍結３ヶ月

検査項目	保存期間
インスリン	室温１日　冷蔵数日　凍結＞６ヶ月
C-ペプタイド	凍結３ヶ月
ガストリン	凍結２週間
エストロゲン	冷蔵２週間　凍結３ヶ月
プロゲステロン	凍結１ヶ月
HPL	室温＜１日　冷蔵２日　凍結１週間
テストステロン	凍結２～４ヶ月
レニン活性	室温３時間　冷蔵３日　凍結２ヶ月
アンギオテンシンⅠ・Ⅱ	室温不安定　冷蔵不安定　凍結半月
サイクリックAMP	凍結１年
■免疫血清学的検査	
血清補体価（CH_{50}）	凍結１週間（-２０℃）　６ヶ月（-７０℃）
C_3	凍結１ヶ月
C_4	凍結１ヶ月
IgG	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
IgA	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
IgM	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
IgD	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
IgE（非特異的IgE ）	凍結６ヶ月
特異的IgE	凍結６ヶ月
α_1-アンチトリプシン	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
ハプトグロビン	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
セルロプラスミン	室温不安定　冷蔵１ヶ月　凍結１年
トランスフェリン（Tf）	室温１週間　冷蔵２週間　凍結６ヶ月
フェリチン	冷蔵２日　凍結４ヶ月
α_1-マイクログロブリン	冷蔵２週間　凍結６ヶ月
β_2-マイクログロブリン	冷蔵３週間　凍結＞３週間
免疫電気泳動	凍結１年（-８０℃）
RA	室温２日　冷蔵１週間　凍結＞４ヶ月
CRP	室温２日　冷蔵１週間　凍結＞４ヶ月
ASO	室温２日　冷蔵１週間　凍結＞４ヶ月
ASK	凍結６ヶ月
トキソプラズマ抗体	凍結６ヶ月
梅毒　RPR法	凍結６ヶ月
梅毒　TPHA法	凍結６ヶ月
梅毒　FTA-ABS法	凍結６ヶ月
ウイルス抗体価（HI）	冷蔵１週間
ウイルス抗体価（CF）	冷蔵１週間
HTLV-Ⅰ抗体（ATLA）	凍結６ヶ月
HA抗体	凍結６ヶ月
HBs抗原	凍結６ヶ月
HBs抗体	凍結６ヶ月
HBc抗体	凍結６ヶ月
HBe抗原	凍結６ヶ月
HBe抗体	凍結６ヶ月
■腫瘍関連検査	
CEA	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
α-フェトプロテイン（AFP）	冷蔵１ヶ月　凍結１年
神経特異エノラーゼ（NSE）	凍結２年
CA１２５	冷蔵２週間
CA１９-９	冷蔵１週間　凍結６ヶ月
■血液学的検査	
プロトロンビン値	凍結３日
APTT	凍結３日
フィブリノゲン	室温１週間　冷蔵１ヶ月　凍結１年
トロンボテスト	凍結３日
ヘパプラスチンテスト	凍結３日
凝固因子	凍結３ヶ月
プラスミノゲン蛋白量	凍結３ヶ月
プラスミノゲン活性	凍結３ヶ月
アンチトロンビンⅢ活性	凍結１ヶ月
PIVKAⅡ（出血・凝固）	凍結３ヶ月
β-トロンボグロブリン	凍結１年

参考文献：日本医師会　臨床検査指針　改訂第５版
検査値を変えるもの　ー影響因子の一覧と対策ー　薬事日報社

検査方法の略号

BCG	Bromcresol Green	ブロムクレゾールグリーン
CF	Complement Fixation	補体結合反応
CLEIA	Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	化学発光酵素免疫測定法
CLIA	Chemiluminescent Immunoassay	化学発光免疫測定法
DACA	p-dimethyl aminocinnam aldehyde	パラジメチルアミノシンナムアルデヒド
ECLIA	Electrochemiluminescence Immunoassay	電気化学発光免疫測定法
EIA	Enzyme Immunoassay	酵素免疫測定法
ELISA	Enzyme-Linked Immunosorbent Assay	酵素免疫測定法
EMIT	Enzyme-multiplied Immunoassay Technique	
FA	Fluorescent Antibody Method	蛍光抗体法
FEIA	Fluoro Enzyme Immunoassay	蛍光酵素免疫測定法
ELISPOT	Emzyme-linked ImmunoSpot	
FPIA	Fluorescence Polarization Immunoassay	蛍光偏光免疫測定法
GC	Gas Chromatography	ガスクロマトグラフィー
GC/MS	Gas chromatography-Mass spectrometry	ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー
HA	Hemagglutination	赤血球凝集反応
HEIA	Homogeneous EIA	均質酵素免疫測定法
HI	Hemagglutination Inhibition Test	赤血球凝集抑制試験
HPLC	High Performance Liquid Chromatography	高速液体クロマトグラフィー
ICP-MS	Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometer	誘導結合プラズマ質量分析計
IFA	Indirect Fluorescent Antibody Method	間接蛍光抗体法
IRMA	Immunoradiometric Assay	免疫放射定量法
KIMS	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	
LA	Latex agglutination	ラテックス凝集法
LAMP	Loop-Mediated Isothemal Amplification	
LC-MS/MS	Liquid Chlomatography/Mass/Mass	タンデムMS法
LPIA	Latex Photometric Immunoassay	ラテックス近赤外免疫比濁法
MPHA	Mixed Passive Hemagglutination	混合受身凝集法
NT	Neutralization Test	中和反応
OCPC	Orthocresophthalein Complexone	オルトクレソフタレインコンプレクソン
PA	Passive（Particle）Agglutination	受身（粒子）凝集反応
PCR	Polymerase Chain Reaction	PCR法
PHA	Passive Hemagglutination	受身赤血球凝集反応
RIA	Radio Immunoassay	放射性免疫測定法
RPLA	Reversed Passive Latex Agglutination	逆受身ラテックス凝集反応
RRA	Radio Receptor Assay	ラジオレセプターアッセイ
RT-PCR	Reverse Transcriptase-PCR	RT-PCR法
TIA	Turbidimetric Immunoassay	免疫比濁法
UV	Ultraviolet	紫外部吸光光度分析

検体採取方法

必要な器具一式

・消毒用アルコール綿
・駆血帯
・目的の採血管
・真空採血管用ホルダーまたは、注射器
・絆創膏類
・医療廃棄物用の容器

採血に必要な道具一式です。採血を始める前に、まずこれらを自分にとってもっとも使いやすい位置に配置させましょう。特に、使用済みの針を入れる容器は、右利きの人であれば、自分にとって右側に、左利きの人であれば左側に配置させましょう。

採血の手順

・採血前の確認をします。

1）患者さんの名前を確認します。（患者さん自身に名前を言ってもらいましょう）
2）患者名と採血管ラベルを照合します。
3）採血に関して説明して同意を得ます。
4）アルコール過敏症を尋ね、過敏症があれば、 他の消毒薬を考慮します。
5）以前に採血等で気分が悪くなった事がないかなど迷走神経反射の既往を尋ねます。
6）適切な採血管を選択します。

・患者さんの腕に駆血帯を巻きます。

1）はじめから静脈の見えやすい人もいますが、駆血帯を巻くことで静脈が浮き出てきます。
2）採血時に採血管からの逆流を防ぐために患者さんの腕を下げるアームダウンにします。

・目的の血管を見極めた後、その周囲を消毒用アルコール綿で消毒します。

1）血管は肘正中皮静脈が一般的ですが、橈側皮静脈、尺側皮静脈の方が採取しやすい人もいます。
2）針とホルダー又は注射器を確実に接続し、針の切り口を上に向けて、皮膚との角度を15～20°程度に保ち、反対則の親指で、穿刺部の皮膚を引っ張るように押さえながら刺入します。
3）刺入ポイントは、実際に穿刺する血管壁のポイントより少し（3～5mm程度）末梢側の皮膚を穿刺します。
4）穿刺する時はいきなり刺すより「ちょっと痛いですよ。」などの声かけをした方が親切です。
5）静脈壁を貫通する瞬間、多くの場合、弱い抵抗を感じます。
静脈に入ったら、そのまま静脈に沿って針を5mm程進めます（こうしておくと、採血中、針先が静脈内から抜けにくくなります）。
6）刺入針が動かないようにように、左手で患者さんの腕の上で、ホルダー又は注射器を固定します。真空採血では、ここで初めて真空採血管を差し込みます。 注射器での採血では、内筒を引き必要量を吸引します。
＊抗凝固剤入りの採血管は採血後軽く転倒混和し凝固を防止します。また、凝固促進剤を添加している血清分離用採血管も軽く転倒混和が必要になります。
7）採血が終わったら駆血帯を緩め、穿刺部を消毒用アルコール綿で押さえながら針を抜きます。患者さんには揉まないで数分間圧迫するように指導します。

【注意】使用済み針はリキャップしません。
リキャップなしで直接所定の専用容器に廃棄します。

採血手順に関する諸注意

・溶血の防止

採血時の溶血を避けるためには、次のような注意が必要です。
・ 皮膚の消毒後は十分乾燥するまで待って穿刺を行う。
・ 23Gより細い針は使用しない。
・ 血腫部位からの採血は行わない。
・ 注射器採血の場合、気泡が混入しないよう針が注射器にしっかりと接続されていることを確認する。
・ 注射器採血の場合、内筒を強く引きすぎない。
・ 採血管には規定量の血液を採取・分注する。
・ 採血管の転倒混和の際、血液を泡立てないようにする。

・クレンチングによるカリウムへの影響

採血時、クレンチングを行うことにより、カリウム値が高くなるという報告があります。クレンチングとは、血管の確認を行うために駆血帯をしたあとに、手のひらの開閉を繰り返し、静脈の怒張を促すことを言います。（いわゆる、ぐーぱーぐーぱー）

採血管の順序

・真空採血時

真空採血を行う場合、複数の採血管に採血する場合は各採血管の間での内容物のコンタミネーションによる検査データへの影響を防ぐため、次の順序が推奨されます。

①　凝固検査用採血管		①　血清用採血管
②　血清用採血管		②　凝固検査用採血管
③　ヘパリン入り採血管	または	③　ヘパリン入り採血管
④　ＥＤＴＡ入り採血管		④　ＥＤＴＡ入り採血管
⑤　解糖阻害剤入り採血管		⑤　解糖阻害剤入り採血管
⑥　その他		⑥　その他

・シリンジ採血時

シリンジ採血を行う場合、シリンジから採血管への分注は次の順序を推奨します。
①　凝固検査用採血管
②　ヘパリン入り採血管
③　ＥＤＴＡ入り採血管
④　解糖阻害剤入り採血管
⑤　血清用採血管
⑥　その他

シリンジ採血時の注意

・**真空採血管への血液分注時の注意**
1）ゴム部以外に針を刺通しないでください。
アルミフィルムに穴が開いて血液が漏れる可能性があります。
2）ゴム部へ刺通後、針に横方向の力を加えないでください。
針に曲がりや破損が生じる可能性があります。

・**採血量への影響**
1）ガスケットの摺動抵抗により、規定の採血量が確保できない場合があります。
少量採血品種など、採血管の陰圧が弱い場合は、摺動抵抗の方が大きくなり、シリンジから血液を分注する途中で血液の流入が止まってしまうことがあります。
このような場合は、押し子をゆっくり押すと血液が分注できます。
特に、シリンジの容量が大きくなると摺動抵抗も大きくなります。
2）フィルムシールのゴム部に針を刺通させて血液を分注させる際は、速やかに刺通させて下さい。

・**検査値への影響**
1）分注する際は、押し子を強く押すと溶血の要因となります。
2）分注する際、採血管とシリンジを寝かした状態で押し子を押すと、採血管の中の液体が逆流する可能性があります。
中の試薬が、次に分注するものに混入すると検査データなどに影響を及ぼすことがあります。

採血器具に関する諸注意

・**器具の廃棄**
真空管採血法では、穿刺に用いた針はホルダーからはずさず、鋭利機材専用廃棄容器に一体のまま捨てることを原則とします。ただしこの場合、針が廃棄容器の外に飛び出すことのないように、十分大きな廃棄容器を使用するなどの注意が必要です。
注射器法の場合は、血液の分注法により異なるため、下記表を参照の上、十分注意して廃棄してください。
何らかの理由でホルダーや注射器から針を外す際には、針のリキャップは行いません。

	(1)注射器から針を外し、採血管の栓も外して血液を注入する。	(2)注射器から針を外さず、採血管の栓を外して血液を注入する。	(3)注射器から針を外さず、採血管の栓に針を刺して血液を注入する。	(4)注射器から針を外し、分注用器具を接続して採血管の栓に刺入し血液を注入する。
器具の廃棄	針は鋭利機材用廃棄容器に、注射器は感染性医療廃棄物容器に捨てる。	針と注射器を一体で鋭利機材用廃棄容器に捨てる。	針と注射器を一体で鋭利機材用廃棄容器に捨てる。	針および分注用器具は鋭利機材用廃棄容器に、注射器は感染性医療廃棄物容器に捨てる。

参考文献：標準採血法ガイドライン（GP4-A2）

特定健康診査に関する注意事項

・**採血管の種類**
血中脂質検査及び肝機能検査：分離剤入り生化学用採血管（容器：A）
血糖検査：フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）
HbA1c：フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）
貧血検査：EDTA-2K入り採血管（容器：B）
尿検査：滅菌スピッツ（容器：D）

・**採取時の注意事項**
特定健康診査を受診される方に対し、健診を受診する前に、次の（1）～（3）までについて通知して下さい。
（1）健診の意義
健診は、自分自身の健康状態を認識できる機会であることや、日頃の生活習慣が健診結果に表れてくるものであること
（2）食事の摂取
ア　午前中に健診を実施する場合は、血糖値等の検査結果に影響を及ぼすため、健診前10時間以上は水以外の飲食物を摂取しないこと
イ　午後に健診を実施する場合は、ヘモグロビンA1c検査を実施する場合であっても、軽めの朝食とするとともに、他の検査結果への影響を軽減するため、健診まで水以外の飲食物を摂取しないことが望ましいこと
（3）その他
アルコールの摂取や激しい運動は、健診の前日は控えること

・**採取検体の注意事項**
分離剤入り生化学用採血管（容器：A）：
採血後は室温で保存、12時間以内に遠心分離を行う。
血清分離後は、測定まで4～10℃で保存し、採血から72時間以内に測定する。
フッ化ナトリウム入り採血管（容器：C）：
採血後は、測定まで4～10℃で保存し、血糖検査は12時間以内、HbA1c検査は48時間以内に測定する。
EDTA-2K入り採血管（容器：B）：
採血後は室温で保存し12時間以内に測定する。
尿滅菌スピッツ（容器：D）：
採取後、4時間以内に測定することが望ましいが、困難な場合には、室温に保存する場合は24時間以内、冷蔵で保存する場合は48時間以内に測定する。

検査項目	参考文献

生化学的検査

検査項目	参考文献
亜鉛（Zn）	松本　武志，金井　晃：検査と技術　9，478，1981
アセトン定量	深堀　すみ江，他：労働科学　59(12)：555-562，1983
アポリポ蛋白	野間　昭夫，他：動脈硬化　16：832，1988
アミノ酸分析	植木　眞琴，他：臨床病理　28（補），138，1980
	大沢　恵津子，他：臨床化学シンポジウム　20，142，1980
	Stein, W. H. and Moore, S. ：J. Biol. Chem. 176，337，1948
アミラーゼ（AMY）	日本臨床化学会：臨床化学 34：350-361，2005
アミラーゼアイソザイム	星野　忠：JJCLA　37，293-297，2012
アミラーゼクリアランス	早川　哲夫，他：正常値と異常値の間：421-427，1972
アミラーゼクレアチニンクリアランス	金井　泉：臨床検査法提要　29：778，1983
アルドラーゼ	宮原　洋一：Medical Technology　12：157，1984
アルブミン（Alb）	金井　泉：臨床検査法提要　31：479-480，1998
アルミニウム（AL）	Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N. ：Clin. Chim. Acta 147, 247, 1985
アンモニア（NH3）	奥田　拓道，藤井　節郎：最新医学，21：622-627，1966
ウロポルフィリン	近藤　雅雄，他：検査と技術　22，411-418，1994
ウロポルフィリン　尿	Nuttall, K. L. et al.：Ann. Clin. Lab. Sci.　26，313，1996
エタノール（エチルアルコール）	鈴木　加奈子：薬毒物分析実践ハンドブック　118，じほう，東京，2002
エラスターゼ 1	大出　勝也，沢井　時男：臨床病理　50，376，2002
カドミウム（Cd）	Lagesson,V.and Andrasko,L.：Clin.Chem. 25：1948，1979
カリウム（K）	金井　泉：臨床検査法提要　31：694-701，1998
カルシウム（Ca）	金井　泉：臨床検査法提要　31：588-594，1998
カルニチン	市本　景子，他：新薬と臨牀　66(9)：1176-1182，2017
	松井　朝義，他：生物試料分析　35(4)：271-274，2012
グアナーゼ	伊東　進：肝胆膵　11，448-456，1985
クエン酸	Warty. VS, et al：Clinical Chemistry 30(7)：1231-1233，1984
グリコアルブミン（GA）	永峰　康孝：医学と薬学　51，737，2004
グリココール酸（CG）	安達　秀樹，他：ホルモンと臨床　27，1185-1190，1979
クレアチニン（CRE）	吉村　学，他：日本臨床　57：542-545，1999
クレアチニンクリアランス	金井　泉：臨床検査法提要　30：1450-1453，1993
クロール（Cl）	金井　泉：臨床検査法提要　31：694-701，1998
クロム（Cr）	田中　俊行，他：医学と生物学　101(5)：277-281，1980
	松岡　澄：産業医学　13(6)：525-537，1971
結石分析	林　康之　編：臨床検査技術全書 2，192，1973（医学書院）
血糖（グルコース）	葛谷　健，他：糖尿病　42(5)：385-404，1999
ケトン体分画	Harano, Y. et al.：Clin. Chim. Acta　134，327，1983
コプロポルフィリン（定量）	Salmi M, et al：Clinical Chemistry　26(13)：1832-1835，1980
コプロポルフィリン（定量）　尿	Nuttall, K. L. et al：Ann. Clin. Lab. Sci.　26，313，1996
コリンエステラーゼ（Ch-E）	金井　正光　編集：臨床検査法提要　32：602-604，2005
コレステロール分画	大井　絹枝，他：検査と技術　29，973-979，2001
肺サーファクタントプロテイン A（SP-A）	大木　卓，他：医学と薬学　71（1），161，2014
肺サーファクタントプロテイン D（SP-D）	田中　誠仁，他：医学と薬学　59：493，2008
脂肪酸 4 分画	小沢　昭夫，他：分析化学　31(2)：87-91，1982
浸透圧	長浜　大輔：検査と技術　14：961，1986
水銀（Hg）	宮永　昭一，他：食品衛生学雑誌　25(1)：30，1984
膵アミラーゼ	池田　勝義，他：日臨検自動化会誌　27：183，2002
膵ホスホリパーゼ A2（膵 PLA2）	上田　章，他：臨床病理　37：561，1989
総コレステロール（TCH）	金井　泉：臨床検査法提要　31：553-557，1998
総三塩化物	城山　康，他：松仁会医学誌　25：225-231，1987
総胆汁酸	藤原　啓子：臨床病理　37：1114-1121，1989
総蛋白（TP）	金井　泉：臨床検査法提要　31：476-478，1998
総ビリルビン（T-Bil）	徳田　邦明，他：臨床化学　22(2)，116-122，1993

検 査 項 目	参 考 文 献
総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比（BTR）	飯塚　誠一，他：現代医療　26（増Ⅱ），99，1994
蛋白分画	古澤　幸弘，他 ：生物物理化学　51(2)：109-112，2007
中性脂肪（TG）	福井　巌，他：日本臨床 40（秋季臨時増刊）：264-276，1982
直接ビリルビン（D-Bil）	徳田　邦明，他：臨床化学　22(2)：116-122，1993
鉄（Fe）　血清	金井　泉：臨床検査法提要　31：599-603，1998
銅（Cu）　血清	長谷川　浩子，他：機器・試薬　19：814，1996
銅（Cu）　尿	奥田　稔，林　康之：臨床病理　（特集第 17 号），84-98，1970
トリクロル酢酸（三塩化酢酸）	城山　康，他：松仁会医学誌　25：225-231，1987
トリプシン	宮谷　博幸，他：医学と薬学　56：771-775，2006
ナトリウム（Na）	金井　泉：臨床検査法提要 31：694-701，1998
鉛（Pb）　全血	原田　章，他：鉛　健康診断のすすめ方　全衛連：56，1990
鉛（Pb）　尿	原田　章，他：鉛　健康診断のすすめ方　全衛連：50-80，1990
ニッケル（Ni）	Mikac-Devic,D.et al.：Clin.Chem. 23，948，1977
乳酸	浅沼　和子，他：生物試料分析　8(3)：16-24，1985
尿アルブミン定量	杉本　英弘，他：臨床病理　35(1)：73-79，1987
尿酸（UA）	金井　泉：臨床検査法提要 31：513-517，1998
尿酸クリアランス	飯笹　泰蔵：臨床検査ガイド：310-313，1990
尿素窒素（BUN）	金井　泉：臨床検査法提要 31：504-508，1998
馬尿酸	酒井　公，他：産業医学　31：9，1989
ヒアルロン酸	島村　朗，他：医学と薬学　44，1141，2000
ビタミン A	Adachi K：J Vet Med Sci，58(5)　461-464，1996
ビタミン B_1	木村　美恵子，他：ビタミン 55：185-189，1981
ビタミン B_2	大石　誠子：ビタミン 57，147-152，1983
ビタミン B_6	吉田　継親，他：薬学雑誌　98(10)：1319-1326，1978
ビタミン B_{12}	川口　行雄，他：医学と薬学　41(1)：145-151，1999
ビタミン C（アスコルビン酸）	Lykkesfeldt J.et al：Analytical Biochemistry　229：329-335，1995
ビタミン E	阿部　皓一，他：栄養と食糧　28(5)：227-280，1975
ビタミン K 分画	Langenberg J.P.,et al：J.Chromatogr.　305：61-72，1984
ピルビン酸	浅沼　和子，他：生物試料分析　8(3)：16-24，1985
プロトポルフィリン	Salmi. M et al：Clinical Chemistry　26(13) ：1832-1835，1980
ヘモグロビン A1C（HbA1C）	島　健二，他：糖尿病　37(11)：855-864，1994
ポルフォビリノゲン	垣下　榮三：日本臨床　53（増刊）：871-876，1995
マグネシウム（Mg）	渡辺　寛人，他：分析化学，26：635-639，1977
マンガン（Mn）　血清，尿	加地　浩，他：日本災害医学会会誌　37，195，1989
マンガン（Mn）　全血	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology　17(6)：660-666，1977
マンデル酸	Ogata, M. et al：Int. Arch. Occup. Environ. Health　59，263，1987
無機リン（IP）	金井　泉：臨床検査法提要 31：597-599，1998
メタノール（メチルアルコール）	深堀　すみ江，中明　賢二：労働科学　59，555-562，1983
メチル馬尿酸	酒井　公，他：産業医学　31：9，1989
遊離コレステロール	金井　正光：臨床検査法提要（第 33 版），464，2010
遊離テストステロン	石原　静盛，他：核医学技術　8：207-212，1988
遊離型プロトポルフィリン	新沼　幸子，他：産業医学　23：254-259，1981
葉酸	安田　和人，他：機器・試薬　25，441，2002
リゾチーム　血清	北村　元仕，他編：実践臨床化学（第 2 版）：432-436，1987（医歯薬出版）
リパーゼ	Tietz et al：Lipase in Serum,CLIN,CHEM　39(5)：746-756，1993
リポ蛋白（a）（LP（a））	吉岡　成人，他：ホルモンと臨床　41(11)，1119，1993
リポ蛋白分画	芝　紀代子：臨床検査　29(11)：133，1985
リポ蛋白分画精密測定	石原　清隆，他：JJCLA　22，247-250，1997
リポ蛋白リパーゼ（LPL）	Kobayashi J et al：Clinica Chimica Acta　216：113-123，1993
リン脂質（PL）	岡部　和彦，他：日本臨床　43（秋季臨増），187，1985
レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP コレステロール）	滝野　豊，他：医学と薬学　56, 269，2006
アルファベット	
A／G　比	浅井　孝道：検査と技術　7(10)：815-820，1979

検査項目	参考文献
ＡＤＡ（アデノシンデアミナーゼ）	山田　満廣，大西　将則：日臨検自動化会誌　17：135，1992
ＡＬＰ（アルカリホスファターゼ）	金井　泉：臨床検査法提要　31：613-617，1998
ＡＬＰアイソザイム	井出　純子，他：日臨検自動化会誌　28：364，2003
ＡＬＴ（GPT）	中野　尚美：臨床検査　37(5)：506-511，1993
ＡＳＴ（GOT）	中野　尚美：臨床検査　37(5)：506-511，1993
ＣＫ（CPK，クレアチンキナーゼ）	庄司　進一，他：日本臨床　57(増刊)：313-315，1999
ＣＫ-ＭＢ（CK-MB）　CLIA OK Centaur	初山　弘幸，他：医学と薬学　29，675-680，1993
ＣＫ-ＭＢ（CK-MB）　免疫阻止 -UV 法	Wurzburg U,et al：Klinische Wochenschrift　54：357-360，1976
ＣＫアイソザイム	井出　純子，他：日臨検自動化会誌　28：364，2003
ＨＤＬコレステロール	伊勢崎　正規，他：臨床検査機器・試薬　19，349，1996
ＩＣＧ（インドサイアニングリーン試験）	金井　泉：臨床検査法提要　31：1424-1425，1998
ＫＬ-6（シアル化糖鎖抗原 KL-6）	西村　順，他：医学と薬学　41(6)：1159-1172，1999
Ｌ-ＣＡＴ（レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ）	Manabe M，et al：J Lipid Res　28：1206-1215，1987
ＬＡＰ（ロイシンアミノペプチダーゼ）	金井　泉：臨床検査法提要　31：657-660，1998
ＬＤ（LDH，乳酸脱水素酵素）	金井　泉：臨床検査法提要　31：649-654，1998
ＬＤアイソザイム	井出　純子，他：日臨検自動化会誌　28：364，2003
ＬＤＬコレステロール	菅野　剛史，他：医学と薬学　37(3)：635-644，1997
ｍ-ＡＳＴ（ミトコンドリア -AST）	杉内　博幸，他：日本臨床化学会年会記録　27，101，1987
Ｎ-メチルホルムアミド	Mraz J.and Turecek F.：J.of Chromato.，414：399，1987
ＮＡＧ（尿）	野戸　章：臨床病理　(特集 56)：65-72，1983
ＰＦＤ試験（PABA 排泄率）	衣笠　勝彦：日消病会誌　74，1323，1977
ＴＩＢＣ（総鉄結合能）	山田　満廣，他：日本臨床化学自動化学雑誌　13(5),659-665，1988
ＵＩＢＣ（不飽和鉄結合能）	金井　泉：臨床検査法提要　29：487-491，1983
γ-ＧＴ（γ-グルタミルトランスペプチダーゼ）	日本臨床化学会：臨床化学　25：135-148，1996
δアミノレブリン酸（δ-ALA）	圓藤　陽子，他：産業医学　35：126-127，1993
数　字	
1,25-（OH）$_2$ ビタミンＤ	鈴木　正司，他：臨床透析　14：371，1998
1,5- アンヒドロ -D- グルシトール（1,5-AG）	森脇　貴美，他：機器・試薬　24：139，2001
2,5- ヘキサンジオン	Nomeir, A. A. et al.：Anal Biochem.　151：381，1985

薬物分析検査

アセトアミノフェン	Rumack BH：Arch Intern Med.　141, 380, 1981
アプリンジン	福井　啓祐，他：JJSHP，24(11)：53-55，1988
アミオダロン	Kuhn.J.et al：J.Pharm.Biomed.Anal.51.210-216，2010
アミカシン	Jolley, M. E. et al.：Clin. Chem. 27, 1575, 1981
塩酸ピルジカイニド	上野　和行，他：Pharma Med.11：97-99，1993
カルバマゼピン	堀辺　玲子，他：臨床検査機器・試薬　6(2)：491-496，1983
キニジン	Kessler K. M. et al.：New Eng. J. Med. 290, 706, 1974
金（Au）	Barret. M. J.　et al.：J. Pharm. Sci. 67，1332，1978
クロナゼパム	越智　雅晴，他：小児科臨床　40 巻増刊号　2870-2881，1987
ゲンタマイシン	Jolley M. E. et al：Clin. Chem.　27：1575，1981
コハク酸シベンゾリン	大塚　実，他：Pharma Med.　14：155，1996
サリチル酸	野口　佳男，他：基礎と臨床　21：511，1987
ジアゼパム	ALLANS. TROUPIN：Annals of Internal Medicine Vol. 100 No.6 854-858，1984
シクロスポリン	向井田　麻由，他：医学と薬学　62：767-774，2009
シゴキシン	菅山　修二，他：生物試料分析　6(1)：31-43，1983
ジソピラミド	西川　隆，他：医学と薬学　9：1213-1216，1983
ゾニサミド	熊谷　昇，他：臨床医薬　5，843，1989
タクロリムス	古屋　実，他：医学と薬学　70(5・6)，961，2013
炭酸リチウム	前畑　英介，他：衛生検査　23(9)：779-782，1974
テイコプラニン	諸岡　美里，他：日本臨床検査自動化学会会誌　38(1)，79，2013
テオフィリン	日下　公代，他：医学と薬学　14(3)：698-694，1985

検 査 項 目	参 考 文 献
トピラマート	小嶺　幸弘：沖縄医報　45(9)：51-56，2009
トブラマイシン	Anhalt J.P.：Interpretation of antimicrobial concentrations in serum. American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program, April，1981
トリメタジオン	Wolfgang, S. and Beelen, C. C. M.：抗けいれん薬，ドラッグレベルモニタリング（斉藤正行，善蔵　監訳），p. 100-109，東京，1982
ニトラゼパム	越智　雅晴，他：小児科臨床　40 巻増刊号　2870-2881，1987
バルプロ酸ナトリウム	宮本　元昭，他：最新検査　2(1)：75-81，1985
ハロペリドール	上野　哲，他：日臨検自動化会誌　29，360，2004
バンコマイシン	篠崎　公一，他：TDM 研究　17：291-296，2000
フェニトイン	堀辺　玲子，他：臨床検査機器・試薬　6(2)：491-496，1983
フェノバルビタール	堀辺　玲子，他：臨床検査機器・試薬　6(2)：491-496，1983
プリミドン	Oellerich M.：J.Clin.Chem. Clin.Biochem. 18：197，1980
フレカイニド	Chang, S.F.,et al：Ther. Drug Monit. 6，105，1984
プロカインアミド	Jolly,M.E.,et al：Clin.Chem.，27(9)：1575-1579，1981
プロパフェノン	Steurer.G,et al：European Heart Journal 12：526-532，1991
ブロムペリドール	上野　哲，他：日臨検自動化会誌　29，360，2004
メキシレチン	小杉　隆祥，他：TDM 研究　7(2)：179-184，1990
メトトレキサート	中原　佑香里，他：医学と薬学　72(4)：761-767，2015
ラモトリギン	小嶺　幸弘：沖縄医報　45(9)：51-56，2009
リドカイン	Cobb, M. E. et al：Clin. Chem. 23：1161，1977
レベチラセタム	赤松　直樹，他：Epilepsy　4(2)：53-58，2010
アルファベット	
L - ドーパ	Felice, L. J. Et al.：J. Neurochem.　31，1461，1978

内分泌学的検査

アルドステロン	塩之入洋，他：医学と薬学　21，293，1989
エリスロポエチン（EPO）	増田　詩織，他：医学と薬学　67(2)，297，2012
黄体形成ホルモン（LH）	中村　悟，他：医学と薬学　40(3)：541-545，1998
オステオカルシン（BGP）	戸来　孝，他：日本臨床検査自動化学会会誌　40(1)，52，2015
ガストリン	竹田　昌弘，他：ホルモンと臨床　31：1123，1983
カテコールアミン３分画	辻　潮，他：臨床検査機器・試薬　11(4)：635-641，1988
カルシトニン	北川　亘，他：医学と薬学　72：97，2015
抗 GAD 抗体	及川　洋一，他：医学と薬学　72：1551-1560，2015
骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	倉澤　健太郎，他：医学と薬学　55(2)：279-284，2006
コルチゾール（血清）	片川　一之，他：医学と薬学　40：169-174，1998
コルチゾール（尿）	花田　浩之，他：医学と薬学　55：145，2006
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	北村　光，他：機器・試薬　21，357，1998
	高田　竜二，他：医学と薬学　33，979，1995
成長ホルモン（GH）	小山　紗世，他：医学と薬学　68，899-910，2012
セロトニン	石田　淳一，他：Jasco Report　39(1,7)，7，1997
ソマトメジン -C（IGF-I）	Isojima, T. et al.：Endocrine Journal　59：771-780，2012
低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	西村　順，他：医学と薬学　57，523-535，2007
デオキシピリジノリン（DPD）	日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan　12，191，2004
テストステロン	岩佐　武，他：産科と婦人科　73：133-140，2006
プレグナンジオール	Suzuki,T.et al.：Endocrine J.　50，571，2003
プレグナントリオール	Suzuki,T.et al.：Endocrine J.　50，571，2003
プレグネノロン	田　根培，他：ホルモンと臨床　26：309，1978
プロゲステロン	中村　悟，他：医学と薬学　40(3)：541-545，1998
プロラクチン（PRL）	中村　悟，他：医学と薬学　40(3)：541-545，1998
ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	北内　信太郎，他：Prog. Med.　21，2451，2001
メタネフリン２分画	永津　俊治：臨床化学 3，364，1975
卵胞刺激ホルモン（FSH）	宇津　貴央，他：医学と薬学　73(3)，311，2016
レニン活性（PRA）	萩原　俊男，他：医学と薬学　5(4)：589-594，1981

検査項目	参考文献
レニン定量（ARC）	土屋　ますみ，他：医学と薬学　32：529，1994
アルファベット	
ＡＣＴＨ（副腎皮質刺激ホルモン）	阿部　正樹，他：医学と薬学　57：239-244，2007
ＡＭＨ（抗ミュラー管ホルモン）	柳田　小百合，他：医学と薬学　72，1095-1101，2015
ＢＮＰ（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド）	蔦本　尚慶，他：医学と薬学　65(5)：657-661，2011
ＤＨＥＡ-Ｓ（デヒドロエピアンドロステロンサルフェート）	市原　清志：日本臨床検査自動化学会会誌　37(Suppl1)，36，2012
	増戸　梨恵，他：医学と薬学　56：443-448，2006
E_2（エストラジオール）　非妊婦	中村　悟，他：医学と薬学　40(3)：541-545，1998
Ｆｒｅｅ　T_3（遊離トリヨードサイロニン）	上條　桂一，他：医学と薬学　40(2)：387-394，1998
Ｆｒｅｅ　T_4（遊離サイロキシン）	上條　桂一，他：医学と薬学　40(2)：387-394，1998
ｈ-ＡＮＰ（ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド）	下迫　賢一，他：医学と薬学　57：901-906，2007
ＨＣＧ 定性　尿	金井　正光　編集：臨床検査法提要　32：220-221，2005
ＨＣＧ-βサブユニット定量	尾森　春艶，他：核医学 29：709-716，1992
ＨＣＧ定量（ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量）	Blackburn, G.F, et al：Clin.Chem.　37(9)，1534-1539，1991
ＨＶＡ定量（ホモバニリン酸）　血漿	Gironi A, et al：Clin.Chem.　34(12)：2504-2506，1988
ＨＶＡ定量（ホモバニリン酸）　尿	Rosano,T.G.et al.：Clin.Chem.　27，228，1981
ＩＣＡ（抗ランゲルハンス氏島抗体）	Dotta F,Mario UD,Antigenic determinants in type 1 diabetes mellitus.APMLS 1996：104：769-74
ＮＴ-ｐｒｏＢＮＰ	堀井　隆，他：医学と薬学　61(5)：761-767，2009
ＮＴｘ（Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド）血清	吉村　典子，他：Osteoporosis Jpn. 10，171，2002
ＮＴｘ（Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド）尿	Hanson, D.A, et al：J.Bone Miner. Res. 7，1251，1992
ＰＴＨ-Intact	山岡　美穂，他：医学と薬学　46(5)：753-758，2001
ＰＴＨｒＰ（副甲状腺ホルモン関連蛋白）	福本　誠二，他：ホルモンと臨床　40：1309，1992
T_3（トリヨードサイロニン）	上條　桂一，他：医学と薬学　40(2)：387-394，1998
T_4（サイロキシン）	上條　桂一，他：医学と薬学　40(2)：387-394，1998
ＴＢＧ（サイロキシン結合グロブリン）	伴　良男，他：ホルモンと臨床　27：1287-1291，1979
ＴＲＡＣＰ－５ｂ	西沢　良記，他：医学と薬学　54：709-717，2005
ＴＳＨ（甲状腺刺激ホルモン）	佐藤　幸男，他：医学と薬学　45(1)：147-154，2001
ＴＳＨ刺激性レセプター抗体（TSAb、甲状腺刺激抗体）	上條　桂一，他：医学と薬学　71 (5)：903，2014
ＴＳＨレセプター抗体（TRAb）	吉村　弘，他：医学と薬学　59 (6)：p.1111-1120，2008
ＴＳＨレセプター抗体定量（RRA）	小森　明日香，他：医学と薬学　46：563-570，2001
ＴＳＨレセプター抗体定量（ECLIA）	吉村　弘，他：医学と薬学　59：1111-1120，2008
ｔｏｔａｌ　ＰＩＮＰ（Ⅰ型プロコラーゲン -N- プロペプチド）	日高　好博：医学と薬学　70 (2)：357-365，2013
ＶＭＡ定量（バニリルマンデル酸）　血漿	Alferdo Gironi,et al：Clin.Chem.　34(12)：2504-2506，1988
ＶＭＡ定量（バニリルマンデル酸）　尿	Flood,J.G.et al.：Clin.Chem.　25：1234．1979
数　字	
5- ＨＩＡＡ（5- ハイドロキシインドール酢酸）　血漿	小島　司，他：臨床化学　21(2)：119-126，1992
5- ＨＩＡＡ（5- ハイドロキシインドール酢酸）　尿	Rosano,T.G.et al：Clin.Chem.　28，207，1982
11- ＯＨＣＳ	宇田川　美佐子，他：臨床化学　5(3)：321-325，1977
17- ＫＳ　７分画	Suzuki,T.et al：Endocrine J.　50，571，2003

免疫血清学的検査

検査項目	参考文献
アスペルギルス抗原	堀口　祐司：感染症学雑誌　78，566-573，2004
アスペルギルス抗体	Walter, J. S. et al.：Dis. Chest 53，729，1968
アデノウイルス　　NT 法	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学（改訂２版）総論：260-274，1973
アデノウイルス　　CF 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウィルス実験学各論（改訂２版）133-135，1982
アデノウイルス抗原　　ICA 法	小島　禎，他：JARMAM 11、93-98，2000
アトピー鑑別試験	我妻　義則，他：医学と薬学　23：83-88，1990
インスリン（IRI）	前畑　英介，他：医学と薬学　44：1069-1079，2000
インスリン抗体	村山　寛，他：医学と薬学　60：289-297，2008
インフルエンザウイルス　　CF 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第３版　第１分冊，31-42，1987
インフルエンザウイルス　　HI 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウイルス実験学各論（改訂２版）133-135，1982
ウイルス分離・同定	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook：3-20，1973

検査項目	参考文献
エコーウイルス　NT 法	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学（改訂 2 版）総論：260-274，1973
エコーウイルス　HI 法	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学（改訂 2 版）総論：214，1973
エンテロウイルス	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学（改訂 2 版）総論：260-274，1973
エンドトキシン定量	石原　美弥子，他：検査と技術　30：739，2003
オウム病抗体（クラミドフィラ・シッタシ抗体）	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第 2 版）：73，1978
オリゴクローナルバンド	中島　一郎：Animus 8：38，2003
肝細胞増殖因子（HGF）	二井谷　好行，他：臨床検査　35(13)：1360-1364，1991
カンジダ抗原	小笠原　仁，他：機器・試薬　10：1183，1987
間接クームス	富田　忠夫，他：日臨技　輸血検査標準法：26-27，1990
寒冷凝集反応	稲井　真彌：免疫化学　1：393-402，1980
クラミジアトラコマチス核酸同定	村上　信乃，他：医学と薬学　31(2)：329-333，1994
クラミジアトラコマチス抗体	梶原　祥子，他：医学と薬学　37：711-716，1997
クラミドフィラニューモニエ抗体　IgG.IgA	鎌田　貢壽，他：医学と薬学　45，923-928，2001
クラミドフィラニューモニエ抗体　IgM	宮下　修行，他：小児科診療　71，95-99，2008
クリオグロブリン定性	Okazaki,T.et al.：Clin.Chem.　47，1558，1998
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	篠田　孝子，他：日本医真菌学会雑誌　30：211-221，1989
クロストリジウムディフィシル抗原	CEPO8054-Evaluation report:NHS Purchasing and Supply Agency:2009
頸管腟分泌液中癌胎児性フィブロネクチン	一條　元彦，他：産婦人科治療　67：212-218，1993
血液型　ABO 式・Rh（D）式	日臨技輸血検査標準法改訂委員会：輸血検査の実際　改訂第 3 版：15-23，2003
血液型　Rh-Hr 式	山崎　順啓：Med.Technol.　11，631，1983
血液型不適合妊娠	浮田　昌彦：周産期医学　18（臨増），119-125，1988
血小板関連 IgG（PAIgG）	倉田　義之，他：臨床検査　32，641，1988
血清アミロイド A 蛋白（SAA）	香坂　隆夫，他：臨床検査　32，641，1988
血清補体価（CH50）	稲井　真彌，安田　令子：日本臨牀　42（春季臨増），1232，1984
抗 ARS 抗体	吉藤　元：医学のあゆみ　239(1)，71，2011
抗 BP180 抗体	吉田　かおり，他：医学と薬学　70：989-1000，2013
抗 CCP 抗体	林　伸英，他：医学と薬学　64：767-777，2010
抗 DNA 抗体　RIA 法	宮脇　昌二，他：日臨免疫会誌　17，164，1994
抗 ds-DNA 抗体　IgG	西山　進，他：医学と薬学　69(4)：689-698，2013
抗 Jo-1 抗体　オクタロニー法	西海　正彦：臨床検査機器・試薬　13(4)：835-838，1990
抗 Jo-1 抗体　CLEIA 法	松下　雅和，他：医学と薬学　70(1)：109，2013
抗 RNP 抗体　CLEIA 法	西山　進，他：医学と薬学　68(2)：345，2012
抗 RNP 抗体　オクタロニー法	石川　英一，竹内　裕子：臨床免疫　17：221，1985
抗 Scl-70 抗体　CLEIA 法	小島　和夫，他：医学と薬学　69(4)：677-687，2013
抗 Scl-70 抗体　オクタロニー法	Douvas S.A.,et al：J.Biol.Chem. 254(20)：10514-10522，1979
抗 Sm 抗体　CLEIA 法	西山　進，他：医学と薬学　68(2)：345，2012
抗 Sm 抗体　オクタロニー法	石川　英一，竹内　裕子：臨床免疫　17：221，1985
抗 ss-A/Ro 抗体　CLEIA 法	西山　進，他：医学と薬学　68(2)：345，2012
抗 ss-A/Ro 抗体　オクタロニー法	宮脇　昌二，小豆沢　秀夫：臨床免疫　14：127，1982
抗 ss-B/La 抗体　CLEIA 法	西山　進，他：医学と薬学　68(2)：345，2012
抗 ss-B/La 抗体　オクタロニー法	宮脇　昌二，小豆沢　秀夫：臨床免疫　14：127，1982
抗 ss-DNA 抗体　IgG	西山　進，他：医学と薬学　69(4)：689-698，2013
抗アクアポリン 4 抗体	高橋　利幸，他：医学と薬学　73(10)，1297，2016
	「多発性硬化症治療ガイドライン」作成委員会：多発性硬化症治療ガイドライン 2010，2010
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗 AChR 抗体）	太田　光熙，他：ホルモンと臨床　48(1)：89-93，2000
抗アニサキス IgG・A 抗体	安土　孝則，他：臨床検査機器・試薬　15(1)：68-72，1992
抗胃壁細胞抗体	Jeffries. G.H. et al.：J.Clin.Invest. 44：2021，1965
抗核抗体（ANA）	柴崎　光衛，他：医学と薬学　36，319，1996
抗核抗体（LE テスト）	宮脇　昌二：Medical Technology　18：574-577，1990
抗ガラクトース欠損 IgG 抗体	山田　雄二，他：基礎と臨床　31：81，1997
抗カルジオリピン・β_2 グリコプロテインⅠ複合体抗体	小池　隆夫，他：医学と薬学　26，535，1991
抗カルジオリピン IgG 抗体	岡田　純，他：医学と薬学　36，1389，1996
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗 MuSK 抗体）	木村　政勝，他：医学と薬学　70(2)，421，2013

資　料

検査項目	参考文献
抗血小板抗体	坂本　久浩：Medical Technology　11：724，1983
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗 TPO 抗体）	森田　新二，他：医学と薬学　55：775-782，2006
抗好中球細胞質抗体	平田　寛之，他：医学と薬学　66(6)，1099，2011
	宮原　涼馬，他：医学と薬学　73(1)，91，2016
抗サイログロブリン抗体（サイロイドテスト）	峯尾　真澄，他：医学と薬学　68(6)，1013，2012
抗サイログロブリン抗体（抗 Tg 抗体）	森田　新二，他：医学と薬学　55：775-782，2006
抗糸球体基底膜抗体（抗 GBM 抗体）	平田　寛之，他：医学と薬学　66，1099-1108，2011
抗精子不動化抗体	香山　浩二，他：日本産婦人科学会雑誌　42(11)：N209-N212，1990
抗セントロメア抗体	小島　和夫，他：医学と薬学　69(4)，677，2013
抗デスモグレイン 1 抗体	吉田　かおり，他：医学と薬学　70，989-1000，2013
抗デスモグレイン 3 抗体	吉田　かおり，他：医学と薬学　70，989-1000，2013
抗平滑筋抗体（SMA）	長島　秀夫，他：日本臨牀　42（春季臨増），1430，1984
抗マイクロゾーム抗体	桜美　武彦，他：臨床免疫，12，743，1980
抗ミトコンドリア抗体（AMA）	長島　秀夫，小出　典男：日本臨牀　42(春季臨増)，1416，1984
コクサッキーウイルス　CF 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第 3 版　第 1 分冊，31，1987
コクサッキーウイルス　NT 法	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学（改訂 2 版）総論：260-274，1973
サイトメガロウイルス（CMV）CF 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウイルス実験学各論（改訂 2 版）133-135，1982
サイトメガロウイルス（CMV）IgG・IgM　EIA 法	熊田　洋高，他：医学と薬学　72(6)，1087，2015
サイログロブリン（Tg）	才木　康彦，他：医学と薬学　48：897，2002
シスタチン C	伊藤　喜久，他：臨床化学　41(1)，62，2012
心筋トロポニン T（TnT）	戸田　圭三，他：医学と薬学　62：331-340，2009
心室筋ミオシン軽鎖 I	宮崎　修一，他：医学と薬学　52：443，2004
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）　CF 法	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学（2 版）総論，226，1973
	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第 3 版）第 1 分冊，31，1987
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）　IgG　EIA 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第 3 版）第 1 分冊，48，1987
水痘・帯状ヘルペスウイルス（VZV）　IgM　EIA 法	平野　勝，他：医学と薬学　42，641-645，1999
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	佐多　徹太郎，他：日本臨床　47，356-360，1989
セルロプラスミン	飯村　康夫，他：日本臨床　42（春季臨時）：1209，1984
染色体　先天異常染色体 G-Banding	
染色体　先天異常染色体 C-Banding	
染色体　先天異常染色体 Q-Banding	福島　義光，井上　信男：臨床検査　28，759，1984 寺島　寛：病理形態検査（臨床検査技術全書 8）,p.456，医学書院，東京，1978
染色体　先天異常染色体高精度分染法	
染色体　血液疾患染色体 G-Banding	
単純ヘルペスウイルス（HSV）　CF 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウィルス実験学各論（改訂 2 版）133-135，1982
単純ヘルペスウイルス（HSV）　NT 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウイルス実験学各論（改訂 2 版）52，72-73，132-139，1982
単純ヘルペスウイルス（HSV）　IgG　EIA 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第 3 版　第 1 分冊：48-61，1987
単純ヘルペスウイルス（HSV）　IgM　EIA 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第 3 版　第 1 分冊：48-61，1987
単純ヘルペスウイルス特異抗原	Espy,M.J.,et al：J.Clin.Microbiol.　26：22，1988
直接クームス	富田　忠夫，他：日臨技　輸血検査標準法：50-51，1990
ツツガ虫病抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12：270，1984
トキソプラズマ抗体	Boscato LM, Stuart MC, Heterophilicantibodies : a problem for all immunoassays. Clin Chem, 34（1）: 27-33，1988
特異的 IgE　CAP シングルアレルゲン	松村　典子，他：医学検査　40：1585-1590，1991
特異的 IgE　CAP マルチアレルゲン	松村　典子，他：医学検査　40：1585-1590，1991
特異的 IgE　MAST36	澤崎　健：アレルギーの臨床　34，573-580，2014
特異的 IgE　View アレルギー 39	鈴木　義徳，他：臨床病理　60（7）：621，2012
トランスフェリン（Tf）	斎藤　憲祐，臨床病理　臨時増刊特集 101 号：38-47，1996
日本脳炎ウイルス　CF 法	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第 3 版　第 1 分冊：31，1987
日本脳炎ウイルス　HI 法	国立予防衛生研究所学友会編：ウイルス実験学各論（改訂 2 版）：133-135，1982（丸善、東京）
尿素呼気試験	Ohara,S.et al：Hericobacter 3：49，1998
尿中Ⅳ型コラーゲン	東野　勲，他：Lab.Clin.Pract.　19：8，2001
尿中免疫電気泳動（尿中 BJP 同定）	長縄　謹子：検査と技術　12，401，1984
ノロウイルス抗原	田中　智之，他：医学と薬学　68(6)：1033-1039，2012
梅毒　FTA-ABS 法	厚生省監修：微生物検査必携　細菌真菌検査（第 3 版），H-83，1987

検 査 項 目	参 考 文 献
梅毒　RPR 法	福岡　良男，他：血清学（衛生検査技術講座），240，1970
梅毒　TPHA 法	中野　学，他：医学と薬学　32(5)：1037-1043，1994
破傷風抗体	GerenPJ et al.：The NewEngland Journal of Medicine 332，761-766，1995
ハプトグロビン（型なし）	斎藤　憲祐：臨床病理　臨時増刊特集 101 号：38-47，1996
ハプトグロビン（型あり）	河合　忠，他：臨床病理　44(5)：429-434，1996
パラインフルエンザウイルス	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学（2 版）総論：214，1973
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	奥田　優子，他：日本臨床検査自動化学会会誌　35(3)：283-289，2010
ヒトパルボウイルス B19DNA（HPV/B19-DNA）	布上　董：臨床検査　37，164，1993
ヒトパルボウイルス B19 抗体	要藤　裕孝，他：感染症学雑誌　69，1135，1995
百日咳菌抗体　EIA 法	岡田　賢司：医学と薬学　65(4)：531-536，2011
風疹ウイルス　HI 法	植田　浩司，他：臨床検査，19，1269，1975
風疹ウイルス　IgG　EIA 法	杉下　知子，他：医学と薬学　28：914-918，1993
風疹ウイルス　IgM　EIA 法	佐藤　俊則，他：臨床とウイルス　23：44-47，1995
フェリチン（CLIA 法）	藤田　雄一，他：医学と薬学　40(4)：753-757，1998
不規則抗体	押野　正次，他：臨床検査機器・試薬　17：423-432，1994
ブルセラ凝集反応	Carmichael L.E.,et al：J.Am.Vet.Med.Assoc.，152：605，1968
プレアルブミン	河合　忠，他：臨床病理　44(5)，429，1996
プロカルシトニン（ＰＣＴ）	齋藤　大輔，他：医学と薬学　62(2)，323，2009
ヘリコバクター・ピロリ抗体	井上　和彦，他：医学と薬学　72，331，2015
ベンズジョーンズ蛋白（BJP）定性	金井　泉：臨床検査法提要 30：115-117，1993
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	福田　能啓，他：医学と薬学　52：261-266，2004
マイコプラズマ抗体（マイコプラズマ・ニューモニエ抗体）CF 法	富山　哲雄：臨床検査　19：1240，1975
マイコプラズマ抗体（マイコプラズマ・ニューモニエ抗体）PA 法	水越　幹雄，他：臨床病理　24，補冊，474，1976
麻疹ウイルス　　HI 法	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学（改訂 2 版）総論：214，1973
麻疹ウイルス　　EIA 法	庵原　俊昭，他：医学と薬学　69，969-975，2013
マトリックスメタロプロティナーゼー 3（MMP-3）	氏家　真二，他：医学と薬学　51，503，2004
ミオグロビン（Mb）血清	福岡　達仁，他：医学と薬学　63：651-657，2010
ミオグロビン（Mb）尿	吉川　文雄，他：医学と薬学　37(5)：1243-1253，1997
ムンプスウイルス　　CF 法	厚生省監修：微生物検査必携ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第 3 版）第 1 分冊：31，1987
ムンプスウイルス　　HI 法	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学（2 版）総論：214，1973
ムンプスウイルス　　IgG　　EIA 法	中山　哲夫：医学と薬学　42：303-306，1999
ムンプスウイルス　　IgM　　EIA 法	内田　立志，他：川崎医学会誌　35：139-145，2009
免疫電気泳動	Richie,R.F.et al.：Chem.　22，497，1976
	広瀬　美子，他：臨床検査機器・試薬　16，253，1993
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	網野　信行，他：細胞性免疫機能検査のすべて，p.102，医歯薬出版，東京，1985
薬剤によるリンパ球刺激試験（D-LST）	北見　啓之，他：臨床免疫　15：727-736，1983
リンパ球混合培養（MCL）	金井　正光（編著）：臨床検査法提要（改訂第 31 版），p.966，金原出版，東京，1998
リンパ球幼若化試験	大野　竜三，三島　秀人：免疫実験操作法 B，ｐ.1417，日本免疫学会（編），1976
レチノール結合蛋白（RBP）	三浦　信樹，他：臨床病理　57(3)，195，2009
アルファベット	
ＡＣＥ（アンギオテンシンⅠ転換酵素）	Kasahara Y. et al：Clin.Chem. 27：1922-1925，1981
ＡＳＫ	土屋　彦治，他：臨床検査機器・試薬　7(2)：417-422，1984
ＡＳＯ	望月　照次，他：検査と技術　29(6)：525-530，2001
Ｂ細胞サブクラス（表面免疫グロブリン）	田沢　裕光，他：臨床病理　33，426，1985
Ｃ - ペプタイド（CPR）	武田　裕子，他：医学と薬学　53：249-256，2005
C_3	池田　紀之：検査と技術　12：510-514，1984
C_4	池田　紀之：検査と技術　12：510-514，1984
ＣＲＰ定量	水野　洋子，他：臨床検査機器・試薬　21(6)：589-594，1998
ＥＢウイルス（ＥＢＶ）　抗 IgG･IgM	矢部　茂季，他：新薬と臨牀　43，351-358，1994
ＥＢウイルス（ＥＢＶ）　抗 EA-DR	日沼　頼夫，他：臨床病理（特 35），179-189，1978
ＥＢウイルス（ＥＢＶ）　抗 EBNA	日沼　頼夫，他：臨床病理（特 35），179-189，1978
ＥＢウイルス（ＥＢＶ）　抗 VCA	日沼　頼夫，他：臨床病理（特 35），179-189，1978
ＨＡ - ＩｇＧ抗体	矢野　公士，他：医学と薬学　58：151-161，2007

検査項目	参考文献
ＨＡ－ＩｇＭ抗体	矢野　公士，他：医学と薬学　58：151-161，2007
ＨＢｃ抗体	飯田　健一，他：Prog.Med.　22(4)：1037-1046，2002
ＨＢｅ抗原	中尾　溜美子，他：Prog.Med.　24，2839，2004
ＨＢｅ抗体	中尾　溜美子，他：Prog.Med.　24，2839，2004
ＨＢｓ抗原　精密	吉岡　範，他：医学と薬学　63(5)：789-795，2010
ＨＢｓ抗原定性　ICA 法	飯野　四郎：Medical Practice　5(4)：530-543，1988
ＨＢｓ抗体　精密	藤原　拓樹，他：医学と薬学　42(4)：623-627，1999
ＨＢｓ抗体　PHA	吉村英理子，他：基礎と臨床　29：4545-4550，1995
ＨＢｓ抗体定性　ICA 法	飯野　四郎：Medical Practice　5(4)：530-543，1988
ＨＢＶ遺伝子型（EIA）	田中　靖人，他：臨床病理　57(1)：42-47，2009
ＨＢＶ－ＤＮＡ定量（Taq Man-PCR 法）	菅原　昌章，他：医学と薬学　73(10)，1329，2016
ＨＣＶ－ＲＮＡ定量（TaqMan-PCR 法）	狩野　吉康，他：医学と薬学　58，137-149，2007
ＨＣＶ群別（ＨCV グルーピング）	長谷川　瞳，他：医学と薬学　70，633-641，2013
ＨＣＶコア抗原	熊田　博光，他：消化器科　45(4)，454，2007
ＨＣＶ抗体	出口　松夫，他：医学と薬学　62(3)，417-425，2009
ＨＣＶサブタイプ系統解析	P. Simmonds, et al.：Journal of General Virology　77：3013，1996
ＨＩＴ抗体	阪田　敏幸：医学と薬学　68(3)，547，2012
	宮田　茂樹：日本検査血液学会雑誌　12(1)，60，2011
ＨＩＶ抗原・抗体	鍵田　正智，他：医学と薬学　64(3)，435-442，2010
ＨＩＶ-1 抗体　ウエスタンブロット法	Garo, R. et al：New Engl. J. Med.　312，265，1985
ＨＩＶ1-ＲＮＡ定量（TaqMan-PCR 法）	目崎　和久，他：医学と薬学　73(6)，705，2016
ＨＬＡタイピング	吉川　枝里，他：MHC 10，21，2003
ＨＴＬＶ－Ⅰ抗体（ATLA）（CLIA 法）	出口　松夫，他：医学と薬学　66(6)，1053，2011
	有馬　直道，他：医学と薬学　65(5)，651，2011
ＨＴＬＶ－Ⅰ抗体（ATLA）　PA 法	宮本　寛治：医学と薬学　23：351-353，1990
ＨＴＬＶ－Ⅰ抗体　ラインブロット法	Zrein M, et al.：Clin Diagn Lab Immunol.　5(1)，45，1998
	Umeki K, et al.：Clin Lab.　63(2)，227，2017
ＩｇＡ	金井　泉：臨床検査法提要　30：868-873，1993
ＩｇＥ（非特異的 IgE）	島津　伸一郎，他：アレルギーの領域　2(7)：920-925，1995
ＩｇＧ	金井　泉：臨床検査法提要　30：868-873，1993
ＩｇＭ	金井　泉：臨床検査法提要　30：868-873，1993
ＩｇＭ－ＨＢｃ抗体	中尾　瑠美子，他：医学と薬学　52，847-858，2004
ＮＫ細胞活性	原田　弘智，他：臨床検査　28：72，1984
Ｐ-Ⅲ-Ｐ（プロコラーゲンⅢペプタイド）	上野　隆登，他：医学と薬学　24，675，1990
ＲＦ定量	三浦　裕，他：臨床検査機器・試薬　19(6)：893-898，1996
ＲＳウイルス　CF 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウイルス実験学各論（改訂２版）133-135，1982
ＲＳウイルス　NT 法	国立予防衛生研究所学友会（編）：ウイルス実験学各論（改訂２版）132-139，1982
ＴＡＲＣ	玉置　邦彦，他：日本皮膚科学会雑誌　116，27-39，2006
Ｔ．Ｂ細胞百分率	松元　康治，他：臨床免疫　16，862，1984
	網野　信行，他：細胞性免疫機能検査のすべて，p.102，医歯薬出版，東京，1985
Ｔｗｏ－ｃｏｌｏｒ解析によるリンパ球表面マーカー検査	坂東　史郎，他：臨床病理　35，631，1987
	高橋　英則，吉田　象二：検査と技術　16，17，1988
α_1-アンチトリプシン（α_1-AT）	斎藤　憲祐：臨床病理（特 101），38-47，1996
α_1-マイクログロブリン（α_1-m）	徳山　昌司郎：医学と薬学　39(4)，835，1998
	伊藤　喜久：検査と技術　16(7)，658，1988
	伊藤　喜久：臨床検査　32(8)，863，1988
α_2-マクログロブリン（α_2-M）	飯村　康夫，他：日本臨牀　42（春季臨増），1209，1984
β_2-マイクログロブリン（BMG）	野月　満，他：医学と薬学　12：117，1984
数　字	
（1→3）－β-D グルカン	吉田　耕一郎，他：医学と薬学　67，895，2012
	大林　民典：臨床病理　44，528，1996
Ⅳ型コラーゲン・7S	長田　篤雄，他：医学と薬学　20(6)：1507-1515，1988

検査項目	参考文献

腫瘍関連検査

可溶性 IL-2 受容体（可溶性インターロイキン 2 レセプター）	伏見　美津恵，他：医学と薬学　73(7)，875，2016
	古川　亜紀，他：医療と検査機器・試薬　39(3)，263，2016
抗 p53 抗体	橋本　礼輔，他：医学と薬学　75，955-964，2018
高感度 PSA	Witherspoon, L. R. and Lapeyrolerie, T.：J. Urol. 157，1322，1997
サイトケラチン 19 フラグメント（シフラ）	平川　寛一郎：臨床検査機器・試薬，21：289，1998
シアリル Le^{X}-i 抗原（SLX）	井村　裕夫，他：癌と化学療法　14：1322，1987
シアリル Tn 抗原（STN）	井村　裕夫，他：癌と化学療法　16：3213，1989
神経特異エノラーゼ（NSE）	辻岡　設子，他：医学と薬学　13：359，1985
前立腺特異抗原（PSA）	新井　京子，他：医学と薬学　37(4)，1029-1037，1997
チミジンキナーゼ活性（TK 活性）	鳥住　和民，他：核医学　25(6)：561-567，1988
尿中核マトリックスプロテイン 22（NMP22）	坪井　五三美，他：医学と薬学　43：397-400，2000
メソテリン	中町　衛他：医学と薬学　65(2)：261-267，2011
アルファベット	
ＡＦＰレクチン分画比	Shimizu.K.,et al：Clin Chem.Acta　214：3，1993
ＢＣＡ 225	小林　美耶子，他：医学と薬学　72：1249-1259，2015
ＢＦＰ（塩基性フェトプロテイン）	石井　勝，他：癌と化療　15，2107，1988
ＣＡ 125	新井　智子，他：医学と薬学　40(4)：759-766，1998
ＣＡ 15-3	梅木　尚子，他：日臨検自動化会誌　26，143，2001
ＣＡ 19-9	藤田　雄一，他：医学と薬学　40(3)：531-539，1998
ＣＡ 72-4	青山　昭，他：医学と薬学　49：127-135，2003
ＣＥＡ（癌胎児性抗原）	藤田　雄一，他：医学と薬学　40(3)：531-539，1998
ＤＵＰＡＮ-2	竹森　康弘，他：癌と化療　14：119，1987
ＨＥ 4（ヒト精巣上体蛋白 4）	木村　英三：産婦人科の実際　64(8)，1055，2015
ＮＣＣ-ＳＴ-439	大倉　久直，他：癌と化学療法　14，1901，1987
ＰＡＰ（前立腺酸性フォスファターゼ）	地曳　和子，他：ホルモンと臨床　29：1547，1981
ＰＩＶＫＡⅡ［腫瘍］	高津　和子，他：臨牀と研究　73，2656，1996
ＰｒｏＧＲＰ（ガストリン放出ペプチド前駆体）	宮越　静代，他：医学と薬学　63：809，2010
	Yoshimura T. et al.：Tumor Biol.　29：224，2008
ＳＣＣ抗原（扁平上皮癌関連抗原）	高木　康，他：医学と薬学　52：413，2004
ＳＰａｎ-1	梅山　馨，他：膵臓　3：528，1988
ＴＰＡ（組織ポリペプタイド抗原）	吉川　文雄，他：医学と薬学　34(4)：749-757，1995
α-フェトプロテイン（AFP）定量	藤田　雄一，他：医学と薬学　40(3)：531-539，1998
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	佐藤　達郎，他：医学と薬学　43(1)：97-106，2000
数　字	
Ⅰ型コラーゲンＣテロペプチド（ⅠCTP）	清原　剛，他：ホルモンと臨床　42：1189-1193，1994

血液学的検査

アンチトロンビン活性（AT 活性）	小谷　毅，他：JJCLA 21：285-290，1996
アンチプラスミン活性（プラスミンインヒビター）	小谷　毅，他：JJCLA 21：285-290，1996
可溶性フィブリンモノマー複合体定性	細田　雅子，他：日本検査血液学会雑誌　10，202-210，2009
凝固因子活性（第Ⅱ，Ⅴ，Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ，Ⅹ，Ⅺ，Ⅻ因子）	安達　眞二：Medical Technology 24：629-633，1996
凝固因子定量（第XIII因子）	Fikenscher.K.et al.：Thromb.Haemost.　65，535，1991
凝固抑制因子（第Ⅷ因子インヒビター）	高松　純樹：日本臨牀　57：604, 1999
凝固抑制因子（第Ⅸ因子インヒビター）	日笠　聡：日本臨牀　57：611, 1999
血液一般検査	検査法提要　31：264-286，1998
血液像（白血球分類）	金井　泉：臨床検査法提要 31：286-329，1998
血小板数（Plt）	金井　泉：臨床検査法提要　31：264-286，1998
血小板第 4 因子（PF4）	高橋　芳右，他：血液と脈管　18(4)：326-335，1987
原虫検査	金井　泉：臨床検査法提要　30：204-208，1993
好酸球数	金井　泉：臨床検査法提要　31：286-329，1998

検査項目	参考文献
トロンボモジュリン	天野　景裕，他：臨床病理　39，967，1991
鼻汁好酸球	奥田　稔：臨床検査　29(3)：267-272，1985
フィブリノゲン	多附　勝利：Sysmex Journal 10(1)：18-33，1987
フィラリア原虫	金井　泉：臨床検査法提要 30：366-367，1993
フォン・ウィルブランド因子活性（リストセチンコファクター）	杉原　卓朗：機器・試薬 6：321，1983
フォン・ウィルブランド因子定量（第Ⅷ因子様抗原）	Peltier, J. Y. et al：Proceeding of ⅩⅥ th Congress of the ISTH, 513，1997
プラスミノゲン活性	小谷　毅，他：JJCLA 21，285-290，1996
プロテイン C 活性	高橋　芳右，他：血液と脈管　18(6)：548-556，1987
プロテイン C 抗原量	有村　国明，他：臨床検査機器・試薬　15，159-165，1992
プロテイン S 活性	鬼沢　実，他：臨床検査機器・試薬　15(2)：166-171，1992
プロテイン S 抗原（遊離型）	阪田　敏幸，他：医学と薬学　51，167-172，2004
プロテイン S 抗原量	鬼沢　実，他：臨床検査機器・試薬　13(4)：579-583，1990
プロトロンビン値（PT）	多附　勝利，他：Sysmex Journal 10(1)：18-33，1987
プロトロンビンフラグメント F1＋2	Eidam A et al：Journal of Thrombosis and Haemostasis　3(Suppls1)：P0099，2005
ヘパプラスチンテスト	坂井　正治，他：Sysmex Journal 9(2)：135-140，1986
マラリア原虫	金井　泉：臨床検査法提要 30：363-366，1993
網状赤血球数	金井　泉：臨床検査法提要　31：277-280，1998
ループスアンチコアグラント	佐藤　久美子，他：臨床病理　43(3)：263-268，1995
アルファベット	
ＡＬＰ染色	小池　正，他：Med.Technol.　別冊　染色法のすべて，207，1988
ＡＰＴＴ（活性化部分トロンボプラスチン時間）	多附　勝利，他：Sysmex Journal 10(1)：18-33，1987
C_1 インアクチベーター（C_1-INH）活性	Dick W.et al：Immun Infekt　13：113-118，1985
Ｄダイマー	国分　まさ子，他：医学検査　44：11-17，1995
ＦＤＰ定量	藤巻　道男，他：血液凝固検査ハンドブック（第 2 版），329，1992
ＰＩＣ（α_2 プラスミンインヒビター・プラスミン複合体）	徐　吉夫，他：臨床検査機器・試薬　16，1107，1993
ＴＡＴ（トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体）	木村　真波，他：機器・試薬　33，525，2010
β - トロンボグロブリン（β -TG）	高橋　芳右，他：血液と脈管　18(4)：326-335，1987

一般検査

関節液一般検査	金井　泉：臨床検査法提要　30：218-221，1993
髄液一般検査	金井　泉：臨床検査法提要　30：221-248，1993
髄液クロール	金井　泉：臨床検査法提要　31：243，1998
髄液蛋白定量	中川　宣広，他：生物試料分析　8(4)：47-55，1986
髄液糖定量	金井　泉：臨床検査法提要　30：242・528-537，1993
精液検査	岩動　孝一郎：検査と技術　18(6)：667-674，1990　増刊号
穿刺液一般検査	金井　泉：臨床検査法提要　30：209-218，1993
穿刺液蛋白定量	中川　宣広，他：生物試料分析　8(4)：47-55，1986
穿刺液糖定量	金井　泉：臨床検査法提要　30：213・528-537，1993
尿一般定性	金井　泉：臨床検査法提要 30：102-105，1993
尿一般定性［比重］	金井　泉：臨床検査法提要 30：99-101，1993
尿蛋白定量	金子　良孝，他：臨床検査機器・試薬，9：235-238，1986
尿沈渣	日本臨床衛生検査技師会編：尿沈渣検査法：1992
尿糖定量	金井　泉：臨床検査法提要 30：117-121・528-537，1993
便虫卵	金井　泉：臨床検査法提要 30：192-208，1993
便中ヘモグロビン　　LA 法	北篠　慶一：臨床検査　36(5)：495-501，1992

検 査 項 目	参 考 文 献

微生物学的検査

一般細菌　簡易培養	Holt J.G.,et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology：1，1984
一般細菌　嫌気性培養	Holt J.G.,et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology：1，1984
一般細菌　培養・同定	Holt J.G.,et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology：1，1984
一般細菌　薬剤感受性検査	CLSI：Performance Standards for Anitimicrobial Disk Susceptibility Tests;Approved Standard Seventh Edition（M2-A7）
結核菌核酸同定検査（MTB）	青木　正和，他：結核　69(10)：593-605，1994
抗酸菌塗抹鏡検	日本結核病学会　抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016，33-38
抗酸菌分離培養	日本結核病学会　抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016，39-45
抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核病学会　抗酸菌検査法検討委員会編：抗酸菌検査ガイド 2016
真菌塗抹鏡検	Holt J.G.,et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology：1，1984
真菌培養同定	Holt J.G.,et al：Bergey's Manual of Systematic Bacteriology：1，1984
非定型抗酸菌核酸同定（MAC）	青木　正和，他：結核　67(10)：593-605，1994
ペロトキシン検出	Yoshikawa H.,et al：Jpn.J.Cancer Res. 82：524-531，1991
アルファベット	
Ｔ－ＳＰＯＴ．ＴＢ（インターフェロンγ遊離試験）	原田　登之，他：モダンメディア　54(5)：148-153，2008

病理・細胞診検査

細胞診標本作成・診断	矢谷　隆一，他：細胞診を学ぶ人のために，医学書院，1993
病理組織　組織特殊染色	水口　國雄，他：Medical Technology（別冊）　新 染色法のすべて，1999
病理組織　組織標本作成	渡辺　陽之輔，他：病理組織標本の作り方，2002
病理組織　組織免疫抗体染色	渡辺　慶一，他：改訂版　酵素抗体法，学際企画
婦人科細胞診	矢谷　隆一，他：細胞診を学ぶ人のために，医学書院，1993

遺伝子検査

ニューモシスチスカリニ　DNA	Kitada,K.et al：J.Clin.Microbiol. 29，1985，1991
ノロウイルス（SRSV）-RNA	武田　直和，他：臨床栄養　94：768，1999
百日咳菌核酸検出 /LAMP	Kamachi,K.et al.：J.Clin.Microbiol. 44，1899-1902，2006
マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	山口　恵三，他：医学と薬学　58(4)，565，2007
淋菌核酸同定	熊本　悦明，他：日本性感症学会誌　6(1)：62-71，1995
アルファベット	
ＨＰＶジェノタイプ判定	尾崎　聡，他：臨床病理　60(7)，621，2012
ＨＰＶ－ＤＮＡ同定	石　和久，他：医学と薬学　39，849，1998
ＨＴＬＶ-1 核酸同定	Miyazato,P.et al.：Journal of Virology. 80(21)，10683，2006
	築山　尚史，他：日本産科婦人科學會雑誌　65(2)，898，2013

採取容器の種類と採取上の注意点

A

内容	分離剤
採取量	9 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1 年

適用検査項目と採取上の注意点

生化学的検査一般
免疫血清学的検査一般
内分泌学的検査一般
ウイルス検査一般
その他

A－8

内容	血液凝固促進剤 分離剤
採取量	5 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1 年

適用検査項目と採取上の注意点

HBV-DNA定量（TaqMan-PCR）

- 血液5mlを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま凍結保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

D

内容	――――
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目

一般尿検査
生化学的検査

A－2

内容	――――
採取量	7 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	2 年

適用検査項目と採取上の注意点

血液型関連検査
不規則性抗体
クームス試験

- 室温保存し、当日中に速やかに出検してください。

A－9

内容	EDTA-2K
採取量	8 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1 年

適用検査項目と採取上の注意点

HIV-RNA定量（TaqMan-PCR）

- 血液8mlを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま冷蔵保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

D－2

内容	――――
採取量	――――
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目

ニューモシスチスカリニDNA
マイコプラズマニューモニエ
核酸同定

A－3

内容	凝固促進剤 （トロンビン等）
採取量	3 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1 年

適用検査項目と採取上の注意点

マンガン（Mn）
ニッケル（Ni）
アルミニウム（AL）

- 血液3mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存してください。

B

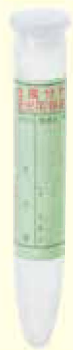
内容	EDTA-2K
採取量	2 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	2 年

適用検査項目と採取上の注意点

末梢血一般
網状赤血球数
血液像（白血球分類）
血液型ABO式、Rh（D）式

- 血液2mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存して当日中に出検してください。

D－3



内容	――――
採取量	――――
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目

銅（Cu）尿
水銀（Hg）尿
カドミウム（Cd）尿
マンガン（Mn）尿
亜鉛（Zn）尿

A－5

内容	分離剤
採取量	5 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1 年

適用検査項目と採取上の注意点

HCV-RNA定量（TaqMan-PCR）
HCVサブタイプ系統解析

- 血液5mLを採取し、室温で30～60分間放置後、遠心分離し、そのまま凍結保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

C

内容	フッ化Na ヘパリンNa EDTA-2K
採取量	2 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	2 年

適用検査項目と採取上の注意点

血糖（グルコース）
ヘモグロビンA1c（HbA1c）

- 血液2mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、そのまま冷蔵保存して当日中に出検してください。

D－4

内容	――――
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目

微生物検査
細胞診検査

採取容器の種類と採取上の注意点

E

- 内容　3.2％クエン酸Na0.2mL
- 採取量　1.8 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年（開封後1ヶ月）

適用検査項目と採取上の注意点

プロトロンビン値（PT）
APTT
フィブリノゲン
FDP定量
AT-Ⅲ

○血液1.8mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－2

- 内容　EDTA-2Na　アプロチニン
- 採取量　2mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年（開封後1週間）

適用検査項目と採取上の注意点

h-ANP
PTHrP

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－6

- 内容　アデノシン、クエン酸Na　ジピリダモール、クエン酸　テオフィリン
- 採取量　4.5 mL
- 容器の貯蔵方法　遮光･冷蔵
- 有効期間　1年5ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

β-トロンボグロブリン（β-TG）
血小板第4因子（PF4）

○検体の採取方法は105ページをご参照ください。

E－3

- 内容　アプロチニン、精製ゼラチン　デヒドロ酢酸ナトリウム
- 採取量　1 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年6ヶ月（開封後1ヶ月）

適用検査項目と採取上の注意点

FDP定量（尿）

F－3

- 内容　EDTA-2Na
- 採取量　2mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　2年

適用検査項目と採取上の注意点

BNP

○血液2mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－7

- 内容　EDTA-2K
- 採取量　2 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

シクロスポリン

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに凍結保存してください。

E－4

- 内容　3.2％クエン酸Na0.5mL
- 採取量　4.5mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年（開封後1ヶ月）

適用検査項目と採取上の注意点

ビタミンK分画

○血液4.5mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－4

- 内容　EDTA-2Na　アプロチニン
- 採取量　2 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年（開封後1週間）

適用検査項目と採取上の注意点

グルカゴン

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－8

- 内容　保存液
- 採取量　8.0mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

血小板関連IgG（PAIgG）

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、速やかに冷蔵保存して当日中に出検してください。
注）末梢血液の血小板数が3万/μL以下の場合は、2本採取し、2倍量の血液を提出してください。

F－1

- 内容　EDTA-2Na
- 採取量　5.5mL、7mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　2年

適用検査項目と採取上の注意点

ACTH
アルドステロン
レニン活性（PRA）
レニン定量（ARC）

○血液（必要量の約3倍）を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、血漿をW容器に移し替えて凍結保存してください。

F－5

- 内容　EDTA-2Na
- 採取量　5 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　2年

適用検査項目と採取上の注意点

タクロリムス
エベロリムス

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに冷蔵保存してください。

F－9

- 内容　EDTA-2Na
- 採取量　4 mL
- 容器の貯蔵方法　室温
- 有効期間　1年6ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

ビタミンB_1
ビタミンB_2

○血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに凍結保存してください。

採取容器の種類と採取上の注意点

G

内容　リンタングステン酸Na　リン酸　溶液4mL
採取量　1 mL
容器の貯蔵方法　冷蔵
有効期間　10ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

アンモニア

- 血液1mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに遠心分離し、上清をW容器に移し替えて凍結保存してください。

H－4

内容　ヘパリンNa
採取量　5 mL
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　2 年

適用検査項目と採取上の注意点

プロトポルフィリン
コプロポルフィリン

- 血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち冷蔵保存してください。

J－3

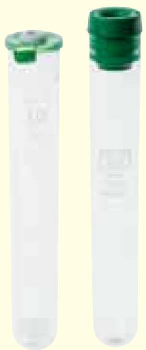
内容　インジケーター付寒天　CO_2ガス
容器の貯蔵方法　遮光室温
有効期間　2 年

適用検査項目と採取上の注意点

嫌気性菌培養

- 液状検体の場合（注射器による採取）容器のゴムキャップを外さないで、消毒用アルコール綿などを用いてゴムの部分を消毒し、注射針を穿き刺し、穿刺した検体を注入します。この時、できるだけ気泡を入れないように注意し、冷蔵保存してください。
- 固形状検体の場合（綿棒などによる採取）容器は立てたまま、注意深くゴムキャップを外し、速やかに検体を入れてください。検体を入れたあと直ちにゴムキャップにて栓をして冷蔵保存してください（操作時間が短いほど信頼性も高くなります）。

H－1



内容　ヘパリンNa
採取量　10 mL
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1年5ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

リンパ球混合培養
T-SPOT.TB

- 血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち速やかに冷蔵保存してください。
- 全血の項目については、そのまま室温保存して当日中に出検してください。

I－1

内容　0.8N過塩素酸 1 mL
採取量　1 mL
容器の貯蔵方法　冷蔵
有効期間　6ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

乳酸
ピルビン酸

- 血液1mLを採取し、5～6回ほど転倒混和したのち3000rpm5分間遠心分離し、上清をW容器に移し替えて凍結保存してください。

J－4

内容　培養ブロス
採取量　2～10 mL
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1 年

適用検査項目と採取上の注意点

一般細菌検査（血液､穿刺液）
培養･同定･感受性

- 材料を2～10mLを無菌的に採取し、そのまま室温保存してください。

H－2

内容　ヘパリンNa
採取量　5 mL
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　2 年

適用検査項目と採取上の注意点

アミノ酸分析

- 血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち室温保存してください。

J－1

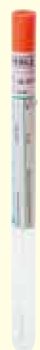
内容　変法アミーズ培地
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1 年

適用検査項目と採取上の注意点

一般細菌検査
　塗抹鏡検
　培養・同定・感受性
　真菌培養

- 滅菌綿棒で病変部をできるだけ多く採取し、培地内に挿入してください。
- 採取後は冷蔵保存してください。
（目的菌が淋菌、髄膜炎菌の場合は室温保存）

J－5



内容　――――
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　3 年

適用検査項目と採取上の注意点

百日咳菌核酸検出LAMP法

- 後鼻腔ぬぐい液は、フロックスワブにて採取したのち、速やかに付属のチューブに入れて、凍結保存してください。採取前のスワブ取出時やチューブ内挿入時には、スワブ先端部が汚染しないようにご注意ください。

H－3

内容　ヘパリンNa
採取量　10 mL
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　2 年

適用検査項目と採取上の注意点

D-LST

- 血液を採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、そのまま室温保存して当日中に出検してください。

J－2

内容　キャリーブレア培地
容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1 年

適用検査項目と採取上の注意点

一般細菌検査（糞便）
　培養・同定・感受性

- 採取後直ちにキャリーブレア培地に深く穿刺してください。
- 採取後は冷蔵保存してください。

J－6

内容　――――
容器の貯蔵方法　室温

適用検査項目と採取上の注意点

一般細菌検査
　塗抹鏡検
　培養・同定・感受性
　真菌培養
抗酸菌検査
　塗抹鏡検・培養・同定

細胞診

- 起床後最初に排痰されたものが最も検査に適した喀痰です。
- 排痰前に口中をきれいにすすいでください。
- 深く息を吸い込み大きな咳をすると痰が出易いです。
- 採取後は冷蔵保存してご提出ください。

採取容器の種類と採取上の注意点

J－7

内容	チオグリコレート培地
容器の貯蔵方法	冷蔵
有効期間	3ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

ヘリコバクター培養

- 胃または十二指腸粘膜組織を採取し、すみやかに── 線の深さまで挿入してください。
- 採取後は冷蔵保存してご提出ください。

K

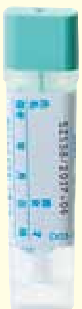
内容	─────
採取量	小指頭大
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意点

便虫卵（集卵、塗抹）
便脂肪定性
ウイルス抗原（便）

- 小指頭大の便を容器に入れ冷蔵保存してください。
- ウイルス抗原（便）は凍結保存してください。

K－2



内容	保存液
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意点

便中ヘモグロビン〔ラテックス法〕

- キャップを取る際は容器中の液がこぼれないように注意してください。（アルミシールはやぶらないでください）
- 採便スティックで便の表面をまんべんなく擦り取ります。便の量は採便スティック先端のみぞに埋まるぐらいが適量です。
- 採便スティックを容器へ戻し、パチンと音がするまでしっかりとキャップを締めて数回強く振ってください。
- 採取後は冷蔵保存してください。

K－3

内容	保存液
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意点

便中ヘモグロビン及び
トランスフェリン定量

K－4

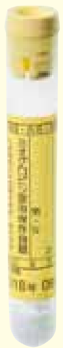
内容	保存剤
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	18ヶ月

適用検査項目と採取上の注意点

便中ヘリコバクターピロリ抗原

- 容器の先端部を便に2～3ヶ所刺して採取してください。
- 採便後は冷蔵保存してください。

L－5



内容	保存剤
採取量	4～8 mL
容器の貯蔵方法	常温暗所
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意点

尿ミオグロビン

- 尿を容器ラベルに印刷してある線まで入れ、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存してください。

L－7

内容	0.8N過塩素酸0.5mL
採取量	血清0.5mL
容器の貯蔵方法	冷蔵
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意点

ビタミンC

- 採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mlを専用容器に加え、十分撹拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をポリスピッツ（W）に移し替えて凍結保存してください。
- 遮光してください。

L－8

内容	0.5mL トリス塩酸緩衝液（pH7.5）
採取量	4～6 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	3年

適用検査項目と採取上の注意点

尿中Ⅳ型コラーゲン

- 早朝第一尿を採取し、スポイドで容器に移してよく混和させ、冷蔵保存してください。
- 凍結保存、および他の項目との重複依頼は、避けてください。（検体採取方法の詳細は、容器添付の説明書をご参照ください。）

M－1

内容	保存液
採取量	0.5mL
容器の貯蔵方法	冷蔵

適用検査項目と採取上の注意点

一般染色体（骨髄液）

- キャップを取らずに骨髄液1.0mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷室温（4～20℃）で保存して当日中に出検してください。

M－3

内容	CPD
採取量	7.5mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	1年（開封後1ヶ月）

適用検査項目と採取上の注意点

NK細胞活性

- 血液6mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま室温保存してください。
- リンパ球の少ない患者は多めに採血してください。
- キャップを取らないで無菌的に採血してください。
- 採血後当日中に出検してください。

P－1

内容	ヘパリンNa
採取量	3 mL
容器の貯蔵方法	室温
有効期間	2年

適用検査項目と採取上の注意点

エンドトキシン定量
（1→3）-β-D-グルカン

- キャップを取らずに血液3mLを無菌的に採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのちそのまま冷蔵保存してください。
- 他項目との重複依頼は避けてください。

P－2

内容	0.5%BSA含有ブイヨン ゲンタマイシン
容器の貯蔵方法	凍結
有効期間	容器表示

適用検査項目と採取上の注意点

ウイルス分離・同定

- 検体の採取方法は、91ページをご参照ください。

採取容器の種類と採取上の注意点

P－3

内容　安定化剤

容器の貯蔵方法　冷蔵
有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

透析液中エンドトキシン

- 透析液4mLを入れ、冷蔵保存して当日中に出検してください。

Q－5

内容　保存液

容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

頸管腟分泌液中癌胎児性
　　フィブロネクチン

- 滅菌綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌液を吸収させて容器に入れ、綿棒の軸を折り、蓋を閉めて凍結保存してください。

注）容器の中に入っている液は捨てないでください。

- 検体採取は腟洗浄前に行ってください。
- 精液が混入した検体は検査に適しません。

R－1

内容　保存液（粘液融解剤、アルコール

容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

細胞診検査（蓄痰）

- 起床後最初に排痰されたものが最も検査に適した喀痰です。
- 排痰前に口中をきれいにすすいでください。
- 深く息を吸いこみ大きな咳をすると痰が出易いです。
- 容器に痰を入れ、フタをしっかり閉め、15～20回強く振ってください。
- 痰は青線をこえないように注意してください。
- 以上のことを3～5日間くり返してください。
- 室温保存してご提出ください。

Q－1

容器の貯蔵方法　室温
有効期間

適用検査項目と採取上の注意点

単純ヘルペスウイルス
特異抗原〔FA法〕

- 検体の採取方法は83ページをご参照ください。

Q－6

内容　抽出液

容器の貯蔵方法　冷蔵
有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

子宮頸管粘液中
　　顆粒球エラスターゼ

- 検体の採取方法は53ページをご参照ください。

R－2

（北陸・関東）

（新潟）

内容　固定液

容器の貯蔵方法　室温
有効期間　容器表示

適用検査項目と採取上の注意点

細胞診（婦人科LBC）
HPVジェノタイプ判定

- 細胞採取に使用されるブラシの説明に従ってください。

Q－3

内容　――――

容器の貯蔵方法　室温
有効期間　1年

適用検査項目と採取上の注意点

水痘・帯状ヘルペス
ウイルス抗原〔FA法〕

- 検体の採取方法は83ページをご参照ください。

Q－11

内容　――――

容器の貯蔵方法　室温

適用検査項目と採取上の注意点

クラミジアトラコマチス
　　核酸同定検査分泌物
淋菌核酸同定検査分泌物

- 検体の採取方法は87ページをご参照ください。

S

内容　――――

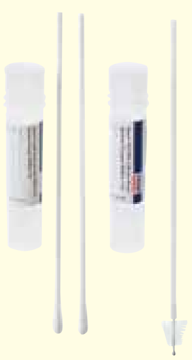
容器の貯蔵方法　室温

適用検査項目と採取上の注意点

病理組織検査

- 採取した組織片は乾燥させたりピンセット等で圧挫しないようにして、速やかに固定液に入れてください。
- 10％中性緩衝ホルマリンを充填してお使いください。

Q－4



内容　保存液

容器の貯蔵方法　室温

適用検査項目と採取上の注意点

HPV-DNA同定
（ハイブリッドキャプチャー法）

滅菌ガーゼ又は滅菌綿棒で子宮頸部(頸部管を中心に)の過剰な粘液を除去したのち、別の滅菌棒を子宮頸部に挿入して5～10回回転させ上皮細胞を採取してください。次に綿棒を慎重に引き抜き、専用容器に綿棒を差し込み、綿棒の柄を栓キャップがしっかり閉じられる長さに折り(またはハサミで)切り取ってください。
綿棒を差し込んだまま、栓キャップをしっかり閉めてください。

（注）コルポスコピーによる診断を行う場合は、酢酸処理する前に検体を採取してください。

Q－12

内容　――――

容器の貯蔵方法　室温

適用検査項目と採取上の注意点

クラミジアトラコマチス
　　核酸同定検査（尿、うがい液）
淋菌核酸同定検査（尿、うがい液）

- 検体の採取方法は87ページをご参照ください。

T

適用検査項目と採取上の注意点

一般細菌鏡検

細胞診検査
　塗抹後直ちに固定液等で固定してください。
血液像
　1～2枚ご提出ください。
特殊染色
　2～4枚ご提出ください。
血中原虫
　1～2枚ご提出ください。

- 塗抹標本作製後は室温で保存してください。

採取容器の種類と採取上の注意点

U

内容	――――
容器の貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意点

尿素呼気試験

- 検体の採取方法は71ページをご参照ください。

W

内容	――――
採取量	4mL
容器の保管方法	室温

適用検査項目と採取上の注意点

血清、血漿提出用

- 凍結保存が必要な項目については、この容器に移し替えて凍結保存してください。

MEMO

検　査 コード	検　査　項　目	検体量 mL	保存 条件	採取 容器	実施料 判断料	所要 日数	検査方法	基　準　値	備　考

まごころで健康を

アルプ Academic Laboratory Pharmacy

石川・福井・富山・新潟・群馬・埼玉・栃木・大連(中国)

株式会社 アルプ

事業内容　臨床検査／食品・環境衛生／調剤薬局

本　　社　石川県金沢市近岡町309番地　〒920-8217
TEL.076-237-4230／FAX.076-237-8027
URL. http://www.alp-grp.jp

●ラボラトリー

金　沢　石川県金沢市近岡町309番地　〒920-8217
TEL.076-237-4230／FAX.076-237-8027

長　岡　新潟県長岡市石動南町13-12　〒940-2117
TEL.0258-46-0069／FAX.0258-46-1190

新　潟　新潟県新潟市江南区亀田四ツ興野2-5-11　〒950-0151
TEL.025-383-3838／FAX.025-383-3839

前　橋　群馬県前橋市天川大島町1483番地1　〒379-2154
TEL.027-287-1177／FAX.027-287-1179

●研究所

アルプ病理研究所
アルプ食の安全研究所
アルプ医業経営研究所

●支　社

富　山　富山県富山市黒崎328-1　〒939-8214
TEL 076-422-4911／FAX 076-422-4916

●営業所

寺　町　石川県金沢市寺町2丁目8-2　〒921-8033

七　尾　石川県七尾市本府中町ワ部5番地6　〒926-0021

小　松　石川県小松市白嶺町1丁目34番地Ashiビル103号室　〒923-0866

福　井　福井県福井市和田東1-914　〒918-8237
TEL:0776-27-7755／FAX.0776-27-7756

高　岡　富山県高岡市戸出町3-15-38　〒939-1104

上　越　新潟県上越市木田2丁目7-4　〒943-0805

三　条　新潟県三条市旭町2丁目5番16号　〒955-0065

埼　玉　埼玉県本庄市寿１丁目23-6　〒367-0023
TEL.0495-21-3151／FAX.0495-21-3152

高　崎　群馬県高崎市菅谷町1069-1　〒370-3522

検査に関するお問い合せ

最寄りの地域ラボラトリーまたは営業所へご連絡ください。

PMA003E